
仮面ライダーオーズ×真・恋姫†無双 映司とアंकと恋姫達

西森

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーオーズ×真・恋姫†無双 映司とアंकと恋姫達

【Nコード】

N6894X

【作者名】

西森

【あらすじ】

人の欲望を食らう怪人・グリード。そして仮面ライダーオーズと火野映司と鳥系怪人のアंक。二人が力を合わせた時、新たな物語が始まる。（オーズファンには駄作かもしれませんがよろしくお願いします）

1「映司と謎のグリードと異世界」(前書き)

西森「どうもはじめての人ははじめまして西森です。通算五作目の作品です。本来なら響鬼の話を書く予定でしたが前に書いた電王の感想の中にオーズ×恋姫でという感想がありましたので書いてみました。完結までもっていきますのでよろしくお願いします」

1「映司と謎のグリードと異世界」

その日使う分のお金と履くパンツがあればいいという欲望のない人間・火野映司こと仮面ライダーオーズ

メダルを食らうことと1日一本アイスを食べること以外興味がほとんどない鳥系怪人のアンク

二人は元々目的は違うものの協力しあっていたが現在はある出来事があつてコンビを解消している。

これはそんな二人が再びコンビを組んで戦う物語である。

映司が住み込みで働いている多国籍料理店・クスクシエ

映司「よっと！」

パサッ！

今日もいつものように映司はパンツを天日干ししていると

映司「そういえば最近グリードが現れないな」

グリード…800年ほど前に生み出された怪人。アンクもその一人であり他に昆虫系怪人のウヴァ、猫系怪人のカザリ、水棲系怪人のメズール、重量系怪人のガメルがいる。

ところがここ最近グリードが現れていないのだ。

いや、現れていないのはおかしい。現れたと思われる場所に行ってみてもいないのだ。

それなら逃げただけだろうと思う人もいるだろうが何故か現れた場所には激しい戦いの跡があったのだった。

映司「これでグリードも残るはアंकだけか。大丈夫かなあいつ」

映司が心配していると

トゥルルーツ！

いきなり映司の携帯が鳴り出した。

ピッ！

映司が電話に出ると

鴻上「ハロー火野君」

電話の相手は鴻上ファウンデーションの会長である鴻上光生であった。

鴻上光生「メダルについて詳しい人物。何故かメダルを欲しがっている。オーズが戦闘や移動に使うメダルシステムを提供した人物。ケーキ作りが趣味

鴻上「忙しいかもしれないがちょっとうち（会社）に来てくれたまえ」

映司「はいっ！わかりました」

鴻上ファウンデーション

鴻上「よく来たね火野君。まあ座りたまえ」

映司「俺に何か用ですか？」

スッ

と聞きながらも座る映司

鴻上「本来なら後藤君にやつてもらうのだが彼は忙しいので直接君に来てもらうことにしたんだよ。里中くん、例のものを」

里中「はい会長」

里中エリカ：鴻上の秘書であり後藤の上司。仕事には時間主義な性格だが実力は高い。鴻上の作るケーキを食べさせられているが本人は辛党

スッ

そして里中は映司にケーキの入った箱とトランクを渡した。

映司「これ何ですか？」

映司が聞くと

鴻上「見ての通りケーキとトランクだよ。中身は後で見たまえ、今

日が君にとって新たな出会いを迎えるかもしれないからね」

映司「はあ？」

この時、映司は鴻上が何をいつているのか全然わからなかった。

そんなとき！

ピギーッ！ピギーッ！

タカカンドロイドがバツタカンドロイドを連れて現れた。

映司「何でこんなところに！？」

パッ！　スタッ！

そしてタカカンドロイドがバツタカンドロイドを床に落とすとバツタカンドロイドが起動した。

後藤「こちら後藤です！見知らぬグリードがアंकと戦っています！俺も戦いましたが敗れてしまいました！」

後藤慎太郎：仮面ライダーバースの装着者。真面目な性格

話を聞いた映司は

映司「アंकだって！？今すぐいかなきゃ！それじゃあ俺はこれで失礼します！」

ダダッ！

映司は鴻上からもらったケーキとトランクを持って走り出した。

映司が去った後

里中「会長、火野さんに話さなくてよかったんですか？」

鴻上「里中くん、それでは面白くないだろう。今日が火野君にとってハッピーバースデー！になるかもしれないのだから」

何かをたくらんでいる鴻上であった。

その頃、映司は

映司「え〜つと、自販機どこだ？…あつた！」

映司は黒い自販機のようなものを見つけると

チャリンッ！ ポチッ！

ポケットからメダルを入れて真ん中のボタンを押した。すると…

ガチャガチャンッ！

黒い自販機はいきなりバイクに変形した。

ライドベンダー…メダルを入れることによりバイクになったりカンドロイドを出することができる。ただしどちらにもメダルが必要

ブオンッ！ブオンッ！！

映司はバイクに乗り込んで先を急いだ。

映司「待ってるよアंक！」

その頃、現場では

ドドドンッ！

アंक「ちっ！メダルの気配を追って来てみればとんでもないやつだったとはな！？」

バササッ！

鳥系怪人であるアंक（完全体）がグリードから逃げていた。

アंक…鳥系怪人。映司と共に戦い、主にメダルを渡すサポートをしていたが現在はコンビを解消している。現在アंकのコアメダルは6枚

グリードの体の中枢はコアメダルで形成されており9枚揃えた場合完全体となる。

そのアंकが逃げている相手とは…

バアンッ！！

見たこともないグリードで鬼の二本角を頭から生やし、体は山伏のような鎧を身に纏い、足は獣の足で尻尾が9本ある黒いグリードだった。

？「他の奴らはすべて倒した！残るはアंक、お前だけだ！おとなしくコアメダルをよこせ！」

アंक「そうか。カザリ達を殺つたのはお前だな。誰がお前なんかにコアメダルを渡すかよ！」

ドドドンッ！

アंकは手から火炎弾を放つが

？「フンッ！」

バサッ！ シュンッ！

謎のグリードが手を振るつた瞬間、火炎弾が打ち消された。

アंक「ちっ！この化け物め！」

バサッ！

敵わないと感じたアंकは空を飛んで逃げようとするが

？「逃がしはしない！」

スッ！

謎のグリードが手をアंकの方に向けると

ギューーンッ！！

アंक「うわっ!？」

謎のグリードの手からまるで電気掃除機のような吸引力がアंकの体を吸い込もうとしていく。

ジャラジャラッ!

アंक「うおっ!？」

謎のグリードの吸引力はアंकの体を形成するセルメダルはおろかコアメダルをも吸い込んでいく!

？「これで終わりだアंक！」

謎のグリードがアंकに止めをさそうとした時

ブローッ!

？「なにっ!？」

ドカッ!!

？「ぐおっ!？」

いきなり現れたライドベンダーが謎のグリードにぶつかり

アंक「がはっ!？」

これによりアंकの吸引は阻止されたもののアंकの残りコアメダ

ルは2枚にまで減ってしまい

シュンッ！

アंकの体は完全体から人型である泉信吾の体へと変わった。

アंक「ちっ！コアメダルを大量に奪われちゃったな」

そんなアंकの元に

ブローッ！ キキィッ！

映司「アंक大丈夫か！？」

ライドベンダーから降りた映司が現れた。

アंक「映司、何で来やがった！」

アंकが言つと

映司「何でって、お前を見捨てられるわけないだろ。だってお前は
……」

映司が最後まで言おうとすると

ムクッ！

？「おのれ！」

謎のグリードが立ち上がった。

映司「アंक！？何だよあいつ！？」

アंक「知るか！メダルの気配を探っていたらあいつに出くわしたんだよ！それより映司、あいつは力ザリ達のメダルを持ってるぜ！」

映司「えっ！？じゃあ力ザリ達がいなくなったのってあいつの仕業！？」

驚く映司であった。何故なら力ザリ達だって弱くはないはずなのにそれを倒すこいつは一体！？

？「お前から多数のメダルを感じる。俺によこせ！」

謎のグリードは映司の持つメダルホルダーを狙っていた。

映司「悪いけどこれをやるわけにはいかないよ」

パカッ！

そして映司がメダルホルダーからメダルを取り出そうとすると

？「今だ！」

スッ！ ギュイーンッ！

パッ！

映司「あっ！？」

映司が油断した隙にメダルホルダー（多数のメダル入り）は謎のグ
リードに奪われてしまった。

？「ありがとよ」

映司「しまった！？」

アंक「お前バカか！ みすみす取られやがって！」

アंकが映司を責めていると

？「これでこの世界に用はなくなった。さらばだ」

ゴゴゴッ…！！

謎のグリードは空間に穴を開けてどこかに行こうとする。

アंक「待てっ！俺のメダル返しやがれ！」

映司「待てっアंक！？」

謎のグリードからメダルを取り返すため追いかけるアंकとアंक
を追いかける映司

ガシッ！ ガシッ！

そしてアंकが謎のグリードの手をつかみ、映司がアंकをつかん
だ瞬間

キューインッ！

アंक「なっ！？」

映司「うわっ！？」

二人は空間に吸い込まれてしまった。

しばらくして

映司「うゝん…」

映司が目を覚ますと

映司「あれはライドベンダー！？」

近くにはライドベンダー（バイクモード）がありそして

映司「アंक！？」

アंक「う…」

アंकまで近くに倒れていた。

アंक「くそっ！コアメダルだけでなくセルメダルまで奪われたから回復が遅いぜ。おい映司、ここどこだ？」

映司「何言っただよお前、ここは街角…」

だがあらためて映司が回りを見ると

ガラーンッ！

回りは荒野になっていた。

映司「ここどこ？」

アंक「知るか！」

再びもめ出す二人。だが、悪いときに悪いことは重なるものである。

ザッ！

？「おい、そこのお前ら」

映司「えっ？」

くるっ

声に反応した映司が声のした方を向いてみると

バァンッ！

そこには黄色いバンダナをした三人組がいた。

アニキ「妙な格好しやがって」

チビ「金目のものを置いてきな！そうすりゃ命だけは助けてやるぜ！」

デク「だな〜！」

ジャキンツ！

三人組が脅すために剣を抜くと

映司「この剣よくできてますね。まるで本物みたいだ」

剣に興味を持つ映司。それを見た三人組は

アニキ「バカ野郎！ 本物に決まってるだろうが！」

チビ「痛い目みたくなけりやさっさと金目のものをよこしな！」

デク「だな〜！」

ジャキンツ！

三人組は更に映司に剣を突きつける。

映司「もしかして強盗！？」

アंक「今頃気づいたのかよ！鈍いのは相変わらずだな」

アニキ「さっさと金目のものをよこせ！」

スッ！

更に映司に剣を突きつける三人組

映司「わかりました渡しますから許してください!？」

スッ!

そして映司がポケットから出したものは

パンツ!

一枚のパンツだった。

映司「俺にとっては金目のものです!だから許して…」

もちろんパンツなんかで三人組が許すはずがなく

三人組『ふざけるな!っ!!』

逆に怒らせてしまった。

映司「ひいつ!?!アंकどうしよう!?!」

アंक「知るか!」

開始早々、危機に陥る二人であった。

その頃、鴻上ファウンデーションでは

鴻上「そろそろ火野君達はあっちについた頃かな? 出会いは新たな誕生日となる。頼んだよ火野君、私が渡した物を十分に活用したまえ」

と言いながら今日もケーキを作る鴻上であつた。

1「映司と謎のグリードと異世界」(後書き)

「COUNTS MEDAL」

現在、映司とアンの持つメダルは

タカ
2

2「関羽と御遣いとコンビ復活」(前書き)

前回の三つの出来事

一つ、アंकを除くグリード達が突然喪失

二つ、アंकが謎のグリードに襲われる

三つ、メダルを奪った謎のグリードを追いかけた映司とアंकが異世界に飛ばされいきなり賊に襲われる

2「関羽と御遣いとコンビ復活」

アニキ「ぶっ殺してやるぜ！」

ブオンツ！！

アニキの振るった剣が映司に降り下ろされる。

映司「ひっ！？」

サッ！

それをなんとか紙一重で避ける映司。

映司「アंक、お前も見えてないで何とかしろよ！」

映司はアंकに言うが

アंक「ふざけるな！何でこの俺がお前を助けなくちゃならないんだ！」

以前はコンビを組んでいたこの二人はわけあって今は別離中なのだ。

アंक「（それに今、俺のメダルは2枚しかないからな）」

謎のグリッドにメダルを奪われてしまいコアメダルが2枚しかない今のアंकは火炎弾を撃つことも、空を飛ぶこともできなくなり、左腕一本しか変身できないのだった。

チビ「この金髪野郎！何余所見してんだよ！」

ブォンッ！！

アंकに目をつけたチビが剣を振るってくる。

アंक「ちっ！」

スッ

アंकは構えようとするが間に合わない！そんなとき！

映司「アंक、危ない！」

ドンッ！　ズバッ！

映司「いたっ！」

映司がアंकを突き飛ばしてアंकを庇った映司が逆に斬られてしまった。

アंक「お前、何バカなことしてやがる！」

アंकが映司に対して感謝どころか激怒すると

映司「たとえ今は分かれていても一時はコンビを組んだお前を見捨てるわけないだろう。だってお前は俺にとって……」

映司が最後まで言おうとすると

アニキ「二人仲良くたばりな！」

ブォンッ！！

アニキの剣が二人に降り下ろされる。

まだ2話目なのにもう完結なの！？と思われたその時

？「そこの賊よ、待てい！」

何処からか声が聞こえてきた。

アニキ「誰の声だ？」

きよろきよろっ

賊達が辺りを探していると

？「その者に手を出すことは私が許さんぞ！」

ダダダッ！

誰かが映司達の方に向かって走ってきた。

映司「あれは女の子！？来ちゃ危ないよ！」

映司は向かってくる人が女の子だとわかり警告するが

アニキ「女が男に齒向かうなんていい度胸してるじゃねえか！」

チビ「アニキ、美人だったら捕まえて今晚のおかずにしめしうや

」

デク「だな」

賊達は相手が女の子でも手加減する気は全くない。

アニキ「野郎共！いくぜ！」

チビ・デク『おおーっ！』

ドドドオーッ！！

賊達は一斉に声を出しながら女の子の方に向かっていく。

映司「ああ、もう見てられない！」

パチッ

さすがに女の子が男にやられるのを見たくない映司は目を閉じる。

ドカッ！ドカカッ！

映司「（ああ、俺達を助けに来たばかりに女の子が痛い目に…）」

」

聞こえてくる攻撃される音に映司は驚く。

だがちらっと目を少し開けてみると

賊達『助けてくれ〜！』

映司「えっ！？」

ボコボコにされていたのは賊達であつた。

一方女の子の方は

？「口ほどにもない奴らめ！とつとこの場から立ち去れ！」

ドンッ！

三人の賊相手に全くの無傷だった。そして女の子が手に持っていた偃月刀が地面に落ちて鳴り響くと

賊達『失礼しましたーっ！』

ビュンッ！

賊達はあるという間に走り去っていった。

映司「なんだつたのあいつら！？」

アंक「俺が知るか！」

二人が驚いていると

スッ

女の子が映司達に近づいてきた。

そして…

？「お初にお目にかかります。天の御遣い様」

ぺこりっ

女の子はいきなり映司とアंकに頭を下げた。

映司「えっ！？」

アंक「っていうよりお前誰だ？」

アंकが聞くと

関羽「申し遅れました。我が名は姓は関、名は羽、字は雲長でございます」

読みづらいがつなげると関羽雲長である。

関羽が言うと

映司「関羽ってもしかしてあの三國志の！？」

関羽「失礼ですが三國志とは一体？」

映司は多少なりとも三國志の知識があつた。それによると関羽は髭面の男として有名な人物。だが目の前にいる関羽はそれとは正反対のかわいい女の子である。

映司「（ああっ！たまたま名前が一緒なだけか）助けてくれてありがとう俺は火野映司。こっちはアंक」

とりあえず映司はややこしいので三国志の関羽と同じ名前というのとでまとめることにした。

関羽「はじめましてでは早速なのですが…」

関羽が最後まで言おうとすると

？「愛紗ーっ！」

ドドドオーツ！！

何処からか声が聞こえてきて遙か彼方から誰かが土煙を舞いあげてこちらに向かってきていた。

しばらくすると

？「愛紗ーっ！」

ドンッ！

赤髪の小さな女の子が関羽に抱き（タツクル？）ついてきた。

関羽「お前は鈴々！？」

飛ばされた関羽はぶつかってきた女の子をよく見て確かめる。

鈴々「一人で先にいくなんてずるいのだ！鈴々も天の御遣いに会いたいのだ！」

鈴々という女の子が関羽に言うと

関羽「何を言っているのだ！だいたいお前には姉上の護衛を頼んだであらう！」

鈴々「桃香お姉ちゃんなら鈴々のすぐ隣に…」

くるっ

鈴々という女の子はすぐ隣を見るが

ぽつんっ

当然のごとく誰もいるはずがない。

関羽「鈴々！姉上を置いて勝手に来たな！」

鈴々「桃香お姉ちゃんが遅いのがいけないのだ！」

鈴々という女の子が言うと

映司「まあまあ二人とも、喧嘩はダメだよ」

映司が止めに入る。

鈴々「にやつ？お兄ちゃんは誰なのだ？」

関羽「鈴々、この方が占いで言われていた天の御遣い様だ」

関羽が言つと

鈴々「にやにやーっ！？御遣いのお兄ちゃんよろしくなのだ！鈴々は張飛翼徳なのだ！」

映司「（今度は張飛！？変わった名前が多いな）よろしく俺は火野映司。んでこっちがアंक」

鈴々「アニコ？」

アंक「その呼び方で言うな！　どっかの奴を思い出しちまうぜ！」

アंकは一度TVにてアニコと呼ばれたことがあるのだ。

みんなが話し合っていると

？「愛紗ちゃん！鈴々ちゃん！」

遙が彼方からまた誰かがやって来た。

映司「今日はよく人に会う日だな！？」

しばらくして声の主である女の子がやって来た。

？「ハアハア…ひどいよ鈴々ちゃん、私を置いて先にいくなんて」

声の主である桃色の髪の子が息を切らしながら言つと

鈴々「ごめんなのだ桃香お姉ちゃん」

すぐに謝る鈴々という女の子

桃香「ところで愛紗ちゃん！天の御遣いさんは見つかった？」

桃香という女の子が聞くと

関羽「姉上、あちらにおられるの方が天の御遣い様です」

スッ

関羽は映司とアंकを指差した。

桃香「はじめまして御遣いさん！私は劉備玄德ですよろしくね」

ぎゅっ！

桃香という女の子が映司の手を握ると

映司「こ…こちらこそ！？」

いきなりすることに驚く映司だった。

アंक「それよりお前らここがどこだか知ってるなら教えろ」

アंकが乱暴口調で聞くと

関羽「この場所ですか？ここは幽州の五台山の麓ですがそれが何か

？
「

関羽が言つと

映司「えっ！？ここって夢見町（オーズの舞台）じゃないの！？」

関羽「夢見町？何ですかそれは？」

映司「夢見町じゃないの！？あれっ？そういえば天の御遣いってなんなの？」

桃香「今度は私が話すよ。天の御遣いってのはね」

桃香という女の子の話によると管輅という占い師が

『流星が落ちた地に天の御遣いという乱世を静めるものあり』

桃香「って言ってたけどさ」

桃香という女の子が言い終えると

アंक「フンッ！あてが外れたようだな。俺達はそんな乱世を救うなんて奴じゃないぞ」

アंकが言つと

桃香「（ガーンッ！？）」

ものすごいショックを受ける桃香

映司「アंक！たえそうでもはつきり言っなよ！」

アंक「実際事実だろ。メダル集めが目的の俺とパンツしかいらないお前に何ができる？」

映司「それはそうだけど…！？」

ホントはもう一つできることがあるのだが今はそれができないのだった。

映司が言っつと

桃香「ああ、天の御遣いさんがいれば私の夢を手伝ってくれると思っただのに…」

映司「どういうこと？」

映司が聞くと

桃香「私の夢はね、戦いがなくなってみんなが笑顔で過ごせる世界を作りたいの！」

アंक「フンッ！そんな世界がつかれるわけがな…」

映司「余計なこと言っつなよ！いい夢だね応援するよ」

桃香「ありがとう」

桃香が言っつと

？「その欲望を解放しろ」

バンッ！

映司「お前は！？」

いつの間にか謎のグリードが桃香の後ろに立っていた。

桃香「えっ！？誰なの！？」

？「欲望を解放しろ」

シュッ！

そして謎のグリードが桃香の額にセルメダルを投げると

ウィンッ！

桃香の額からメダル挿入口が出現し、

カチャンッ！

挿入口にセルメダルが入った。すると…

ズズズッ！

桃香の後ろから黒のヤミーが生まれだした。

ヤミー…人間の欲望から生まれた怪物。欲望を叶えて体内のセルメダルを増やす。グリードによって様々な種類がいる。

そして桃香から生まれた黒のヤミーに

？「お前の欲望はなんだ？」

謎のグリードが質問すると

黒ヤミー「俺の欲望は…世界を平和にすること。そのためには…」

ピキピキッ！

ヤミーが言う度に体がひび割れていき

バキーンッ！

黒鬼ヤミー「人間の抹殺だ！」

黒の体から黒鬼ヤミーが生まれた。

アंक「ああいうタイプは珍しいな」

映司「解析してる場合かよ！ヤミー倒さないと」

映司はヤミーを倒すべく飛び出そうとするが

アंक「待て映司、オーズになれないお前に何ができる」

映司「で…でも」

悩む映司。だがそんなとき

関羽「貴様！姉上から離れる！」

鈴々「お姉ちゃんから離れるのだー！」

ブオンツ！！

関羽と鈴々が黒鬼ヤミーに攻撃を仕掛ける。だが…

ガシッ！！

黒鬼ヤミー「そんな攻撃効かない。平和のためお前らを殺す！」

関羽「くっ！？」

鈴々「はなせなのだー！」

二人は武器を捕まれているためすぐ避けることができない。

映司「ああどうしよう！？メダルさえあれば」

己の無力さにおどおどする映司

アंक「フンツ！お前がメダルホルダーを奪われるから…」

アंकが最後まで言おうとすると

映司「あぁーっ！？思い出した！」

ガサガサッ！ バッ！

映司は懐を探って取り出したのは

バアーンッ！

一枚のパンツだった。

アंक「こんなときにパンツ出してる場合か！」

アंकが突っ込むと

映司「違うって！いつかまたお前と組んだときのために…」

ガササッ！

パンツを探って何かを探す映司。そして取り出したのは

チャリンッ！

映司「この2枚だけパンツの中に入れておいたんだ」

パンツの中にはトラとバッタメダルが入っていた。

アंक「お前、コアメダルをパンツに入れやがって」

アंकが怒ろうとすると

映司「そんなことよりアंक、また俺とコンビを組んでくれ！お前の力が必要なんだ。俺はお前にメダルをやるからお前は俺をサポートしてくれ！」

映司が言つと

アंक「仕方ない！」

シュッ！

アंकは自分の体の一部であるタカメダルを一枚取り出すと

アंक「絶対取られるなよ！」

シュッ！

メダルを映司に渡した。

パシッ！

うまくメダルを受け取った映司は

カチャカチャンッ！

オーズの変身に必要なオーズドライバーに三枚のメダルをセットする。

そして カチャッ！ キンキンキンッ！

オーズドライバーを右ななめ上にしてオースキャナーにメダルを当てて

映司「変身！」

映司が叫ぶと

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

シュシュンツ！

映司の周りをメダルが映司を守るように回り

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

（音が違うというツツコミは控えてください。）

ジャンツ！

映司の体は仮面ライダーオーズ・タトバコンボへと変身した。

2「関羽と御遣いとコンビ復活」(後書き)

↓ COUNTS MEDAL ↓

現在、オーズの持つメダル

タカ 2

トラ 1

バッタ 1

黒ヤミーの特徴

どんな欲望にも係わらず破壊や殺人を目的とする。
体内のセルメダルで屑ヤミーを生み出せる。

オーズの専用道具については後に説明しますが、今すぐ知りたい人はオーズで検索するかDVDを見てください。

3「オーズとパンツとケーキ」（前書き）

前回の三つの出来事

- 一つ、賊に襲われそうになった映司とアंकを関羽が救出
- 二つ、桃香の欲望から黒鬼ヤミーが出現
- 三つ、映司とアंकが再びコンビを組んでオーズに変身

3「オーズとパンツとケーキ」

黒鬼ヤミーを倒すため再び共闘してコンビを組むことにした映司とアンク

そしてアンクからメダルを受け取った映司は

カチャカチャンッ！

メダルをオーズドライバーにセットして

カチャンッ！

ドライバーを右ななめ上に傾け

キンキンキンッ！

腰にあるオースキャナーでメダルを交差させると

映司「変身！」

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

映司の周りをメダルが守るように回り、タカ・トラ・バッタのマークが映司の前に集まると

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンッ！

映司は仮面ライダーオーズへと変身した。

オーズ「よし！いくぜ」

ダダッ！

オーズに変身した映司は黒鬼ヤミーに向かっていく

アंक「フンッ！さつさとやつつけてメダルを稼げ」

その頃

関羽「くっ！？」

鈴々「離すのだ〜！」

武器を黒鬼ヤミーに捕まれて動けない二人

どう考えても武器から手を離せば逃げられるのだが愛する武器を二人は離すことはなかった。

黒鬼ヤミー「世の中を平和にするには…人類が滅びてしまう方がいい！」

むちゃくちゃな理由である。

黒鬼ヤミー「お前達もくたばれ」

スッ

黒鬼ヤミーが二人を倒そうと手を向ける。

だが、その時！

オーズ「そりゃっ！」

バツ！

オーズが正面から向かってきて

ドカツ！！

黒鬼ヤミー「ぐほっ！？」

黒鬼ヤミーを蹴り出した。

ズザザーッ！

オーズの蹴りに飛ばされて黒鬼ヤミーはつかんでいた武器も離してしまう。

オーズ「二人とも大丈夫！？」

オーズが関羽と鈴々に近寄ると

関羽「大丈夫ですが…」

鈴々「あんたは誰なのだ？」

いきなり現れたオーズに驚く二人

オーズ「俺は火野映司だよ　そしてこの姿は仮面ライダーオーズ！
正義の味方さ！」

声で正体が映司だと確信した二人は

関羽「かめんらいだー？」

鈴々「何だかわからないけどカッコいいのだ！」

それぞれで反応するのであった。

その頃

？「まさかまだコアメダルがあったとはな！？黒鬼ヤミーよ、そいつからコアメダルを奪い取れ！」

黒鬼ヤミー「わかった！」

バツ！

謎のグリードに命令されてオーズに襲いかかる黒鬼ヤミー

オーズ「おつといけない！」

バツ！

黒鬼ヤミーが向かってくるのに気付いたオーズはすぐさま構える。

黒鬼ヤミー「おらっ！」

オーズ「ハッ！」

ガシッ！

取っ組み合いになる二人

黒鬼ヤミー「そりゃーっ！」

ブオンッ！！

オーズ「うわっ！？」

だが力は黒鬼ヤミーの方が上のようにオーズは投げ飛ばされてしま
う。

オーズ「ひっ！？」

バンッ！

しかも飛ばされた先には大岩がありこのままではオーズはぶつかっ
てしまう。

そんなとき！

ジャキンッ！！

オーズは両腕のトラアームからトラクローを展開させると

オーズ「ハッ！」

ズバッ！ ドッカーンッ！

オーズは大岩をトラクローで切り裂いた。

黒鬼ヤミー「おのれ！こうなれば……」

ゴゴゴッ……！！

黒鬼ヤミーが力み出すと

ヌバアッ！

黒鬼ヤミーからミイラのような怪物が生まれた。

アंक「あいつ！？屑ヤミーまで出せるのか！？」

屑ヤミー「オーズの世界における戦闘員的存在。欠けたセルメダルで作ることが可能。戦闘力は低く、今のアंकですらも倒せる。（本編ではウヴァが使用）」

黒鬼ヤミー「いくがよい！」

黒鬼ヤミーが屑ヤミーに命令すると

屑ヤミー達『ギギギ……』

屑ヤミー達はオーズ目掛けて襲ってきた。

オーズ「くっ！？数が多すぎるよ！？」

他のメダルがあれば何とかなるのだがあいにく今は三枚しかない。

オーズにピンチが迫ったその時！

ズバツ！

屑ヤミー「ギッ！？」

関羽「…」

屑ヤミーは関羽に斬られた。

関羽「オーズ殿、微力ながら助太刀いたします！」

鈴々「鈴々も手助けするのだ！」

オーズ「二人ともありがとう！じゃあ屑ヤミーの方はお願いね！俺はあっちの…」

オーズは黒鬼ヤミーを見ると

オーズ「黒鬼ヤミーをやるからさ！」

ジャキンッ！

オーズは腰からオーズの世界の剣であるメダジャリバーを取り出した。

オーズ「うおーっ！」

ダダッ！

メダジャリバーを構えながら黒鬼ヤミーに突っ込むオーズ！

屑ヤミー「ギギギッ…」

しかしそれをみすみす見逃す屑ヤミー達ではない！屑ヤミー達はオーズの行く手を阻もうと動くが

関羽「お前達の相手は我々だ！」

鈴々「鈴々がやつつけてやるのだ！」

行く手を関羽と鈴々に阻まれた。

そしてオーズは

オーズ「せいやっ！せいやっ！」

ズババッ！

メダジャリバーで黒鬼ヤミーを切りつけるが

黒鬼ヤミー「そんな攻撃はきかん！」

メダジャリバーはセルメダルをセットすることで威力を発揮する。
今のメダジャリバーにはセルメダルがセットされていないのでたいした威力ではないのだ。

オーズ「アंक！セルメダル貸してくれ！」

オーズはアंकにセルメダルを出すよう言うが

アंक「出せるかバカが！」

今のアंकは体を構成するセルメダルの数が少ないので出さなかった。

アंक「遊んでないでさっさと決めちまえ！」

アंकが言うと

オーズ「別に遊んでいる訳じゃないのに！仕方ない！」
スッ

オーズは腰からオースキャナーを取り出すと

キンキンキンッ！

オーズドライバーにスキャンさせ

ドライバー『スキヤニングチャージ！』

ドライバーから音が出た瞬間

バチバチッ！

オーズの脚がバツタ脚に変わり

オーズ「ハッ！」

ビヨンッ！

驚異的なジャンプ力で高く跳ぶと

パパパッ！

黒鬼ヤミーまで通る道に赤・黄・緑のリングが出現し、

スススッ！

オーズがリングの道を通ると

オーズ「せいやーっ！」

キーンッ！！

オーズが必殺のタトバキックを繰り出した。

（迫力がない！、全然違う！と思う人もいますがそれは西森の文才不足が原因です）

黒鬼ヤミー「なっ！？」

スッ

そしてオーズは

ドッカーンッ！！

タトバキックを黒鬼ヤミーにぶち当てた。

黒鬼ヤミー「ぐおーっ！？」

キーンッ！ドッカーンッ！！

ぶっ飛ばされた黒鬼ヤミーは爆発した。

その衝撃で

ジャララーッ！

大量のセルメダルが辺りにばらまかれた。

アंक「セルメダルは俺がいただくぜ！」

シュシュシュッ！

空から落ちてくるセルメダルを拾いまくるアंक

？「ちっ！まさかこの世界にオーズが現れるとは予定外だったな。
オーズよ、また会おう」

スッ

そして謎のグリードはどこかへと消えていった。

パッ！

桃香「あれっ！？私どうしてたの？」

先程まで動いていなかった桃香が動き出した。

どうやら謎のグリードのヤミーを出した人間は動きが止まるようだ。

シュンツ！

そしてオーズの変身が解けて映司に戻ると

関羽「やはり御遣い様でしたか！？」

鈴々「お兄ちゃんすごいのだ！」

桃香「何があつたの！？」

驚かれる映司であつた。

しばらくして

桃香「私から怪物が出たなんて！？」

平和を望む自分が破壊活動をする怪物が出たことにショックを受ける桃香だった。

映司「落ち込むことないよ！誰にだって欲はあるんだからさ」

アंक「まあ平和にしようなんて欲は珍しいがな」

欲望はヤミーを産み出すもの、くしたいというのも立派な欲なのだ。

桃香「でも私から怪物が出たなんてショックです」

しくしくっ

泣き出す桃香に

スッ！

映司は一枚の布を渡す。

映司「泣かないでよ。俺に手伝えることがあるなら何だっけるよ。何だか訳がわからないけど天の御遣いにだってなるからさ」

映司が言つと

アंक「おい待て映司！なに勝手に決めてやがる！俺達は奪われたメダルをあのグリードから奪い返すだけでいいんだ！天の御遣いなんかには構ってられるか！」

アंकが怒鳴ると

映司「アंक、俺達はこの世界について何も知らないんだぜ。ここは協力してでも彼女達にこの世界についてもらった方がいいだろ」

アंक「…確かにそうだな（この娘達にはまだまだ利用できるからな。せいぜいメダル集めに利用させてもらおうとするか）」

アंकは何かを企んでいた。

そして

スッ

桃香は映司から布を受けとると

桃香「ありがとうございます御遣い様」

ふきふきっ

涙を布で拭くのだが

桃香「んっ？」

布がおかしいと感じた桃香が布を広げてみると

バサッ

桃香「これって／＼／」

映司「あっ！？」

映司はハンカチを渡したつもりだったが

渡したものは想像がつく人もいると思うが…

ジャーンッ！！

パンツだった。

映司「ごめんなさい！」

サッ！

映司は桃香からパンツを奪い取ると

ドンッ！ ドゴッ！

うつかり手が当たってライドベンダーを倒してしまい

パカッ！

その拍子にライドベンダーの荷物入れが開いてしまった。

そしてその中には

映司「えっ！？」

ぐちゃぐちゃになった鴻上会長のケーキが入っていたのだが

ケーキには

『HELLO 恋姫世界』

と書かれていた。

アंक「ちっ！あの野郎何か知ってやがったのか」

その頃、鴻上ファウンデーションでは

鴻上「それではあとは頼むよ貂蟬くん」

？「んもう光正ちゃんったら 貂蟬ちゃんって呼んでくれなきゃ嫌
よん」

ピッ！

その先が出る前にバッタカンドロイドのスイッチを切る鴻上だった。

鴻上「さて新たな外史の始まりを祝おうじゃないか！」

3「オーズとパンツとケーキ」(後書き)

ヤミーファイル

黒鬼ヤミー

桃香の『世の中を平和にする』という欲望(願い)から生まれたヤミー。力が強い

4「真名と頑固と存在感」

映司「そういえば前から気になっていたんだけどさ」

関羽「どうされました御遣い様？」

映司「その御遣い様ってやめてくれない。あのさ、張飛ちゃんの名前を関羽さんは違う名前と呼んでいただけ何で？」

映司はさっきから張飛を鈴々と呼ぶ関羽が気になっていた。

関羽「説明が遅れましたね。私が呼んだのは真名まなというものです。真名とは神聖なる名でたとえ知っていても許可をもらわなければいけません。もし言えば首を切られても文句を言えません」

それを聞いてぞくつ！？と驚く映司だった。

アंक「映司、首の皮一枚で繋がったな。もし言ったら切られてたぞ」

関羽「そんな！？御遣い様を切ったりなぞしません！では話しておきましょう。私の真名は愛紗です」

鈴々「鈴々の真名は鈴々なのだ」

桃香「私の真名は桃香だよ」

みんなから真名を授けられた映司は

映司「ちよつと待つてよ！？そんな大事なものを俺に授けていいの！？もしかしたら君達を殺すかもしれない…」

愛紗「それはありえません！人の目を見ればどのような人か一目でわかります。御遣い様は…」

映司「ダメだよ！御遣い様なんて呼ばないでっば！俺のことは普通に映司と火野って呼んでいいからさ」

だが

愛紗「そうはいきません！」

桃香「御遣い様を名前で呼べないよ」

桃香達も中々認めてくれないので

映司「わかった！君達が俺を名前で呼ばないのなら俺も君達を真名で呼ばない！」

愛紗「なっ！？」

普通それはおかしいのだ。何故なら真名を授かりながら真名を言わないなんて侮辱に等しいのだから

アंक「あきらめな前ら、映司はこうなったら何いっても聞かないぜ」

映司をよく知るアंकだから分かることだ。

愛紗「わかりました。そちらがその気ならばこちらもやりますよ御遣い様」

愛紗もなかなか頑固だったりする。

映司「それよりさ、俺達はどこに向かつてるの？」

映司が桃香に聞くと

桃香「私の友達で太守をやっている公孫賛っていう人のところだよ。せつかくだから雇ってもらおうと思ってね。でもまだまだ先は長いから大変だな」

映司「へえ……」

映司が運んでいるライドベンダーを使えばもっと早く着くのだが、あいにく一台しかなくバイクの五人（映司、アंक、愛紗、鈴々、桃香）乗りはいくらなんでも危険である。

そして一行は公孫賛の城に向かう。

一日目の夜

テントや寝袋なんて持っているはずがなく当然のごとく野宿をしていると

映司「そういえば鴻上さんがくれたトランクの中って何だろう？」

映司はこの世界に来る前に鴻上から渡されたトランクの中身が気になっていた。

アंक「どうせあいつのことだからフォークとかくだらないもんだ
ろ」

映司「そうかもしれないけどさ中身が気になるじゃん」

パカッ！

そして映司がトランクを開けると

映司「これって！？」

アंक「あんっ？」

ジャーンッ！

トランクの中身はカンドロイドの詰め合わせだった。

映司「よかったなアंक、これでメダル使わずにカンドロイドが使えるぞ」

アंक「まあ少しは役に立ちそうだな」

今まではライドベンダーを自販機に戻してからセルメダルを入れていたためどうしてもセルメダルを消費するのだった。（おまけに再びバイクに戻すときもセルメダルが必要）

映司が喜んでいると

ガバッ！

鈴々「お兄ちゃんさつきからうるさいのだ！」

寝ていた鈴々が起きてきて文句を言った。

映司「あっ！？ゴメンね張飛ちゃん」

鈴々「鈴々はお兄ちゃんって呼んでるから鈴々って呼んでほしいのだ」

鈴々が言つと

映司「確かにそうだね鈴々ちゃん」

鈴々「にやはっ」

アंक「ガキだな」

そして一行が旅を続けてようやく

バアンツ！！

桃香「とうとう公孫贄さんの城が見えてきたよ！？」

一行は公孫贄の城にたどり着いた。

城内

ダダッ！

桃香が玉座の間へと続く道を走り抜ける。

バタンッ！

そして桃香は扉を開けると

桃香「白蓮^{ばいれん}ちゃんいる？」

だが玉座の間にいたのは

？「いきなり誰ですか？」

白い服を着た水色の髪の女性がいただけであった。

桃香「あれっ？白蓮ちゃんどこ？」

きよろきよろっ

桃香は辺りを探すが見当たらない

ダダッ！

愛紗「桃香様どうされましたか？」

そこに愛紗達も駆け寄ってきた。

桃香「玉座の間にいると思っていた公孫釐さんがいないんだよう！？」

鈴々「透明人間なのか！？」

映司「そんなわけないでしょ！とりあえず探してみよう」

サササッ！

映司達も加わって探すがアंकは一人サボっていた。

映司「おいアंक！お前もサボってないで公孫賛さん探せよ！」

映司が言つと

アंक「フンツ！公何とかかどうか知らないが扉の裏で誰かがつぶれてるぜ」

映司達「えっ！？」

そして映司達が恐る恐る扉の裏側をみると

ぺら〜ん

そこには潰された誰かがいた。

桃香「白蓮ちゃん！？」

映司「えっ！？ってことはこの人が公孫賛さん！？」

この人こそ桃香が会いたがっていた公孫賛（真名を白蓮）である。

何故彼女がこうなっているかというと

公孫賛が出ようとした時、いきなり桃香が扉を開いて現れたため扉に潰されたのだった。

白蓮「いたた」

そして潰されて気絶していた公孫賛が目を覚ますと

桃香「白蓮ちゃん大丈夫!?」

白蓮「お前は桃香、そうだ!私が外にいかうとしたら急に扉が開いて裏側に潰され…って趙雲!お前は知っていただろうが!」

白蓮は白い服を着た水色の髪的女性を指差して注意すると

?「いや、白佳(公孫賛の字)殿は影が薄いから気づきませんでしたよ」

女性は一瞬を切ろうとするが

映司「それにしてもアंक、よく気づいたな」

アंक「当たり前だろあの白い服を着た奴が扉をじっと見てたからな」

白蓮「お前な!!」

桃香「まあまあ白蓮ちゃん落ち着いて!?それよりお願いがあるんだけどさ」

白蓮「お願い?」

桃香は白蓮に話すと

白蓮「なるほどそういうことならしばらく我が軍に置いてやるよ」

桃香「ありがとう白蓮ちゃん」

白蓮「なあに、私とお前は同じ教室で学びあった仲ではないか」

白蓮が言うと

桃香「えっ？私と白蓮ちゃんって同じ組だったっけ？同じ私塾だったのは何となく覚えてるけどさ」

桃香にすら忘れられていた白蓮だった。

白蓮「まあいい、それより桃香がつれているのは誰だ？」

白蓮が映司達を指差すと

愛紗「申し遅れました。我が名は関羽」

鈴々「鈴々は張飛なのだ」

映司「俺は火野映司。んでこっちがアंक」

アंक「フンッ！」

映司達の自己紹介が終わると

白蓮「私はこの城の主、公孫贄だ。そしてこつちが客将の…」

趙雲「お初にお目にかかる。我が名は趙雲と申す以後お見知りおきを」

白蓮達も自己紹介をした。そして

桃香「折角だからさ城の中を見てもいい？」

白蓮「いいだろう。案内してやるからついてきな」

白蓮が桃香に城の案内をすることになったのだが

30分後

白蓮「桃香の奴はどこいったんだ！」

存在を忘れられてしまい白蓮は一人になっていた。

白蓮「それにしてもくそっ！どいつもこいつも私は影が薄いとバカにしゃがって！ホントは私だって目立ちたいんだ！」

さっきまで影が薄いとバカにされていた白蓮が怒りをはらすべく誰もいない廊下で叫ぶと

？「その欲望、叶えてやろう」

バンッ！

いつの間にか謎のグールドが白蓮の後ろに立っていた。

白蓮「お前！？どこから入った…」

シュッ！ チャリンッ！

白蓮が言い終わる前に謎のグリードは白蓮にセルメダルを入れると

ピキピキンッ！

白蓮の体は石のように動かなくなり

ズズウッ！

白蓮の体からヤミーが生まれた。

？「お前の欲望はなんだ？」

謎のグリードがヤミーに聞くと

ヤミー「俺の欲望は…目立つこと。そのためには…」

バキンッ！

のっぺらぼけヤミー「こいつになって戦を起こすことだ！」

ヤミーは真の姿に変身した。

そして

ガシッ！

石のように動けない白蓮の顔をのっぺらぼつやミーがつかむと
うにょにょっ

のっぺらぼつやミーの顔が変化していき

ジャーンッ…!

のっぺらぼつやミーの顔は白蓮の顔になった。

白蓮「じゃあ…いつてくるぜ！」

？「言葉遣いに気を付けろよ」

5「偽者と推理とカマキリ」（前書き）

前回の三つの出来事

- 一つ、愛紗は映司に真名を授けるが映司はそれを拒否
- 二つ、公孫賛こと白蓮の存在が薄いことが判明
- 三つ、白蓮の欲望からヤミーが生まれて白蓮に変化する。

5「偽者と推理とカマキリ」

桃香と白蓮が出ていった後

映司「劉備ちゃんと公孫賛さん遅いな」

アंक「フンッ！あのとぼけた奴（桃香）のことだ。道に迷ったのかもな」

愛紗「まあ公孫賛殿もいるからそれはないと思うが少しばかり心配だな」

姉を心配する愛紗だった。

趙雲「それはともかく、そういえばお主達はこれをご存じか？」

スッ

趙雲は握っていた手を広げると

チャリンッ！

その手にはカマキリ・コアメダルがあった。

それを見た途端

ガッ！

アंक「おいお前、このメダルをどこで手にいれた？」

アंकが趙雲に聞くと

趙雲「賊退治をした帰りに拾ったものだ。しかし何だあれは？」

趙雲はコアメダルをじっと見つめる。

趙雲「カマキリ蟷螂が描かれているようだが？」

アंक「それよりも早くそれをよこせ」

スッ

アंकが趙雲からメダルを奪おうとすると

サッ！

趙雲がそれを避けていった。

趙雲「この硬貨について何か知っているならば話してください、でないと渡しませぬぞ」

趙雲が言つと

映司「わかった話すよ。でも驚かずに聞いてくれ」

メダルを返してもらったため映司は事情を話すことにした。

しばらくして

趙雲「ほう、やみーとかいう化け物とおーずとかいう戦士がいるのですか」

いきなりそんなこと言われても信じてもらえないのが普通である。

映司「そういうわけだからさメダル渡してくれない？」

映司が再び頼むと

趙雲「ダメ！...と言いたいところですがこの硬貨は私が持っていても無駄なようですし差し上げましょう」

映司「ありがとう」

スッ

映司が趙雲からメダルを受け取ろうとすると

バタンツ！

いきなり扉が開いて

桃香「大変だよ！？白蓮ちゃんがいなくなっちゃった！？」

桃香が入ってきた。

というよりもいなくなったわけではなく桃香が存在を忘れただけである。

そして桃香が入った後

バタンッ！

再び扉が開いて

白蓮「誰がいなくなっただって！」

いきなり白蓮が怒鳴りながら入ってきた。そして白蓮は趙雲に近づく

白蓮「趙雲、このようなものを拾っておきながら私に報告せぬとは！」

サッ！

白蓮は趙雲からメダルを奪う。

映司「あっ！？それは…」

映司が言おうとすると

白蓮「あんっ！この城の主は私だぞ！それにお前達は私の家来になったはずだろ家来が城主に逆らっていいのか！」

ドンッ！

白蓮の迫力に

映司「すいませんでした」

大人しくなる映司だった。

アंक「バカ！何謝ってやがる！さっさとメダルを取り返せ！」

アंकが映司に文句を言うと

白蓮「貴様は私に逆らうというのか？だったらこんなコアメダルなんて破壊するぞ」

白蓮が言うと

アंक「！？」

アंकが何かに気づいた。

スッ

そしてアंकは映司に近寄ると

アंक「映司、こいつは公何とかの偽者だ」

映司「うそっ！？っていうか何でわかるんだよ！？」

映司が聞くと

アंक「俺がいつ公何とかにコアメダルって言ったよ？」

映司「！？」

アंकの一言で映司も気づいた。何故なら映司達はここに来てコア

メダルのことなんて一言も言っていない。それを知っているということはない。

アंक「嘘だと思うならゴリラカンドロイドを起動してみな」

映司「よしっ」

パカッ！

映司はトランクからゴリラカンドロイドを取り出してスイッチを入れる。ゴリラカンドロイドにはヤミーが近くにいると

ゴリラカンドロイド『ウホウホッ！』

というように知らせる機能がついているのだ。

映司「やっぱり！？みんな、早く公何とかから離れて！そいつはヤミーだ！？」

映司が叫ぶと

愛紗「なっ！？」

桃香「白蓮ちゃんが！？」

ササッ！

みんなは白蓮から離れたしていく

すると

白蓮「ちっ！もうバレちまうとはな、だがあの方が欲しかった
コアメダルが手に入ったのだからよししよう」

ズブブッ！

白蓮の姿が変化していき

のっぺらぼうヤミー「だが貴様らは全員殺してやる！」

バーンッ！

のっぺらぼうヤミーに変化していった。

趙雲「白佳殿が化け物に！？」

愛紗「あれがヤミーというものだ」

桃香「あんなのが私から出ただなんてちょっとショックだよ！？」

みんながそれぞれ反応していると

のっぺらぼうヤミー「いでよ屑ヤミー！」

ズブブッ！

のっぺらぼうヤミーは体から屑ヤミーを出現させて襲ってくる。

映司「アंक、メダル！」

アंक「フンッ！奴からメダルを取り返せ！」

シュッ！　　パシッ！

アंकは映司にメダルを投げて映司がそれを受け取り

カチャッ！

メダルをオーズドライバーにセットして

キンキンキンッ！

オースキャナーを交差させると

映司「変身！」

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャンッ！

映司は仮面ライダーオーズに変身した。

趙雲「なんと！？あれがオーズとは！？」

愛紗「その通りだ。そして我々の相手はあいつらだ！」

ビシッ！

愛紗は青龍偃月刀で屑ヤミー達を指すと

趙雲「なるほど。ちょうどいい、我が力を見せてやろう！」

バツ！

趙雲は屑ヤミーに突っ込んでいった。

愛紗「桃香様はそこでお待ちください！アंक殿は桃香様をお守りください！」

鈴々「アंकのお兄ちゃん頼むのだ！」

ダダッ！

そして桃香をアंकに託して愛紗と鈴々も向かっていく。

アंक「ふざけるな！何で俺がこいつを守らなきゃいけないんだ！

」

桃香「よろしくねアंकちゃん」

アंक「ちゃん付けするな！」

その頃、オーズは

オーズ「ハッ！」

ドカツ！

のっぺらぼつヤミーに攻撃を仕掛けていくが

サッ！

のっぺらぼつヤミー「そんなものが効くものか！」

オーズ「くっ！？見かけより素早い！？」

意外と器用に動くのっぺらぼつヤミーにオーズは苦戦していた。

のっぺらぼつヤミー「それではこっちからいくぜ！」

ガシッ！

のっぺらぼつヤミーはオーズの頭をつかむと

ズブブッ！ パッ

オーズ「じゃーんっ！」

オーズに変身した。

オーズ「えっ！？俺がもう一人！？」

オーズ「姿だけではないぞ力や声まで一緒なのだ！」

ドカッ！

オーズ「ぐはっ！？」

ドサッ！

オーズにドロップキックを食らってしまいオーズがぶっ飛ぶ！（？）

鈴々「お兄ちゃんが二人になっているのだ！？」

趙雲「どちらが本物だ？」

趙雲が聞くと

オーズA「俺だよ！」

オーズB「俺だってば！」

この小説を見ている人もどちらが本物が考えてください。

愛紗「（どちらかが偽者なのは分かっているのだがどっちだ？それさえわかれば斬りつけられるのに…そうだ！）」

愛紗が何かを閃くと

愛紗「二人とも、こちらを見なされ！」

オーズA・B「えっ？」

二人のオーズは愛紗の方を見ると

愛紗「映司殿」

と愛紗が聞いた瞬間

オーズA「何だよ？」

オーズB「やつと呼んでくれたね！」

この瞬間

愛紗「お主が偽者だ！」

ズバッ！

オーズA「ぐはっ！？」

愛紗はオーズAを斬ると

オーズA「何故俺が偽者だとわかった！？」

オーズAが聞くと

愛紗「私が映司殿と呼んだのは実はさっきが初めてだったのだ。それに聞き慣れていた貴様が偽者というわけさ」

見事な頭脳プレーである。

オーズA「くそっ！？」

ボンッ！

愛紗に斬られた衝撃でのっぺらぼうヤミィが元の姿に戻った瞬間

オーズ「今だ！」

パシッ！

のっぺらぼうヤミー「あっ！？」

オーズはのっぺらぼうヤミーからカマキリメダルを奪い取った。

オーズ「油断大敵ってやつだね それじゃあいくぜ！」

カチャッ！

オーズはトラメダルをカマキリメダルに入れ換えて

キンキンキンッ！

オースキャナーを交差させると

ドライバー『タカ・カマキリ・バッタ』

ジャンッ！

オーズの腕がトラアームからカマキリアームへと変化してタカキリバにコンボチェンジした。

コンボチェンジ：オーズが使う戦法。メダルを入れ換えることで様々な戦闘が可能になる。（その数は100を超える）

オーズ「ハッ！ハッ！ハッ！」

ジャキンッ！！

ズバズババツ！

のっぺらぼつヤミー「ぐえっ！？」

愛紗に斬られて動きの鈍くなったのっぺらぼつヤミーにオーズは力マキリソードを立てて斬りつけていく。

スッ！ キンキンキンッ！

そしてオーズは止めを指すべくオーズドライバーをオースキャナーで交差させると

ドライバー『スキヤニングチャージ』

バチバチッ！

オーズのカマキリアームに力が溜まっていき

オーズ「ハーツ！せいやーっ！」

ズバツ！！

渾身の一撃でのっぺらぼつヤミーを切り裂いた。

のっぺらぼつヤミー「くっそー！？」

ドッカーンッ！！

切り裂かれて爆死するのっぺらぼうヤミー

そしてのっぺらぼうヤミーが倒されて少しすると

バタンツ！

白蓮「何が起きたんだ！？」

ヤミーが倒されたことにより元に戻った白蓮がいきなり入ってきた。

桃香「白蓮ちゃん！？本物かな？」

白蓮「は？」

何が起きていたのかは白蓮にはわからないが

白蓮「何だよこの有り様はーっ！？」

ボロツ

ヤミーとの戦いで玉座の間がボロボロになっていたのには驚いたという。

愛紗「公孫賛殿も大変だな」

愛紗が公孫賛を心配していると

ザッ！

そこに変身を解いた映司が近づいてきて

映司「さっきはありがとうね愛紗さん」

愛紗「えっ!？」

映司「前に言っただでしょ。君が俺を映司って呼んだら俺も君を愛紗って呼ぶって」

確かにそのような約束をしていた。

愛紗「あれは!？偽者を見つけるための策でしょ!？」

映司「それでもいいの、よろしくね愛紗!」

二人が仲良くしている頃、アंकは

アंक「(この世界にコアメダルがあるということはあの謎のグライダーが落としたということか?だったら一枚だけとは考えられないな)」

このアंकの考えは当たっていた。

同時刻

陳留

?「あらっ?この硬貨は何かしら?」

建業

？「冥琳、お金拾っちゃった」

洛陽

？「この硬貨は何かな？詠ちゃんなら知ってるかな？」

各地に何故かばらまかれていたメダルが拾われるのであった。

5 「偽者と推理とカマキリ」(後書き)

COUNTSMEDAL

現在、オーズの持つメダル

タカ 2

トラ 1

バッタ 1

カマキリ 1

6「バイクと孔明とすりかわり」

公孫賛こと白蓮の元で働く映司と桃香達

そして働きはじめてから一週間が経ったある日のこと

桃香「黄巾党？」

白蓮からの言葉に？を浮かべる桃香

白蓮「そうなんだ。最近そういうような賊が暴れているらしい。我が軍でも被害者が続出していてな」

白蓮の話によると

黄巾党という賊は頭に黄色のバンダナを巻いた集団で兵達はみんな怪しげな言葉を言っているらしい

白蓮「そんなもって朝廷から黄巾党を殲滅しろって命令が出されたんだ。すまないが私は忙しいので桃香達が黄巾党を何とかしてくれないか？」

白蓮が聞くと

桃香「わかったよ任せといて！それじゃあ兵達を少し借りるけどいい？」

桃香が聞くと

白蓮「兵達だと!？」

いきなり驚く白蓮

何故かというと

映司「ちょっと桃香、この前のこと忘れたの？」

実はこの前、賊を壊滅させるために桃香が白蓮から兵を借りたのだが、なんと!? 白蓮の兵士達が誰一人として残らず桃香についてしまったのだ。

おまけに桃香の性格（来るものは拒まず）のせいで戻すこともできなくなり、白蓮の城は桃香達が帰るまで兵が一人もいない日々が続いたのだった。

その事が白蓮にはトラウマになっていた。

それを思い出した桃香は

桃香「白蓮ちゃん、兵はいらないよ! うちには愛紗ちゃんに鈴々ちやん、映司さんにアंकちゃんがいるからさ！」

ということでの場合は丸く収まったのだった。

そして現在、^{じま}厩の前

愛紗「桃香様も無茶しすぎです。五人でどうやって黄巾党を殲滅するのでしょうか」

愛紗が桃香に説教すると

桃香「愛紗ちゃんごめんね、白蓮ちゃんの顔を見たら兵がほしいて言えなくてさ」

もし言っていたら白蓮は再び白くなっていただろう

鈴々「それにしてもお兄ちゃんはまだなのかなのだ？」

映司は少し準備があるということで愛紗達を先に厩に向かわせていた。

そしてしばらくすると

ブオンブオンッ！

どこからかバイクの音が聞こえてきたかと思うと

ブオンブオンッ！！

バッ！

桃香達『うわっ！？』

いきなりバイクが桃香達の後ろから現れた。

愛紗「鉄の獣か！？」

スッ！

愛紗はバイクに青龍偃月刀を向けると

？「ごめんごめん」

バイクに乗っている人が話しかけてきた。

パカッ！

そしてバイクに乗っている人がメットを外すと

映司「驚かせてごめんね」

バーンッ！

そこには映司がいた。

愛紗「映司殿！？」

鈴々「お兄ちゃん、この鉄の獣は何なのだ？」

映司「これはバイクという乗り物だよ。俺は馬に乗ったことが少ないからね」

映司が言うと

アंक「映司、さっさといくぞ」

映司の後ろに座っていたアंकが映司を急かす。

映司「とりあえず行こう！」

そしてようやく映司達は黄巾党の殲滅に向かつていこうとするのだ
が…

鈴々「お兄ちゃんだけずるいのだ！鈴々もばいくに乗りたいたのだ！

」

桃香「あつ、鈴々ちゃんずるゝい！私も乗りたゝい！」

映司「えっ！？ちよつと待ってよ！？」

珍しいものを見ると反応する二人に駄々をこねられてしまい出発が
少し遅れてしまったという

しばらくして

桃香「わーいつ」

映司「あんまり暴れちゃ危ないよ」

じゃんけんで勝った桃香が映司の後ろに乗っていた。

鈴々「桃香お姉ちゃんずるいのだ！」

愛紗「鈴々はまた今度乗せてもらえばよかろう」

アंक「フンツ！ガキかよ」

ちなみにアंकは愛紗の後ろに乗っていた。

しばらくして

桃香「この先が黄巾党の本部なんだね！？」

桃香達は黄巾党の本部近くの荒野に来ていた。

アंक「映司、黄巾党なんてすぐ倒しちまえ、なんだっらトライドベンダーで暴れるか？」

アंकの手にはライドベンダーをパワーアップさせるトラカンドロイドが握られていた。

トラカンドロイドをライドベンダーにセットすることによりライドベンダーはトライドベンダーにパワーアップするのだが

映司「ダメだって！トライドベンダーはラトラーターでしか操れないだろ」

映司の言う通りトライドベンダーは勝手に暴走するためラトラーターコンボでしか制御できないのだった。

愛紗「映司殿、さっきから言ってるっしやる”らとらーたー”とは何ですか？」

愛紗が映司に聞こうとすると

アंक「簡単に言うとオーズの強化形態だ。他にもいくつかあるが使用したら体に負担がかかるかな」

映司の代わりにアंकが言う。

鈴々「おーずってすごいのだ！鈴々も早く”らとらーたー”を見て
みたいのだ」

喜ぶ鈴々に対して

愛紗「バカ者！」

ビビンッ！！

愛紗が怒声を発する。

愛紗「アंक殿も言っていただろう”こんぼ”は体に負担がかかる
と！面白半分で楽しみにするんじゃない！」

ビシッ！

愛紗が鈴々に言うと

鈴々「そうだったのだ、ごめんなのだお兄ちゃん」

映司に謝る鈴々

映司「仕方ないよ俺も体は慣れた方だから少しなら平気だしね。そ
れよりも黄巾党を何とかしないとね」

映司が場を収める言い方をした直後

ピクンッ！

映司が何かを感じた。

映司「アंक、メダルを渡してくれ！」

アंक「はあ？何言つてやがる？」

映司のいきなりの言葉にアंकが？を浮かべると

映司「早くしろって！」

映司が急かしてきた。

アंक「何する気だよ？」

シュッ！

仕方なくアंकは映司にメダルを渡すと

カチャカチャンッ！

キンキンキンッ！

映司「変身！」

メダルをオーズドライバーにセットした映司は

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンッ！

仮面ライダーオーズへと変身した。

オーズ「ハッ！」

ダダッ！

オーズに変身した映司はいきなりどこかに走り出していった。

アंक「どこ行く気だよ映司！？」

愛紗「我々も後を追いましょう。アंक殿はばいくをお願いします
」

アंक「ちっ！」

そしてみんなもオーズが走っていった方角を追っていった。

オーズが向かっていった先には

？「お婆さんしっかりしてください
」

？「この先にいけばきっと大丈夫でしゅから！？」

二人の小さな女の子が黄巾党の大軍に追われているお婆さんを助けていた。

お婆さん「ありがとう、でも私はもういいから二人だけでも逃げて
ちようだいな」

諦めムードのお婆さんに

？「何をいつてるのですかお婆さん！」

？「生きていればいつかは神様が助けに来てましゅよ！」

二人が言うと

ザッ

いつの間にか周りを黄巾党に囲まれていた。

黄巾兵「神様が助けってくれるだと？笑わせるなよ！」

黄巾兵「お前らはここで死ぬ運命なのさ！」

ブオンツ！！

黄巾兵の一人が剣を降り下ろす！

？「はわわっ！？」

？「あわわっ！？」

二人はお婆さんだけでも助けられるよう盾になろうとするがそのくらいで防げるわけがない！

もうおしまいだと二人が思ったその時！

ガキンツ！！

剣が急に止まった。何故ならば…

黄巾兵「誰だよお前！？」

バンツ！

オーズがメダジャリバーで黄巾兵の剣を押さえていたからだ。

いきなりのオーズの出現に黄巾兵が驚くと

オーズ「こんな小さな女の子を殺すなんて許さない！」

ジャキンツ！ ボキツ！

オーズはトラクローを展開させて黄巾党の剣を折った。

黄巾兵達『バ…化け物だ…！？』

ダダーツ！

オーズの力にびびった黄巾兵達が逃げていくと

ガチャンツ！ シュンツ！

映司はオーズの変身を解いて

映司「大丈夫でしたか！？」

お婆さんと二人の女の子の方に向かっていった。

？「はわわ！？人間が固い剣をへし折った！？」

？「あわわ！？怪人がいきなり人間に変わった！？」

いきなりのオーズにびびる二人

映司「驚かしてごめんね！？これで汗を拭いて」

スッ

映司は懷からハンカチを取り出して二人に渡す。

？「ありがとうございます」

ふきふきっ

一人の女の子が汗を拭いていると

？「ごわごわして変わった布でしゅね？」

ハンカチに不信を感じて広げてみると

バァーンッ！

？「はわわ！？」

予想がついている人もいると思うがそれはハンカチではなくパンツだった。

映司「ご…ごめん!？」

バツ!

映司は女の子からパンツを奪い取ると

映司「そういえばまだ名前聞いてなかったよね。俺は火野映司、君達は？」

名前を聞くことにし、二人の女の子は

孔明「わ…私は諸葛亮孔明でしゅ」

鳳統「ほ…鳳統士元でしゅ」

と答えた。

その頃、黄巾党アジトでは

黄巾兵「お頭、お頭が言っていた怪人が現れましたぜ!？」

一人の黄巾兵が慌てながらお頭に報告する。

張曼成「そうか。ようやく出やがったか」

黄巾党アジトのお頭・張曼成

張曼成「お前達は本部のお頭にこの事を伝えろ!俺がその怪物を倒してやるぜ」

黄巾兵「わかりやした！」

ダッ！

そして黄巾兵は駆け出していった。

張曼成「フッフツ…やはり来たかオーズよ」

ズブツツ… バンツ！

張曼成の姿が謎のグリードへと変身した。

？「この地が貴様の墓場となるのだ！」

ちなみに本物の張曼成は石のように固まっていた。

7「軍師と鎌鼬と法則」（前書き）

前回の三つの出来事

一つ、白蓮に頼まれて映司達は黄巾党に接近

二つ、向かった先で映司は二人の少女、孔明と鳳統を助ける。

三つ、黄巾党の幹部・張曼成はすでに謎のグリードにすり変わっていた。

7 「軍師と鎌鼬と法則」

？「さて、オーズが現れたとなるとそろそろ仕掛けたヤミーが動き出す頃か」

張曼成に成り済ましていた謎のグリードが黄巾党を操って暗躍している頃

その頃、映司達は

映司「えっ！？悪いけどもう一度名前をいつてくれない！？」

映司が助けた女の子に再び名前を聞いてみると

孔明「はわわ、諸葛亮孔明でしゅ」

鳳統「あわわ、鳳統土元でしゅ」

再び女の子の名前を聞いた瞬間

映司「（確か孔明と鳳統って有名な軍師じゃないか！？）」

この小説の映司は多少三国志の知識があります。

映司が驚いていると

ダダッ！

愛紗「映司殿、どうされました！？」

遅れて愛紗達がやって来た。

桃香「あれっ？その子達は誰なの？」

桃香が孔明と鳳統を見て聞くと

孔明・鳳統『（は・あ）わわっ！？』

二人はいきなり桃香を見て驚き出した。

桃香「何なの！？私の顔に何かついてるの！？」

鈴々「目と鼻と口がついてるのだ」

愛紗「鈴々、古いボケはやめろ」

一応突っ込む愛紗だった。

孔明「もしかしてあなたは劉備さんでしゅか！？」

桃香「そうだけど、どうして私の名前を知ってるの？」

桃香が聞くと

鳳統「この辺りじゃ有名でしゅよ！近くにいた賊を多数の兵を引き連れる優しい人だって！」

桃香は自分が知らない間に有名になっていた。

愛紗「桃香様が有名になるとはな」

鈴々「お姉ちゃんすごいのだ！」

とは言つてもまだほんの一部である。

映司「それより君達、この辺りは黄巾党の本部に近いから逃げた方がいいよ」

映司が話を戻すと

孔明「逃げるなんてできません！」

鳳統「私達は困っている人を助けに来たんです！」

きつぱりという二人に

アंक「ハンツ！バカなやつらだ。他人を助けて自分が死んじゃ元も子もないだろ」

映司「おいアंक！」

二人をバカにするアंक

孔明「確かにその金髪頭さんの言う通り死んでしまつたら何もありませんが、あの時あすればよかったなんて後悔はしたくありません！人を助けて自分が死ぬならそれが本望でしゅ！だから劉備様に仕官しにきたのでしゅ！」

鳳統「私も同じ気持ちでしゅ！」

孔明・鳳統『だから劉備様：私達を軍に加えてください！』

バンッ！

はつきりという二人

アंक「フンッ！くだらんな」

映司「こいつのことは気にしないでいいからさ、わかったよ二人が
そこまで言うのなら仲間は多い方がいいし、俺達の仲間になりなよ
！いいでしょ桃香」

桃香「うんっ！それがいいよ」

二人は賛成するが

愛紗「桃香様も映司殿もお待ちください！このように幼きものを加
えるなんて何を考えているのですか！」

映司「鈴々だって小さいじゃん…」

愛紗「鈴々には武力がありますからいいのです！見たところこの二
人には武力の欠片はありません！」

はつきりという愛紗

アंक「確かに愛紗の言う通りだな、そんなチビ共にできることと
いえば逃げ回るくらいだな」

孔明「そんなことありましえん！」

鳳統「そうでしゅ！私達には…」

鳳統が最後まで言おうとすると

ビューッ！

いきなり風が吹いてきた。

その瞬間

ギュインッ！（小音）

映司「！？」

風の音がわずかに違うと感じ取った映司は

映司「孔明ちゃん、鳳統ちゃん危ない！？」

ドンッ！！

孔明・鳳統『ひゃうっ！？』

いきなり孔明と鳳統の二人を弾き飛ばすと

ズバッ！！　ブシュッ！！

映司「ぐわっ！？」

いきなり映司の背中が斬られた。

愛紗「映司殿！？」

鈴々「何が起きたのだ！？」

ダダッ！

みんなは慌てて映司に駆け寄る。

そしてその時

ギランッ！

一瞬刃物のようなものが桃香に迫ってきた。

アंक「そこかっ！」

シュッ！

それに気づいたアंकはクジャクカンドロイドを投げつける。

カシャンッ！ ギュイーンッ！！

クジャクカンドロイドはアニマルモードに変形して刃物のようなものに迫る。

アニマルモードになったクジャクカンドロイドには回転する刃がついているのだ。

ガキンッ!!

そしてアंकの投げたクジャクカンドロイドが何かにぶつかると

ぼやっ

さっきまで何もいなかった場所に何かが現れ出した。

するとそこには

鎌鼬ヤミー「シャウーッ!!」

カマイタチ
鎌鼬ヤミーが現れた。

孔明「はわわっ!!?あの化け物はなんでしゅか!?!」

愛紗「説明している場合じゃない!」

鈴々「とりあえず今は傷付いたお兄ちゃんを守るのだ!」

スッ!!

鎌鼬ヤミーに対して構える愛紗と鈴々だが

鎌鼬ヤミー「シャッ!」

シュンッ!

愛紗・鈴々『!?!?』

鎌鼬ヤミーは一瞬で消えると

パツ！

鎌鼬ヤミー「シャウーッ！」

いつの間にか愛紗達の後ろに現れた。

鈴々「消えるなんてずるいのだ！」

愛紗「違うぞ鈴々、あいつは消えたのではない我々の目で追い付けられない早さで走っているのだ！？」

愛紗の言う通り鎌鼬ヤミーは消えたのではなくものすごい早さで走っていたのだ。

それも武人である愛紗達の目にも止まらぬ早さで

愛紗達を通りすぎた鎌鼬ヤミーは

鎌鼬ヤミー「オーズ、殺す！」

ジャキンッ！！

傷付いた映司めがけて迫っていく

アंक「ちっ！映司、変身しろ！」

映司「そうか！？」

映司はすでに前回アंकからメダルを受け取っていた。

カチャカチャンッ！

キンキンキンッ！

メダルをセットした映司はオースキャナーをオーズドライバーに交差させると

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

バツ！ ドカッ！

鎌鼬ヤミー「ギャッ！？」

ドライバーから出てきたメダル状エネルギーにぶつかる鎌鼬ヤミー

このドライバーにメダルをセットしたときに現れるメダル状エネルギーは実態を持っているため今回のように攻撃したりヤミーの攻撃を防ぐ盾にもなるのだ。

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンッ！

そして映司は仮面ライダーオーズに変身した。

鳳統「あれはさっきの怪人！？」

愛紗「怪人などではない」

鈴々「正義の味方の仮面らいだーなのだ！お兄ちゃん、そんな奴軽く倒すのだ」

オーズを応援する鈴々だが

ズキンッ！

オーズ「ぐっ！？」

オーズに変身したからといって傷が治るわけではなかった。

鎌鼬ヤミー「シャッ！」

シュンッ！

そしてオーズがうまく動けないのをいいことに、鎌鼬ヤミーは

ズバズバッ！

オーズ「がはっ！？」

オーズに対して遠慮なく切りかかってきた。

愛紗「やはりヤミーが早すぎる！？」

鈴々「あんなに早いんじゃないの！？」

そんなとき

アंक「（おかしい、いくらなんでも早すぎだぜ。ヤミーのどこにそんな力が…？）」

アंकはヤミーが早すぎることに疑問を感じていた。

そしてその答えは

アंक「映司、おそらくそいつの体にはコアメダルが入っている。そいつが早すぎなのはそのためだ奪い取れ！」

アंकは指示するが

オーズ「んなこと言っただって！？こんな素早い奴からどうやってメダル取るんだよ！？」

鎌融やミーの動きが早すぎて奪い取るのが難しいのだ。

鈴々「こうなったら三対一で戦うのだ！」

愛紗「やめろ鈴々！悔しいが我らの実力では足手まといになるだけだ」

ホントは愛紗だって向かいたがいつて通りのなので仕方ないのだ。

ズバズバツ！

オーズ「がはっ！？」

こうしている間にもオーズに切りかかってくる鎌融やミー

鎌鼬ヤミー「俺の早さについてこれまい！」

ズバズバツ！

そんなとき

孔明「（じゅっ）」

戦いを見ていた孔明が

孔明「おーずさん！おもいつきり拳を右にぶちこんでください！」

孔明がオーズに向かって言うと

オーズ「何だかわからないけど…えいつ！」

ジャキンツ！ ブオンツ！！

オーズはトラクローを展開させて渾身の一撃を繰り出した。すると

ザクリッ！

鎌鼬ヤミー「ぐほっ！？」

トラクローは鎌鼬ヤミーに当たった。

オーズ「当たった！？」

ズボッ！

そしてオーズが腕を鎌鼬ヤミーから引き抜くと

キラッ

トラクローの爪の間からコアメダルが出てきた。

トラクローは敵に突き刺すことで敵の中にあるコアメダルを引き抜くことができるのだ。

オーズ「このメダルは！？これならば！」

カチャカチャッ！

オーズはバッタメダルを抜いて手に入れたチーターメダルに入れ換えた。

キンキンキンッ！

そしてオーズドライバーをオースキャナーでスキャンさせると

ドライバー『タカ・トラ・チーター』

ジャキンッ！

オーズの脚がチーターレッグに変化した。

鎌鼬ヤミー「おのれっ！」

シュンッ！

鎌鼬ヤミーは再び高速で移動する。

オーズ「もうその手は食らわないよ！」

オーズが言つと

ブシューッ！

チーターレグからいきなり煙が出てきた瞬間

シューッ！

オーズの姿が消えた。

鈴々「お兄ちゃんが消えたのだ！？」

愛紗「だからそうではなく早すぎて見えないだけだと言っているだろう！」

愛紗の言う通りオーズも高速で動いているので消えてるように見えるのだ。

シューシューッ！

鎌鼬ヤミー「俺の早さについてこれまい！」

鎌鼬ヤミーが走りながら言つと

オーズ「それはどうかな？」

バツ！

オーズが鎌鼬ヤミーの隣を走っていた。

鎌鼬ヤミー「なっ！？」

鎌鼬ヤミーが驚いている隙に

ガシッ！

オーズ「この距離なら絶対はずさないよ」

オーズが鎌鼬ヤミーを掴むと

オーズ「せいやーっ！！」

シュシュシュッ！！

目にも止まらぬ早さで鎌鼬ヤミーを蹴りまくるオーズ

鎌鼬ヤミー「ごぼっ！？」

これにはさすがの鎌鼬ヤミーもたまらなかった。

そして

オーズ「ハッ！」

ドカツ！

オーズが鎌鼬ヤミーを遠くに蹴り飛ばした時

鎌鼬ヤミー「ぐほーっ!？」

ドカーンッ!!

鎌鼬ヤミーは爆発していった。

オーズ「やった…」

何とか鎌鼬ヤミーを倒したオーズだったが

ばたりっ!

倒した瞬間背中の痛みを思い出してオーズは倒れた。

しばらくして

映司「すごく効くもんだな!？」

変身を解いた映司は鳳統の手当てを受けていた。

アंक「それにしても黄色チビ（孔明）、何であそこに鎌鼬ヤミーが出るってわかったんだ？」

アंकが聞くと

孔明「それはでしゅね、あの怪物は一定の法則で切りつけていたんでしゅ」

つまり鎌鼬やミーは切る場所をA、B、C、A、B、Cといったように繰り返していたのだ。

愛紗「あんな短時間で法則を見つけるとは大した頭脳だな。先程の言葉を詫びよう、お主達は我が軍に必要な人材だ」

孔明「えっ!？」

鳳統「つてことは…!？」

二人が聞くと

映司「今日から仲間ってことだよ！」

これを聞いた二人は

孔明「やったー！」

鳳統「よかったね！」

喜ぶ二人だった。

孔明「仲間になったということで真名を預けます。私の真名は朱里でしゅ」

鳳統「私の真名は雛里でしゅ！」

この後、映司とアंक以外は真名を交換しあうのだった。

その頃、黄巾党アジト

張曼成「ん…俺は何してたんだ？」

鎌鼬やミーが倒されたことにより本物の張曼成が元に戻った。

だが

張曼成「あれっ！？手下共はどこいったんだよ！？」

手下共は全員本部に向かっているためこの場には張曼成しかなく黄巾党の一部が解散するのだった。

7「軍師と鎌鼬と法則」（後書き）

COUNTSMEDAL

現在、オーズの使えるメダル

タカ 2

トラ 1

バッタ 1

カマキリ 1

チーター 1

ヤミーファイル

のっぺらぼうヤミー

相手の顔に手を触れるだけで相手の姿になり、外見や声を真似る。
意外と素早い

鎌鼬ヤミー

高速で両手に持った鎌で切りつけてくる。早さは現段階では一番早い

8 「始まりと曹操と霸道」(前書き)

タイトルの通り、ついに華琳が出ます。

8 「始まりと曹操と霸道」

桃香率いる映司一行に新しく名軍師・朱里と雛里が加わり黄巾党本部を目指す一行。

その頃、黄巾党本部では

黄巾党本部

黄巾党「大変です！？張曼成さん率いる部隊が義勇軍に壊滅されました」

一人の黄巾党が言うと

？「え〜！もうあのおじさんやられちゃったの〜！？」

？「ちい達が逃げ…戦うまでもたせなさいよね！」

？「すぐさま部隊を編成してください！」

黄巾党「わかりました！」

ダダッ！

そして黄巾党の男が去っていった後

？「ねえちいちゃん、人和ちゃんどうしよう！？」

？「どうしようたって、あのバカ（張曼成）が義勇軍を引き付けて

いる間に逃げるのが作戦でしょ！どうすればいいのよ！」

？「どうしてこんなことに…」

この彼女達は黄巾党の首領である。上から順に張角（天和）、張宝（地和）、張梁（人和）なのだ。

彼女達がこうなってしまった原因には理由がある。

元々彼女達は売れない旅芸人をしていたのだが、数週間前化け物の姿をした男に『この書物には貴様らを有名にする方法が書かれている。これを読んで大陸を支配するがよい』と言われて書物を開いた結果、売れない旅芸人が一転して人気アイドルと化してしまったのだ。

そこまでなら別によかったのだがその先に問題があった。

アイドルと化した彼女達はある日に開いたライブにて『服がほしくい！』と言った瞬間、ライブ終了後ファン達から山のような服が送られた。

そしてそれから『あれが食べた〜い！』『宝石がほしくい！』と言ったびにファン達から贈り物が届けられ、ついには『大陸がほしくい！』と調子にのってしまいこれを聞いたファン達は

ファン達『任せてくれ〜！！』

ジャキンッ！

ファン達は黄色の布を頭に巻いて大陸の侵略を開始した。これが黄

巾党の始まりである。

地和「天和姉さんが悪いのよ！最初に服がほしーいなんて言うから！
」

天和「ひつどーい！それを言うなら大陸がほしーいなんて言うたち
いちゃんが悪いんじゃない！
」

姉妹喧嘩を始める二人に

人和「落ち着きなさい姉さん達！今は姉妹喧嘩している場合じゃないでしょ！早くなんとかしないと義勇軍が攻めてくるんだから！？
噂では幽洲の公何とかの客将である劉備と陳留の曹操が来るらしいけどどうすればいいのよ！？
」

悩みまくる人和。

だが彼女達は知らなかった。彼女達がアイドルと化したあの日から

ポコポコッ！

黒い泡のようなものが増え続けていることを

その頃、映司達は

バンッ！

ようやく黄巾党本部が見えるところまでやって来た。

映司「ようやくここまで来たんだな
」

桃香「いよいよ黄巾党との決戦だね！」

鈴々「これでこの小説も終わりなのだ」

嘘です。

映司「それじゃあ行こうか」

スッ…

そして映司が足を進めようとすると

シュンッ！ ザクッ！

映司「おわっ！？」

後ろからいきなり矢が飛んできて映司の足元に刺さった。

愛紗「何者だ！」

くるっ！

愛紗が矢が飛んできた方向を見てみると

バンッ！

そこには水色の髪的女性が弓を構えていた。

桃香「いきなり飛ばすなんてひどいじゃん！」

桃香が文句を言うと

？「あら、私より先に攻めこもうとしたあなた達が悪いのよ」

スッ

水色の髪 of 女性の後ろからくるくる金髪の女の子が現れた。

愛紗「お主は何者だ！」

愛紗が叫ぶと

曹操「あら、いずれ天下をとるこの曹操孟徳を知らないなんてね」

映司「曹操だつて!？」

曹操といえば三国志の中心人物の一人である。

映司が曹操に驚くと

バツ！

？「でえいつ！」

映司「ひっ!？」

曹操の後ろからいきなり黒髪長髪の隻眼の女性が現れて

ブォンッ!!

映司に向かって大剣を振るってくる。

映司に危機が迫ったその時！

ガキンツ！！

愛紗が偃月刀で大剣を防いで映司を助けた。

映司「ありがとう愛紗！？」

へたへたゝ

いきなりのことに驚いて腰が抜けた映司

愛紗「なあに、いつも助けてもらっているお礼ですよ。貴様、いきなり何をするのだ！」

愛紗が叫ぶと

？「知れたことを！この者が華琳様を曹操と呼び捨てにしたから斬ろうとしたまですよ！」

江戸時代じゃあるまいし無茶苦茶な理由である。

バツ！

隻眼の女性は愛紗から距離をとると

？「華琳様呼び捨て罪で死ねーっ！！」

バツ！

再び映司に斬りかかってくるが

曹操「やめなさい春蘭！」

ピタリッ！

曹操がやめろと言うと隻眼の女性の動きがいきなり止まった。

曹操「今は決戦前だからやめなさい！」

？「しかし華琳様……」

それでも斬りつけたい隻眼の女性に

曹操「どうしても斬るといふのなら、しばらく閨ねやに来るのを禁止にするわよ」

曹操が言った瞬間

？「命拾いしたな！」

スッ

隻眼は大剣を収めた。

曹操「うちの部下が悪かったわね、いま斬りかかろうとした隻眼が夏侯惇、そしてこっちの弓使いが……」

夏侯淵「夏侯淵と申す。姉者がすまなかったな」

自己紹介をする二人

夏侯惇「華琳様、何で斬るのを邪魔したのですか？あんな奴なんて一太刀で斬れますよ！」

曹操「うるさいわよ春蘭！（それくらいわかっているけどもしそんなことしたら…）」

スッ

曹操はアंकの方を見る

ジャラッ！

そしてアंकの手にはメダルが握られていた。

もしあのまま夏侯惇が映司を斬ろうとしたらすかさずアंकは映司にメダルを投げていたであろう。そしてオーズによって夏侯惇は倒される。

とにかく曹操はもしあのまま戦っていたら夏侯惇が危ないと直感して止めたのだった。

桃香「もしかして曹操さんも黄巾党を退治しに来たんですか？」

桃香が曹操に聞くと

曹操「もちろんそうよ、それ以外にこんな場所に来るはずないでしょ！私はこの戦いで名を世に知らしめるのよ！」

ぐっ！

拳を握る曹操。

曹操「というわけだからあなた達は邪魔だから出ていきなさい」

この曹操の言葉に

愛紗「何を言うのだ！貴様に指図される筋合いはない！」

鈴々「愛紗の言う通りなのだ！」

夏侯惇「貴様らっ！！」

主人である曹操をバカにされて怒る夏侯惇

だがここで斬りかかろうとすれば曹操からどんな罰が下されるかわかったものではない。その為夏侯惇はむやみに動けなかった。

曹操「あなた達はバカなのかしら？たった7人でどうやって黄巾党の大軍に勝つというの？」

黄巾党の兵力は少なくとも数万人はいるのだ。

曹操がバカにすると

映司「それはわからないよ」

映司が口をはさんだ。

映司「小さな数でも大きなものを倒すことだってできるときもあるんだ」

映司が言うと

曹操「甘いわね、数が小さきものは大きなものには勝てないものなのよ。その証拠に私は今まで相手より多い数の兵を用意して圧倒的勝利をおさめてきたのよ。全ては私の霸道のためにね」

映司「霸道ってそんなに大事なものの？ 相手より多い数で挑んでも勝利した理由にはならない。君は負けたことがないからそんなことが言えるんだよ」

次々と曹操に口答えする映司に

ピキンッ！！

とうとう曹操がキレた。

曹操「あなた、死にたいようね」

ジャキンッ！

映司「ひっ！？」

曹操は映司に鎌を突きつける

愛紗「映司殿！？」

鈴々「お兄ちゃん！？」

愛紗と鈴々は映司を助けようと近づくが

スッ！ スッ！

夏侯淵「悪いがここを通すわけにはいかん」

夏侯惇「貴様らの相手は我々がしてやる！」

夏侯姉妹に道を塞がれた。

桃香「やめてください曹操さん！今は黄巾党との決戦でしょう！私達が争っていても無駄なはずです！」

曹操「そういうわけでもないわ、こいつを放っておいたら危険な気がするのよ。危ない芽は早めに潰さないかね」

アंक「ちっ！」

スッ

アंकは映司にメダルを投げようとするが

ピクンッ！

アंकは曹操から何かを感じ取った。

アंक「まさかこいつ、コアメダルを持っているのか!？」

黄巾党との決戦の前に小さな争いが始まろうとしていた。

8 「始まりと曹操と霸道」(後書き)

西森「何だか最近(10/31)になってきて自分の中のライダーランキングは以前までは

1、電王

2、オーズ

3、クウガ

だったのですがフォーゼが始まった途端

1、電王

2、フォーゼ

3、オーズ

になってきています。

フォーゼ×恋姫の小説があれば教えてください！

9 「兵数と伝染と昆虫コンボ」 (前書き)

前回の三つの出来事

一つ、黄巾党首領・張三姉妹の後ろに潜むヤミーの卵

二つ、黄巾党本部に向かっていった映司達は曹操と出会う

三つ、曹操を馬鹿にした映司が斬られそうになるが曹操がコアメダルを持っていることをアंकが発見する

9「兵数と伝染と昆虫コンボ」

ギランツ！！

曹操の突きつけた死神鎌・絶が映司の首を斬ろうとする。

曹操「私を馬鹿にしたことをあの世で後悔しなさい」

映司「くっ！？」

桃香「映司さん！？」

映司に危機が迫ったその時！

アंक「ちょっと待ちな！」

アंकが止めに入った。

映司「アंक、お前ってやっぱりいい奴…」

映司は自分を助けようとしてくれるアंकに感動していると

アंक「そいつの首ならいくらでもくれてやる！」

ズコッ！

結構薄情な態度のアंकに映司達はずっこけた。

アंक「そんなことより曹操、お前メダルを持っているだろう？」

アंकが曹操に聞くと

曹操「めだる”って何かしら？」

アंक「こういうもんだよ」

スッ

アंकはコアメダルを曹操に見せる

曹操「ふうん、それが”めだる”というものならば確かに最近拾ったわよ」

スッ

曹操は懐に手を入れると

曹操「へんな虫が描かれた硬貨をね！」

バンッ！

曹操は懐からクワガタメダルを取り出してアंकに見せつけた。

ちなみに曹操がへんな虫と言っているのはクワガタを知らないためである。（おそらくこの時代にはいなかった）

アंक「メダルはお前が持っても何の役にも立たないからよこしやがれ！」

アंकが言つと

曹操「いやよっ！何でこの私があなたの言つことを聞かなきゃならないの？どうしてもほしけりゃ、この男（映司）の首を切らせるか、関羽をこち…」

曹操が最後まで言おうとすると

兵士「曹操様、大変でございます！？」

一人の兵士がいきなり現れた。

夏侯惇「貴様、華琳様に何の用だ！」

夏侯淵「落ち着け姉者、それでどうした？」

夏侯淵があらためて兵士の話を聞こうとする

兵士「それが、黄巾党の奴らを見張っていたら、いきなり大きな天幕が破れて化け物が暴れてるのです！」

曹操「何ですって！？」

黄巾党本部

現在この場所では

黄巾党「うわーっ！？」

ダダーッ！！

大勢の黄巾党達が逃げていた。

何に逃げていたのかというと…

土蜘蛛ヤミー「ギャシーツ！！」

いきなり中央にあった巨大天幕が破れてそこから多数の土蜘蛛ヤミつちぐもーが現れたのだった。

こいつらは黄巾党首領である張三姉妹の有名になりたいという欲望から産まれたのだった。

ちなみにその張三姉妹はというと

天和「いやゝん！はなしてよー！」

地和「ちい達にこんなことしてただですむと思ってるの！」

人和「蜘蛛は嫌い」

三人は土蜘蛛ヤミーの出した糸に捕まっていた。

これを見た映司達と曹操達は

曹操「何なのよあの化け物は！？」

映司「説明は後ですよ！ アンク、メダル！」

アンク「しっかり稼いでこいよ！」

スッ！

アंकが映司にメダルを渡そうとすると

夏侯惇「華琳様、あの化け物は私にお任せください！いくぞ者共！
」

ダダッ！！

夏侯惇がたくさんの兵を連れて土蜘蛛ヤミーに向かっていく。

曹操「春蘭！？しょうがないわね、秋蘭、春蘭を援護しなさい！
」

夏侯淵「わかりました」

そして土蜘蛛ヤミーに向かっていった春蘭達は

兵士「この化け物めーっ！！
」

ギランッ！！

一人の兵士が土蜘蛛ヤミーに剣を向ける。

土蜘蛛ヤミー「ピギーッ！！
」

ブシュッ！！

だが土蜘蛛ヤミーが吐き出した紫色の液体が兵士に当たると

ジュジュッ！！

兵士「ああーっ！？…」

兵士は剣も鎧も骨も残らずに溶かされてしまった。

それを見た兵士達は怯え出す。

兵士「こいつと戦ったら溶かされておしまいだぞ！？」

兵士「冗談じゃない！怪我ならともかく骨すら残らないなんて嫌だっ！？」

ダダーッ！！

恐怖を感じた兵士達は次々と逃げていく。

夏侯惇「こら貴様ら！逃げるでない！」

残ったのは夏侯惇ただ一人だった。その夏侯惇も逃げた兵達を追っていた。

そしてその様子を見た曹操は

曹操「何でなの！？数ではあきらかにこっちが上だというのに！？」

「

あんなにたくさんいた兵士が逃げていったのを曹操は驚いていた。

映司「俺のいったことがわかったかい？いくら数が多くても恐怖っ

てのは伝染するものなんだよ」

簡単に言つと一人が怯えると他の人まで怯えるということなのだ。
(分かりにくくてすみません)

だが曹操は

曹操「兵がいけないのなら私が行くわ！」

バツ！

兵士が全員逃げたのにもかかわらず、一人で戦おうとする曹操。だが…

土蜘蛛ヤミー「ピギーッ！！」

ブシュッ！！

土蜘蛛ヤミーの吐き出した毒液が曹操の鎌に当たり

ジュジュッ！！

鎌は柄を残して溶かされてしまった。

曹操「私の鎌が！？」

そんな曹操に追い討ちをかけるように

ザザッ！！

土蜘蛛ヤミー達が曹操を囲む。

夏侯惇「華琳様！？」

あのまま一斉に毒液を噴射されたら曹操が溶かされてしまう！？

夏侯惇が叫んだその時

映司「一つ訂正しておくよ、確かに恐怖は伝染するけれども…」

シュツ！　パシツ！

アंक「フンツ！」

映司はアंकが投げたメダルを受けとると

映司「勇気つてのも周りに伝染するんだよね」

カチャカチャンツ！

キンキンキンツ！

映司「変身！」

映司はメダルをオーズドライバーにセットしてオースキャナーでスキャンさせると

ドライバー『タカ・トラ・バツタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャンッ！

映司は仮面ライダーオーズに変身した。

夏侯惇「何なのだ貴様は！？」

オーズ「話は後で、それじゃ」

バツ！

オーズは曹操を助けるために土蜘蛛ヤミーに向かう。

オーズ「ハッ！」

ズバッ！

オーズはトラクローで真空の刃を作り出して土蜘蛛ヤミーを切り裂いていく。

オーズ「曹操さん大丈夫！？」

曹操「その声、あなたはさっきの男！？その姿は何なの？」

オーズ「説明は後で…」

曹操「いま言いなさい！でないと首を切るわよ！」

オーズ「簡単に言うとこれは仮面ライダーオーズだよ」

曹操「おーず？」
「

二人が話している間に

土蜘蛛ヤミー「ギャシーツ！！」
「

土蜘蛛ヤミー達が二人を囲もうとする。

愛紗「映司殿、回りを囲まれてますぞ！」

オーズ「えっ？」
「

愛紗の声を聞いたオーズが回りを見てみると

ズラリッ！！

回りは土蜘蛛ヤミー達に囲まれていた。

オーズ「しまった！？」
「

オーズが今さら驚くと

ブシュシュッ！！

土蜘蛛ヤミーの吐き出した毒液が二人に襲いかかる。

オーズ「うわっ！？曹操、捕まってる！？」
「

曹操「何なの？」
「

ガシッ！

オーズは曹操を抱くと

バチバチッ！ ビヨンッ！

脚をバッタに変化させて跳んだ。

ジュワッ！

オーズ「ぐはっ！？」

だが腕に毒液がかかってしまった。

アंक「映司、メダルを換える！」

シュッ！ パシッ！

アंकが投げたメダルを受けとるオーズ

カチャッ！ キンキンキンッ！

そしてメダルを入れ換えてスキャンさせると

ドライバー『タカ・カマキリ・バッタ』

ジャキンッ！

オーズはタカキリバに変身した。

オーズ「ハッ！」

ズバッ！

そしてオーズは着地地点にいた土蜘蛛ヤミーをカマキリソードで切り裂いていく。

だが土蜘蛛ヤミーの方が数が多い

オーズ「これじゃあきりがない！？」

オーズが困っていると

アंक「ちっ！映司、曹操から無理矢理メダルを奪い取れ！そうすりゃあんなヤミーなんて軽く倒せるんだよ！」

曹操の持つクワガタメダルを奪うよう映司に言うアंक、だが優しい映司にそんなことができるわけがない。

そんなとき

スッ

曹操「私の考えが間違っていたのを教えてくれたのと私を助けてくれたお礼にくれてあげるわ」

曹操が映司にクワガタメダルを渡した。

アंक「最初から寄越せばいいんだよ！映司、それを使え！」

アंकが指示すると

オーズ「ありがとう曹操」

カチャッ！ キンキンッ！

そしてオーズはメダルを入れ換えてスキャンさせると

ドライバー『クワガタ・カマキリ・バッタ』

ドライバー『ガタガタガタキリバ！ガタキリバ！』

ジャキンッ！

オーズは新たな形態、ガタキリバコンボに変身した。

愛紗「姿が変わった！？」

鈴々「もしかしてあれが”こんぼ”ってやつなのかなのだ！？」

夏侯惇「あやつは一体何なんだ！？」

夏侯淵「落ち着け姉者、とりあえずあやつを見守ろうではないか」

そしてガタキリバに変身したオーズは

ヴィンヴィンッ！！

多数の分身を作り出すと

ガタキリバコンボは自分の分身を最大50体まで作ることが可能なのだ。

オーズ達『ハッ！』

ババツ！！

一斉に土蜘蛛ヤミーに向かっていく。

ズババツ！！

そして数で圧倒する土蜘蛛ヤミー相手にオーズ達は土蜘蛛ヤミーを切り裂いていく。

土蜘蛛ヤミー「ギャシーツ！？」

ガササツ！！

そして負けそうになった土蜘蛛ヤミー達が逃げようとする

オーズ達『逃がすかよ！』

キンキンキンツ！

ドライバー『スキヤニングチャージ！』

一斉にスキヤニングチャージしたオーズ達は

オーズ達『ハッ！』

ババツ！

バッタの脚力で高く飛び上がり

オーズ達『せいやーっ！！』

バババツ！！

一斉に必殺のガタキリバキックを繰り出していった。

ドカカカカッ！！

そして見事オーズ達のキックが土蜘蛛ヤミー達に命中し、

土蜘蛛ヤミー達『グギャーッ！？』

ドッカーンッ！！

爆発していった。

カチャンッ！ シュンッ！

そしてオーズが変身を解いて映司に戻ると

映司「久々のコンボは疲れた〜」

バタリッ！

映司はその場に倒れた。

しばらくして

映司が倒れている間に他のみんなは土蜘蛛やミーの糸に捕まっていた張三姉妹を救出し、彼女達から事情を聴くと

曹操「だったらこの娘達の処分は私に任せてもらっわ、悪いようにしないから安心しなさい」

張三姉妹は曹操に引き取られることになった。

そして桃香達は

桃香「私達も早く白蓮ちゃんのところに戻ろうか」

鈴々「帰りは絶対鈴々が”ばいく”に乗るのだ！」

愛紗「こら鈴々！映司殿は疲れているからまた今度にしておけ！」

アंक「フンツ！ガキが」

映司「はははっ」

そして映司達が去ろうとすると

曹操「ちよつと待ちなさい！」

曹操が映司を呼び止めた。

曹操「あなた、名前は何て言うの？」

今さらだが曹操が映司に名前を聞くと

映司「俺の名前は火野映司。真名ってのはない」

と言った映司に対して

曹操「助けてくれたお礼に私の真名を預けるわ、私の真名は華琳よ。覚えておきなさい映司」

スッ

そして華琳は去っていった。

夏侯惇「華琳様を助けてくれたお礼に私も真名を預けよう。私の真名は春蘭だ」

夏侯淵「では私も華琳様を助けてくれたお礼に真名を預けよう。私の真名は秋蘭だ」

こうして曹操達から真名を預けられた映司だった。

9 「兵数と伝染と昆虫コンボ」(後書き)

COUNTS MEDAL

現在オーズの使えるメダルは

タカ	2
トラ	1
バッタ	1
カマキリ	1
チーター	1
クワガタ	1

10「政務と竹籠と黒幕」(前書き)

9話目を少し改良してみました。

10「政務と竹籠と黒幕」

黄巾党を事実的に壊滅させた映司達は無事に白蓮の元に帰りつき、仕事を続けることにした。

白蓮の城

桃香「ふえ〜っ！疲れるよ〜！」

最近まで黄巾党を攻めていたためたまっていた仕事に苦戦する桃香しかも桃香の場合、行く前から仕事を溜め込んでいたためその量は映司達より多いのだ。

今の桃香達の身分は白蓮の客将（雇われ兵）だが、仕事を覚えるために仕事をする桃香だった。

映司「ほら桃香頑張つてよ！俺も手伝ってるんだからさ」

桃香「大体どうしてみんなは仕事してないの？」

ブクーッ！

桃香が膨れっ面をしていると

アंक「当たり前だろうがお前と違って映司達は出掛ける前にあらかじめ後から来る仕事も終わらしていたからな、サボって町に行っていたお前とは違うんだよ」

アंकの言う通り桃香は仕事をこつそり抜け出しては町に遊びに
って子供達と遊びまくっていたのだ。

だがそんな手が何度も続くと仕事が溜まり、仕事の納期がやってき
てしまったため今日中に終わらさなくてはならない仕事がたくさん
あるのだった。

鈴々ですら毎日遊んでいるように見えているが武官なので文官より
仕事が少ない、愛紗に言われて仕事をしていたため仕事は終わって
いる。

愛紗や映司は真面目タイプなため仕事は早めに終わらせている。

アंकは仕事をしていない（アंकいわく、何で俺が仕事しなくち
やいけないんだ！のこと）

朱里と雛里は最近やって来たばかりなので仕事はない

というわけで仕事があるのは桃香だけなのだ。

桃香と映司が桃香が残した今日中にやらなければならない仕事をし
ていると

ガチャリッ！

政務室の扉が開いて

鈴々「お兄ちゃん！遊ぼうなのだ〜！」

鈴々がいきなり入ってきた。

映司「鈴々、いま俺は桃香の仕事を手伝ってるからまた後でね」

映司が言うつと

鈴々「嫌なのだ〜！昨日お兄ちゃんが勉強したらバイクに乗せてくれる約束したのだ！」

実は昨日、どうしてもバイクに乗りたいという鈴々に対して映司が

『それじゃあ勉強したら乗せてあげるよ』と言ってしまい鈴々はバイクに乗りたいがためにを勉強したのだった。

駄々をこねる鈴々

映司「仕方ない、その辺走ってくるからちょっと抜けるね」

スッ

映司が政務室から出ていこうとすると

アंक「映司、用心のために一応持つときな」

シュッ！ パシッ！

アंकが投げたのはタカ・トラ・バッタのコアメダルとバッタカンドロイドだった。

映司「サンキューアंक！」

アंक「フンツ！お前が死んだらメダル集めができないからだ。行
くならさっさといけ！」

映司「わかったよ」

ガチャンツ！

そして映司は出ていった。

桃香「ふえ〜ん！アंकちゃん手伝ってよ〜！」

アंक「ちゃん付けするな！」

もちろんアंकは桃香の仕事を手伝わなかったという

そして映司達は

ブローツ！！

鈴々「キャッホー！なのだ〜！」

町の外をライドベンドーで走っていた。

映司「（それにしても最近現れてないけど俺とアंकをこの世界に
連れてきたあいつは今ごろ何してるんだろうな？）」

実際は映司達が出会っていないだけで謎のグリードはこの世界で暗
躍しているのだ。

鈴々「お兄ちゃん、もっと早く走るのだ！」

映司「わかったよ！とばすからしっぴかり捕まっけてね」

ブローッ！

ライドベンダーのスピードをあげる映司

そして夢中になっている間にもう日が暮れてしまった。

鈴々「お兄ちゃん、急がないとご飯が食べられないのだ！」

映司「待つてよ！？」

町中ではバイクを走らせたら事故になりかねないのでライドベンダーを押す映司

そんなとき

？「ちよつとそこの兄さん！」

映司「えっ？」

映司は近くにいた露店商に呼び止められた。

？「その兄さん、竹籠^{たけかご}買ってくれへんか？いまなら割り引きするで」

竹籠を買うようすすめてくる露店商

さいわいにも映司は愛紗から少しのお金をもらっていたので優しい

性格の映司は

映司「一つ買います！」

竹籠を買ったことにした。

？「毎度ありやで、それにしても兄さんすごい絡繰り（カラクリ）
を持ってるんやな」

露店商はライドベンダーを見つめる。

映司「これはバイクという乗り物だよ。それじゃあまたね」

そして映司は去っていった。

？「ばいくねえ、いずれウチもあんなん作ってみるかな」

露店商が考えていると

？「真桜ちゃん！」

？「真桜！」

ダダッ！

露店商の元に全身に傷のある銀髪の女の子と眼鏡をかけていて海老
の尾のような形に髪を結んだ橙色オレンジの髪の女の子がやって来た。

真桜「おーっ！沙和に風かいな、見てみい親切な兄さんが買っ
てくれて竹籠一つ売れたでこれでウチの勝ちやな！」

真桜が威張ると

沙和「ちっちっちっ！真桜ちゃん甘い、沙和も小さな二人連れの女の子に買ってもらって一個売れたから沙和と真桜ちゃんの勝ちなの」

真桜「何やて！？ほな風がビリっけで決定やな」

沙和「最下位の人みんなに晩御飯を奢るって約束だったなの」

にたにた

にやけながら風の方を見る二人

風「悪いが私は黒髪のきれいな人から竹籠を二個買ってもらったから断じて私はビリではないぞ」

ビシッ！

風が言うと

ガンッ！？

シヨックになる二人

沙和「こうなったらじゃんけんで決着をつけるなの」

真桜「のぞむとこや！負けた方が晩御飯奢るんやで！」

風「どちらでもいいから早くしてくれ」

結局この後、二人のじゃんけんは相子が続きまくり決着がついた頃には夜になっていたという

白蓮の城

映司「あれっ！？みんなも買っちゃったの！？」

帰ってきた映司はみんなの手に竹籠があるのに驚いていた。

愛紗「露店商の話を聞いていましたら同情しちゃいましてつい」

朱里「私達はやおい！本を買っているのを見られてしまいました口止め料として買っちゃいました」

桃香「いいな～！みんなはお出掛けできて」

プクーツ！

まるで口の中に何かを入れたハムスターの頬袋のように膨れる桃香

愛紗「何いつているのですか！もとはといえば桃香様が仕事を溜め込んでいたせいでしょうが！今日中に出さなくてはならない仕事もありますから今夜は徹夜ですよ！」

桃香「ふえ～ん！愛紗ちゃんの鬼～！」

今日も映司達は平和だった。

それから数日経ち

白蓮「元気でな桃香」

桃香「白蓮ちゃんも元気でね」

桃香達が白蓮のもとから去る日がやって来た。

そして

趙雲「では伯佳殿、私も去らせてもらう」

趙雲が言うつと

白蓮「待てよ趙雲！？お前まで去るのか！？」

驚く白蓮に対して

趙雲「さよう、この者達にはこの城を助けてくれた借りがありますのでな、その借りとして私がこの者達の仲間になるのが普通でしょう」

という趙雲だが本音は

趙雲「（これ以上伯佳殿のところにいたら出番が減るかもしれぬかな）」

であつた。

白蓮「仕方ない、お前に口で勝てるわけないし桃香達に恩を返すの

が普通だから行ってこい！」

趙雲「ありがとうございます」

スッ

そして趙雲は桃香達についていくことになった。

趙雲「劉備殿、我が名は趙雲子龍、真名を星と申します。以後お見知りおきを」

桃香「ありがとう星ちゃん 私の真名は桃香だよ」

そして愛紗達も星と真名を交換しあい、

映司「俺は火野映司、よろしくね星！」

星「こちらこそです映司殿 それとそちらはアンコウ殿でしたかな？」

アंक「俺の名はアंकだ！わざと間違えるんじゃないやねえよぶっ殺すぞ！」

桃香達に笑い風が吹いたのだった。

そしてその頃

名も無き城

？「くそっ！」

ドンッ！

この場所で謎のグリードが怒り狂っていた。

？「やはり生半可な欲望じゃ強いヤミーは産まれないか、おまけにアंकが飛び掛かったときにコアメダルを数枚落としたのは誤算だったぜ！」

謎のグリードが強いヤミーが産まれないことにイラついていると

？「貴様の力はその程度なのかラグル！」

何処からか声が聞こえてくる。音の出を探してみると

ゴポゴポッ

緑の液体が入った培養ケースの中に人が入っていた。

ちなみにラグルとは謎のグリードの名前である。

ラグル「わかってるよ、あんたが俺を石版の中から出してくれた上に外史の存在を教えてくれたおかげで俺は好きに暴れられるんだからな」

ラグルは元々強力な力を持っていたため800年前、メダルが作られてすぐに石版に封印されたのだった。

だが培養ケースに入っていた人物が封印を解いてしまったためこの外史にやって来たのだった。

？「仮面ライダー、俺にとって腹が立つ存在だ！奴には恨みはない
が同じ仮面ライダーなのだから然程さほど変わらないだろう。それよりも
うすぐ大きな戦いが起きる。それを利用すればオーズなんて軽く倒
せるぜ！」

ラグル「わかった。ありがとうよ左慈」

バンツ！

培養ケースに入っていた人物、それは西森の別作品『俺、参上！』
に登場し、電王一刀に敗れて爆死したはずの左慈であった。

左慈「（電王に敗れた時は死ぬかと思ったがその時発生した時空の
歪みに入って脱出した先がオーズの世界だったとはな、まあそ
のおかげでラグルを復活させ仮面ライダーに逆襲するという俺の野
望が叶ったわけだな。だが体のダメージがかすぎていまはこう
してセルメダルによって回復しなくてはいけないが待ってるよ仮面
ライダー！お前は必ず俺の手で殺してやるぜ！）」

意外な黒幕がいたのだった。

10「政務と竹籠と黒幕」(後書き)

ヤミーファイル

・土蜘蛛ヤミー

多数で発生するタイプのヤミー。吐く糸は強力な強度をもち、吐く毒液は鉄や骨すらも溶かすほど強力

・ラゲル

鬼の頭・天狗の鎧・九尾の狐の脚を持つ妖怪系グリード。その力は強力でウヴァ達を一人で倒し、800年前に封印されたほど、ヤミーの産み方は様々である。

名前の由来は争いの英語であるストラゲルから

11「脱走と時間稼ぎと孫策」

白蓮の元を離れた桃香一行は旅を続けていた。

ちなみに桃香が城を出る時白蓮の城にいた兵士達全員が『劉備様と共にいきます！』と言っていたが白蓮の泣きによる説得と桃香が拒否したことにより兵士達をつれていかないことになった。

そして映司達があてもない旅をしている頃、

呉の国・建業

？「雪蓮！雪蓮はどこだ！」

眼鏡をかけた黒髪色黒の女性が誰かを探していた。

とその女性のもとへ

スッ

？「どうしたのだ冥琳？」

桃色のショートカットっぽい髪型（西森に知識がないだけです）をした女性が現れた。

冥琳「これは蓮華様^{れんぷあ}、失礼ですが雪蓮を知りませんか？」

冥琳という女性が聞くと

蓮華「姉様か？今日はまだ見ていないがどうしたのだ？」

冥琳「あの人ときたらこれから袁術殿と会わなければならないのに『うるさいがきんちよの相手なんてしてられないわよ！』という書き置きを残して勝手に城を出ていかれたのです！」

蓮華「何だと！？」

蓮華は驚く。実は雪蓮という女性はしょっちゅう城を抜け出すため城の者はみんな困り果てていたのだ。

冥琳「早く見つけないと袁術殿のことだからわがママを言いまくるに違いありませんよ」

頭を悩ませる冥琳

蓮華「仕方がない、袁術殿には次期王である私がお会いする。その間になんとしてでも姉様を探し出してきてくれ！」

指示を飛ばす蓮華

冥琳「わかりました」

急いで搜索隊の準備をする冥琳だが時はすでに遅く

兵士「周瑜様、袁術様がやってこられました」

冥琳「もう来てしまったのか！？」

ちなみに周瑜とは冥琳の名前であり、冥琳は真名である。

そしてとうとう袁術が玉座の間にたどり着いてしまった。

玉座の間

そこにいたのは

？「七乃、孫策はまだかえ？」

七乃「お嬢様、孫策さんはお嬢様に会う準備に時間がかかるんですよ。のろまな家来を持つと大変ですね」

？「大変なのじゃ」

このお嬢様と呼ばれている金髪の小さな女の子が袁術（真名は美羽）、七乃と呼ばれているバスガイドみたいな格好をしている女の子が袁術の側近の張勳である。ちなみに孫策とは雪蓮の名前である。

二人が少し待っていると

蓮華「これはこれは袁術様、ようこそいらっしゃいました」

袁術を出迎える蓮華

美羽「お主は確か孫策の妹の…」

七乃「お尻が大きいので有名な孫権さんですよお嬢様」

美羽「おお、そうじゃったケツでかオババの孫権じゃったな」

なんでじゃがいも頭の五歳児の台詞を知っている？

さつきからケツでかと言われ、いつもならすぐ怒る蓮華だったが

蓮華「確かにその通りですね」

ニツコリ

その顔は笑顔だった

…のだが

ピキピキッ

こめかみの方に青筋が立ちまくっていた。

蓮華「（なんて子なの！姉様が会いたくない気持ちもわかるわ）

」

蓮華が美羽に対して怒りを感じていると

美羽「ところで孫策はどこにおるのじゃ？」

きよろきよろっ

この場にいない孫策を探す美羽

すると蓮華は

蓮華「孫策姉様でしたら胸が重いせいでぎっくり腰になったみたい

です」

自分を美羽に当てた罰としてでたらめを言う蓮華

普通ならそんなわけがあるもんかと気付くのだが

美羽「なんと！？やはり胸が大きいと大変じゃな」

七乃「ですよ〜お嬢様、ですから私はお嬢様みたいな貧乳がいい
と言ってるじゃないですか」

美羽は少しばかり足りなかったようで、七乃はわかっていたがあえて
言わないタイプだった。

蓮華「（単純ね）ですから姉様の腰が治るまでこちらをお飲みくだ
さい」

ガララーッ

蓮華が侍女に用意させたテーブルの上には

ジャーンッ！

大量の蜂蜜水がグラスに入れられていた。

これを見た途端美羽は

美羽「おおーっ！蜂蜜水なのじゃ〜」

美羽は蜂蜜に目がなかった。

美羽「早速飲みながら待つんじゃ七乃！」

七乃「はいっ」

蓮華「（これでしばらく時間が稼げる）」

呉の城が大変な頃、城を抜け出した雪蓮はというと

雪蓮「あゝあ、せつかく袁術から解放されてのんびりしようと思ったらお金忘れたなんて災難だわ」

城を抜け出した孫策こと雪蓮はある町に来ていた。だが財布を忘れてしまい大好きなお酒も飲めないでいたのだ。

雪蓮「王様の身分を利用してタダ飲みすると冥琳が怒るからなあ、どうしましょう？」

雪蓮が考えていると

雪蓮「んっ？あの人達見かけない人ね」

とある飲食店にいた映司達を見つけた。

アंक「ちっ！現在俺達が持っているコアメダルが6枚、あのグリード（ラグル）が数枚、残りのメダルはどこにあるっていうんだ？」

「

アंकがなかなかメダルが集まらないことに悩んでいると

鈴々「アンコのお兄ちゃん！ご飯食べるのだ！」

アंक「うるせえ！黙って食ってる！」

しつこく構ってくる鈴々を遠ざけるアंक

映司「それにしてもこれからどうするの？」

桃香「うーん、といってもあてもないしのんびり旅でもしようかな

」

愛紗「何を言っているのですか！桃様はいずれ太守にならなければならぬのです！そんな気分では困ります！」

星「愛紗よ落ち着け、桃様がのんびりなのは昔からのだろう。そういう性格は簡単には直らんのだから仕方あるまい」

愛紗「それでは困るのだ！必ず太守になれば！」

愛紗が最後まで言おうとすると

雪蓮「太守ってそんなにいいものなの？」

又ッ

雪蓮がいきなり輪に加わってきた。

朱里「はわわ！？あなたは誰ですか！？」

雪蓮「そんなことより……」

よろりっ　ぐきゅーっ！

雪蓮「お腹空いた」

バタリッ！

映司達の前に倒れ混む雪蓮

しばらくして

ガツガツッ！

雪蓮「フーツ！満腹満腹、ごちそうさん」

映司「驚いたよ今どき空腹で倒れる人がいるなんて！？」

雪蓮「あら、私だって驚いたわよ見ず知らずの私にご飯おごる人がいるなんてね」

映司「困ったときはお互い様だよ、人間助け合わなくちゃさ」

空腹で倒れた雪蓮を助けようといったのは映司だった。

アंक「まったく映司のお人好しにもホントに呆れ…」

アंकが最後まで言おうとすると

ピキンッ！

アंकは雪蓮から何かを感じ取った。

アंक「おい女！」

雪蓮「私の名前は雪蓮よ。何なの金髪トサカ鶏冠君？」

雪蓮的にはごちそうになったお礼に真名を勝手に与えたのだった。
(本名を言つと驚かれてしまうのも理由のひとつ)

雪蓮に言われたアंकは

スッ

アंक「お前からメダルの気配を感じるんだよ。お前、こいつに似た硬貨を持っているだろう」

アंकは雪蓮にタカコアメダルを雪蓮に見せると

雪蓮「どれどれ…ああ、これなら…」

スッ

雪蓮は自分の胸の谷間に手を入れると

雪蓮「これでしょ」

スッ

雪蓮は胸の谷間から1枚のメダルを取り出した。

映司「どこから出してるの!？」

雪蓮「女の子は谷間に物を入れるものなのよ それよりこれは何なの?毛の生えた虎みたいな動物が描かれているけどさ？」

ちなみに雪蓮が取り出したのはライオンコアメダルである。

アंक「お前は知らなくていいんだよ…それをよこせ！」

シュツ!

ライオンコアメダルを見た途端アंकは雪蓮からメダルを奪うために襲いかかる。

だが

パシッ!

アंक「なにっ!？」

雪蓮がアंकの手をつかみ

雪蓮「てえいつ！」

ブオンツ!!

アंक「うおっ!？」

ドッシーンッ!

背負い投げの要領でアंकを投げ飛ばした。

アंक「くそっ！何でこの世界の女はみんな馬鹿力なんだよ！？」

アंकが悔しがっていると

雪蓮「あなたねえ、私を誰だと思ってるの」

雪蓮「私は呉の国・建業の王、孫策伯符なのよ」

雪蓮が言つと

映司「孫策だつて！？」

孫策という名前に驚く映司だった。

12「勘と核と猫系コンボ」(前書き)

前回の三つの出来事

一つ、雪蓮こと孫策が城から脱出

二つ、脱出した雪蓮が映司達と出会う

三つ、雪蓮はライオンコアメダルを持っていた

12「勘と核と猫系コンボ」

孫策という名前に驚く映司

この小説の映司は三国志の知識があります

映司「（確か孫策って、呉の国の王様で最後は曹操の兵が放った毒矢で命を落としたんだっけ！？）」

じっ

映司が孫策こと雪蓮を見つめていると

雪蓮「あらやだっ！いくら私が美人だからって見つめられたら照れちゃうわ／＼／」

雪蓮が照れていると

アंक「照れてる場合じゃないだろう！お前が持っていても意味がないんだからさっさとそのメダルを寄越しやがれ！じゃないとぶっ殺すぞ！」

アंकが乱暴的に言うと

雪蓮「いやよっ これを持っていたら何かいいことが起きるって私の勘が冴えてるのよ。私の勘って当たるんだから」

アंक「はあ？勘なんかを信じるなんてお前バカじゃ…」

映司「よせよアंक！お前だってヤミーがメダルを持っているかも
つていう勘があるだろ。人によって勘は信じる信じないがあるんだ
からいいじゃないか！」

雪蓮「きみって案外良いこというじゃない」

雪蓮が映司を誉めると

ポイツ！

うっかりライオンコアメダルを投げてしまった。

アंक「今がチャンスだ！」

その隙をアंकが見逃すはずがなく

シュツ！

アंकは腕を飛ばした。

右腕だけが完全なアंकは体を残して右腕を飛ばすことができる
のだ。

愛紗「アंक殿の腕が飛んだ！？」

鈴々「おまけに腕が飛んだらいきなりアンコのお兄ちゃんが倒れた
のだ！？」

アंकが腕を飛ばすと体を借りている泉信吾の肉体が倒れるのだっ
た。（ちなみに腕が体から離れて数分経つと泉信吾は死ぬのだ。）

アंक「コアメダルはもらったぜ！」

アंकがライオンコアメダルに触れようとしたその時

パシッ！

アंकの後ろから何かが追いついてきてコアメダルを奪っていった。

アंक「何者だ！？」

アंकが叫ぶと

水虎ヤミー「ゲシシッ！」

アंकを追い抜いたのは水虎ヤミーだった。

水虎^{すいこ}：カップの一種、姿は様々だがここでは虎に近い姿になっている。

映司「ヤミーが出るなんて！？」

雪蓮「あの化け物は何なの？」

みんなが水虎ヤミーに驚いていると

水虎ヤミー「ゲシシッ！このメダルを返してほしくば俺を倒すことだな」

ボワッ！

そして水虎ヤミーの後ろから屑ヤミー達が現れる。

アंक「ちっ！」

スッ

アंकは腕を体に戻すと

ムクッ！

アंक「映司、こんなヤミーなんてさっさと倒してしまえ！」

シュッ！ パシッ！

立ち上がったアंकは映司にメダルを投げ、見事受けとる映司

映司「ヤミー相手なら仕方がない！」

カチャカチャンッ！

キンキンキンッ！

映司「変身！」

映司はメダルをオーズドライバーにセットしてオースキャナーでスキャンさせると

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ!』

ジャンクッ!

映司は仮面ライダーオーズに変身した。

変身した映司を見て

雪蓮「あれって何なの!?!」

一人驚く雪蓮

オーズ「説明はあとでするよ! ヤミーは俺がやるからみんなは屑ヤミーをお願い!」

愛紗「わかりました!」

鈴々「合点なのだ!」

星「御意!」

バツ!

ヤミー達に向かっていく映司達

桃香「私達は邪魔にならないように隠れてようね」

朱里「はいでしゅ!」

桃香達が安全のため建物の陰に隠れようとしていると

雪蓮「（むずむずっ）」

雛里「雪蓮さんどうしたんでしゅか？」

いきなり雪蓮の体が震えだし、雛里が心配して聞いてみる。

すると

雪蓮「戦いは私に任せなさい！」

ジャキンッ！

雪蓮は隠れずに愛剣・南海霸王を片手に戦いの中に入っていった。

そして戦場では

オーズ「せやせやせやっ！」

水虎ヤミー「ぐほっ！？」

オーズが水虎ヤミーをトラクローで切りつけていくが

水虎ヤミー「なぐんてな、そんな攻撃は効かないぜ！」

ズブブツ

体を液体化できる水虎ヤミーに打撃技は効いていなかった。

オーズ「こんなのありなの！？」

水虎ヤミー「ゲシッ！俺に打撃と投げは効かないぜ！」

水虎ヤミーに苦戦するオーズ

アंक「くっ！使えそうなメダルがない」

今、この窮地を脱出できる方法があるとしたらそれは水虎ヤミーのもつライオンコアメダルの力である。

水虎ヤミー「ゲシッ！オーズ、お前には俺の取って置きの技を食らってもらうぜ！」

すると水虎ヤミーは

ズブブッ！

一度体を水にすると

水虎ヤミー「食らいやがれ！」

バシャッ！

オーズ「！？」

オーズに液体化した自分をかけた。その瞬間：

ズブブッ！

オーズ「なっ！？」

液体化した水虎ヤミーはオーズの体を包み込んでいく

オーズ「ごはっ！？息ができない」

今のオーズは水の中にいるのと同じなのだ。

水虎ヤミー「ゲシッ！このまま溺れ死なせるのもいいがもっと面白くしてやるぜ！」

水虎ヤミーが言うと

めきめきっ！

オーズ「体が絞まる！？」

水虎ヤミーは水圧を変化させてオーズを潰そうとする。

愛紗「映司殿！？」

鈴々「お兄ちゃん！？」

ダダッ！

そこへようやく屑ヤミーを倒した愛紗達が助けに向かうが

愛紗「いま助け出しますからね！」

鈴々「引っ張り出すのだ！」

ずぼっ！

二人がオーズを水から引き抜くため水に触れた瞬間

ズブブツ！

愛紗「なっ！？」

鈴々「引きずり込まれるのだ！？」

逆に愛紗達が水に引きずり込まれていく

星「愛紗！鈴々！」

雪蓮「いま助けるからね！」

ガシッ！

星と雪蓮は愛紗と鈴々が引きずり込まれないよう引っ張りあげるが
どんどん引きずり込まれていく

水虎ヤミー「ゲシシッ！このまま全員水圧で潰してやるぜ！」

オーズ「こんのヤロー！」

じたばたっ

オーズは水虎ヤミーの中で必死に暴れまくる。

水虎ヤミー「んなことしたって俺は痛くも痒く（かゆく）も…」

ところがだ

ドカッ！

水虎ヤミーの中で暴れていたオーズの腕が何かに当たり、その瞬間…

水虎ヤミー「ギャーッ！？」

シュバッ！

いきなり水虎ヤミーが痛がってオーズから離れ出した。

しかもその時に

ポイツ！

持っていたライオンコアメダルまで投げてしまい

アंक「いただきましたぜ！」

パシッ！

ライオンコアメダルはアंकに奪われてしまった。

愛紗「大丈夫ですか映司殿！？」

オーズ「ゲホホッ！助かったけど一体何が起きたんだ？」

オーズが水虎ヤミーが離れた理由を考えていると

朱里「わかりました！」

遠くで戦いを見ていた朱里が何かをひらめいた。

朱里「おそらく映司さんの攻撃が当たったのはヤミーの核（いわゆる心臓のようなもの）だったんですよ！ だから痛がって離れたんです！」

簡単にいうと水虎ヤミーは自分の体の中にオーズを入れたため弱点である核を攻撃されたため離れたのである。

オーズ「ってことは、核を攻撃すれば倒せるわけか！ そうとわかればもう一度攻撃してやる！」

ところがそうもいかない

水虎ヤミー「ゲシシッ！ 弱点がわかったからって勝てると思うなよ！」

シュババツ！

水虎ヤミーは水を使って自分の分身体を大量に作り出した。

水虎ヤミー達「体に入れなければ俺達の勝ちだ！ さて本物がどれだかわかるかな？」

確かに外からでは核の位置がわからないのであった。

だがさっきまでと違う点が一つだけあった。それは…

アंक「映司！多少体が辛いだろうが持ちこたえろ！」

シュッ！　　パシッ！

アंकはオーズに二枚のメダルを渡し、見事受けとるオーズ

オーズ「確かに大変だけどコンボをやるしかない！」

カチャカチャンッ！

キンキンキンッ！

オーズはメダルをオーズドライバーにセットしてスキャンさせると

ドライバー『ライオン・トラ・チーター』

ドライバー『ラタラタ、ラトラーター！』

ジャキンッ！

オーズは新たな形態であるラトラーターコンボに変身した。

愛紗「あれが前に言っていた”らとらーたー”か！？」

鈴々「カッコいいのだ！」

雪蓮「また変化するなんてすごいじゃない」

そしてラトラーターコンボにチェンジしたオーズは

オーズ「みんな離れてて！」

全員『えっ？』

パーツ！

いきなり全身を光らせると

ピカッ！！

川の水をも蒸発させる熱線・ライオディアスを放出させた。（変身したら勝手に放出するため制御不能）

桃香「あついっ！？」

オーズ「ごめんなさい！」

オーズが予め教えたおかげでなんとか助かったがこの技は近くに人がいると危ない技である。

アंक「謝っている場合か！ヤミーを見ても」

もちろんライオディアスを食らったのは桃香達だけではなく

水虎ヤミー達『ギャーッ！？』

ジュジュッ！！

熱線を食らった水虎ヤミーの分身体は水で作られているため次々と

蒸発されていき

水虎ヤミー「なっ!？」
「

残るは一人となった。

しかも残念なことに

くつきり

熱線を食らったせいで液体化ができなくなり隠されていた核が浮か
び上がってしまった。

水虎ヤミー「ヤバイ!？逃げないと!？」
「

ダダッ!

水虎ヤミーは慌てて逃げようとするが

オーズ「逃がすかよ!」
「

シュンッ!

ラトラーターになったオーズは100mを3秒台で走ることができ
るので

シュタッ!

水虎ヤミー「ゲッ!？」
「

逃げ切れるはずがなく前に回り込まれてしまう。

そして

キンキンキンッ！

ドライバー『スキヤニングチャージ！』

オーズがメダルをスキャンさせると

バチバチッ！

オーズ「ハアーツ！」

ダッ！

オーズは全身を光らせながら水虎ヤミーに近付き

オーズ「せいやーっ！」

ズバッ！

水虎ヤミー「ぐおーっ！？」

トラクローで十字に切り裂いた。

そして水虎ヤミーは

水虎ヤミー「がはーっ！？」

ドッカーンッ！！

必殺技のガツシユクロスを食らった水虎ヤミィは爆発していった。

桃香「すっごーい！」

愛紗「お見事です！」

カシャッ！ シュンッ！

そしてオーズが映司に戻ると

映司「さすがに大変だった！？」

バタリッ！

その場に倒れる映司

実はラトラーターコンボは一番体に影響を受けやすく普通はトライドベンダーと一緒に使って体力の消費を抑えるのだ。

愛紗「大丈夫ですか！？」

鈴々「お兄ちゃんが倒れたのだ！？」

倒れた映司に集まる桃香達

一方雪蓮は

雪蓮「（あの”おーず”の力があれば我が孫家が袁術から独立する

のが早くなるわね　ここは私の色仕掛けで仲間になってもらおうつと」

そして雪蓮が映司に近づこうとすると

ガシッ！

いきなり雪蓮の肩が捕まれた。

雪蓮「ちよつと！何をする…」

くるっ

雪蓮が肩をつかんだ人に文句を言おうとすると

冥琳「やっと見つけたぞこの馬鹿王が」

ゴゴゴッ…！！

そこにいたのは鬼の角を生やした冥琳だった。

雪蓮「め…冥琳！？」

冥琳「お前という奴は！いくら会いたくないからって逃げ出すやつがいるか！　帰ったらしばらく酒は禁止だから覚悟しておけ！」

雪蓮「いや〜ん！？」

そして雪蓮は冥琳に引きずられながら去っていった。

呉の城

美羽「おお孫策よ、ぎっくり腰は治ったのかえ？」

雪蓮「はあ？」

しばらくの間、美羽の相手をさせられる雪蓮だった。

12「勘と核と猫系コンボ」(後書き)

┌COUNTSMEDAL┐

現在オーズの使えるメダルは

タカ	2
トラ	1
バッタ	1
カマキリ	1
チーター	1
クワガタ	1
ライオン	1

13「陰謀と脱獄とガメル復活」

桃香達があてもない旅を続けている頃

世間では大変なことが起きていた。

洛陽

かつて平和だったこの国はもはや人っ子一人もなく、辺りを見れば

屑ヤミー「ギギーッ！」

街は董卓軍の鎧を着た屑ヤミーで溢れていた。

そしてその状況を城から見ていた人達がいた。

洛陽の城

？「ちつくしよー！あいつらこの国で好き勝手しおってからに！」

董卓軍武将・張遼（真名を霞）

？「我々の力が足りないばかりに！」

同じく董卓軍武将・華雄

？「あんなやつを仲間だと言われてねねは悔しいのです！」

董卓軍軍師・陳宮（真名をねね）

？「でも従わないと月がひどい目にあわされる」

董卓軍武將・呂布（真名を恋）

彼女達だって本当は暴れたいのだがそれをしない理由は主君である董卓がひどい目にあわされないためである。

牢屋

董卓「・・・」

？「月^{ゆえ}、元気出しなよ」

この場所で董卓（真名を月）が軍師である賈馱（真名を詠）と一緒に捕らわれていた。

詠「あいつらったらひどいわね！またこの街から住民が出ていったわ」

詠が言うと

月「詠ちゃん、私が悪かったのかな？私があの時しっかりしていてもたら大丈夫だったかもしれないね」

詠「月…！？」

ことの始まりは数日前、月が皇帝である劉弁、劉協兄弟に呼ばれて洛陽に来たときのこと

劉弁「董卓よ、今までよく頑張ってくれたな。ではこれより朕（ちん・皇帝が使う私）から褒美があるから受けとるがよいぞ」

まだ小さな皇帝兄弟から月が褒美をもらおうとすると

スッ！ ガシッ！

劉協「うつ！？」

劉弁「協！？」

月「あなたは誰ですか！？」

いきなり劉協が捕まってしまい捕まえた犯人はというと

ラグル「俺の名はラグル、この街を俺に明け渡せ！さもなくばこのガキを殺す！」

現れた犯人はラグル（謎のグリードの名前）だった。そして劉協を締め付けるラグル

劉協「兄上…こんな悪党に洛陽を明け渡したらダメです！」

捕まりながらも何とか拒否しようとする劉協に対し

ラグル「ガキは黙っている！」

ギュッ！

劉協「うつ！？」

ラグルは劉協を締め付ける手に力を込める。

劉弁「やめるのじゃ！お主の話を聞くから協を離すのじゃ！？」

それを聞いたラグルは

ラグル「最初から素直に聞けば良いんだよ！」

パッ！

ラグルは劉協を締め付ける手を離す

ラグル「用件はただ一つ！この街は今日から俺のものだ！邪魔な皇帝達はおとなくしてもらうぜ！」

シュバツ！

そしてラグルの後ろから現れた屑ヤミー達が現れると

ガシッ！ ガガシッ！

皇帝兄弟を捕らえる。

ラグル「そいつらは地下牢にでも入れときな！」

屑ヤミー「ギギーッ！」

劉弁「離すのじゃ！」

劉協「朕達を離せ！」

そして皇帝兄弟は屑ヤミー達に連行され地下牢に入れられた。

ラグル「さてと」

そしてラグルは次に月を見ると

ラグル「あんたには名前を借りさせてもらっぜ！逆らったら皇帝兄弟の命はないぜ！」

月「へうゝ！？」

それから数日後

ガシャンッ！

洛陽の街では董卓軍の鎧を着た屑ヤミー達が暴れまくっていた。

屑ヤミー「これより洛陽は董卓様が支配する！意義をいう奴は処刑だ！」

住民「ふざけるんじゃない！」

無茶をいう屑ヤミーに一人の住民が逆らおうとするが

屑ヤミー「お前は『董卓様反逆罪』で死刑だ！」

ズバッ！！

住民「ぐはっ!?」

住民はあっという間に斬られてしまった。

それからというもの

屑ヤミー「『洛陽呼吸税』を取る!

屑ヤミー「董卓様への貢ぎ物みつぎものとしてこの家の食料をもらっ!」

こんなことが毎日のように起こり洛陽は地獄の街と化していった。

そして住民達の話のなかでは

『董卓はひどい奴だ!』

『横暴だ!』

という董卓の悪い噂が流れていた。

それからというもの

ピュンッ! ガッンッ!

兵士「いたっ!?」

住民「董卓は洛陽から立ち去れ!」

住民「お前らなんて死んでしまえ!」

住民の怒りが爆発し、その結果本物の董卓軍兵士にまで被害が及んでいった。

兵士「このっ！」

兵士「よせっ！董卓様が住民を傷つけてはいけないと言っていただろっ！」

真実を話したい兵士達だったが話したら月や皇帝兄弟の命がないと脅されているので何もできなかった。

だが兵士の中には

兵士「（この事を他の諸侯に知らせて助けてもらおう！）」

夜の闇に紛れて抜け出そうとするものがいたが

ラグル「お前、何をする気だ？」

兵士「へっ！？」

ズバッ！！

抜け出そうとした兵士は次々に殺されていった。

ということがあったのだった。

詠「月は悪くないよ！悪いのはラグルっていう奴だよ！」

月「詠ちゃん…」

詠が月を励ましていると

ラグル「麗しき友情ってか」

ガタンッ！

いきなりラグルが現れた。

詠「いったい何の用よ！」

ラグル「そう怖い顔をするなよ！一つ話をさせに来たのさ、ようやく準備が整ったからそろそろ諸侯にこの事を伝えにいくぜ！董卓が洛陽を地獄に変えたってな！」

実はこの日まで各諸侯が間諜スパイを送り込んで洛陽の様子を調べていたのだが屑ヤミーとラグルによってみんな殺されたため誰一人として洛陽の様子を知る諸侯がいないのだ。

つまりこのままでは月が悪人にされようとしている。

恐ろしい話を聞かされた月は

月「何でそんなことをするんですか！？私に何か恨みでもあるんですか！」

ラグルに向かって叫ぶと

ラグル「恨み？そんなものはない！ただ俺はあるお方の命令を聞い

ているだけだ」

そのあるお方とは知つての通り現在は療養中の左慈である。

詠「アンタ！そんなことのために月を利用するなんて許さないわよ！
」

ラグル「黙れ下等な人間め！では俺はしばらく去るが逃げられると思つたら大間違いだぜ！
」

スッ　チャリンッ！

ラグルは自分にセルメダルを入れると

ズズズッ…！

ラグルから三体のヤミーが産まれた。

ラグル「お前達はこの城に潜んでいる！齒向かう奴は殺せ！
」

ヤミー達『かしこまりましたラグル様！
』

ラグル「それじゃあ行ってくるぜ！
」

そしてラグルは牢屋から立ち去っていった。

ヤミー「それじゃあ俺達も潜むとするか
」

ヤミー「ラグル様の命令だしな
」

ヤミー「屑ヤミー、しっかり見張っておけよ！」

そして三体のヤミーも見張りを屑ヤミーに任せて立ち去っていった。
ヤミー達が去っていった後

月「詠ちゃんどうしよう！？このままじゃ洛陽が戦場になっちゃうよ！？」

詠「落ち着きなさいよ月！それよりこいつを見てよ！」

スッ！

詠は月に何かが入った袋を見せる。

月「詠ちゃん、これって何なの？」

月が聞くと

詠「あの変な体をした奴が頭に入れていた硬貨が入っている袋だよ。実はボク達が捕まった時に一袋奪っておいたんだ。何に使うかわからなかったから黙っていたけどまさか化け物を作る道具だったかね！？」

実際はそうとも限らないのだが実際ヤミーを産み出すところを見た詠はそう思っていた。

詠「この袋があればとりあえずもう化け物は作れないはずだよ。これを持って月は逃げなさい！」

スッ

詠は月にセルメダルが入った袋を渡す

月「詠ちゃん、逃げるといつてもどうやって逃げるの？牢屋の前には見張りがいるよ」

月が聞くと

詠「それなら大丈夫　さっき思い出したんだけどこの牢屋は…」

ググッ！

詠が一つだけ色の違う煉瓦を引っ張ると

ガラッ！

そこに小柄な月ならば通れる隙間が出現した。

詠「この牢屋、前に恋が鍛練した時に壊したまんまだったのを思い出したのよ！あの時恋が適当に直したお陰で助かったわ」

確かに煉瓦を引っ張るだけで崩れるなら適当だといえよう。

詠「さあ月！月くらいの体なら通れるから硬貨を持って逃げなさい！見張りはおクが引き付けておくから」

だが月は

月「ダメだよ！私が逃げ出したら詠ちゃん達がひどい目にあわされ

るよ！？
「

行くのを嫌がると

詠「ボク達なら大丈夫だよ。月のためなら死ぬのだって怖くないからさ」
「

月「でも……」
「

詠「平気だつて！月には前に拾った変な生物が描かれた硬貨だつてあるんだしさ！それをボクだと思つて行きなよ」
「

月「詠ちゃん……」
「

そして月は

月「必ず助けに来るからね！」
「

行く決意をした。

詠「待ってるよ！やいっ！その見張り！」
「

屑ヤミー「ギッ？」
「

詠「か弱いボク達を捕らえることしかできない馬鹿者め！」
「

屑ヤミー「ギーッ！！」
「

そして詠が屑ヤミーを引き付けている間に

月「さよなら詠ちゃん！」

スッ

月は穴を通って牢屋から脱出した。

そして外に出た月は

月「とりあえずこの国の危機を人に知らせないと！」

洛陽の真実を知らせにいくとする。

月「でもこの服じゃ動きにくいし目立つから…」

今の月は通常服姿である。確かにこのままでは目立つので悪いと思いつつも空き家の中に入って服を頂戴することにし、町娘の服装に変えた。

月「それじゃあ急がなくちゃ！」

ダッ！

さつきよりかは動きやすい服に着替えた月は急いで洛陽を駆け抜ける。

しばらくして

月「ハアハア…もうダメ」

洛陽は広く、あともう少しで抜けるところで月はへばってし

まった。

だが月が急こうとすると

屑ヤミー「ギッ！」

街をうろついていた屑ヤミーに見つかってしまった。

月「見つかった！？」

ダッ！

慌てて逃げる月だが屑ヤミーとはいえ疲れた月が逃げ切れるはずがなく

月「へうつ！？」

バタッ！

うっかり転んでしまった。

ジャララーッ！！

しかも転んだ拍子にセルメダルが入った袋も持っていた硬貨も落としてしまい月に危機が訪れる。

屑ヤミー「ギギーッ！！」

月に迫る屑ヤミー

月「（ごめんね詠ちゃん、必ず助けに来るって言ったのに）」

月が死を覚悟したその時

ゴゴゴツ…！！

屑ヤミー「ギッ！？」

月「何の音ですか！？」

偶然にも月が持っていた硬貨がセルメダルサイコアメダルの中に埋もれていたため

グニョニョツ！！

セルメダルが人の姿に変化していき

スッ！

サイコアメダルが入った途端

バァーンッ！！

？「ウウウ…」

重量系怪人のガメルが誕生してしまった。

13「陰謀と脱獄とガメル復活」（後書き）

ヤミーファイル

水虎ヤミー

体を液体化させたり水で分身を作る強敵だが核を攻撃されるとヤバイ

ガメル

重量系怪人。象の鼻と牙、サイの角を備えた頭部、ゴリラの腕とゾウの脚、厚い皮膚をもち屈強ボディの持ち主。そのパワーがグリードの中でもトップクラスなのだが頭が悪く幼稚っぽい

14「ガメルと護衛と馬鹿」（前書き）

前回の三つの出来事

一つ、ラゲルが董卓の名を語って洛陽にて大暴れ

二つ、危機を知った董卓が洛陽から脱出

三つ、逃げ出した董卓に屑やミーが襲いかかるなかグリードの一人ガメルが出現した。

14「ガメルと護衛と馬鹿」

ガメル「ウウウ…」

偶然にも月が持っていたサイコアメダルがセルメダルの中に埋もれていたためグリードの一人ガメルが復活してしまった。(グリードはたとえ倒されても核となる頭部のメダルと大量のセルメダルがあれば復活できるのだ)

屑ヤミー「ギギーツ！？貴様はラグル様に殺られたガメル！？」

ガメル「ここどこ？メズールどこ？」

メズール「グリードの一人である女怪人。水の属性をもちガメルに気に入られている。」

ガメルが辺りを見ていると

ガメル「んっ？」

月が屑ヤミーに殺されようとしているのを見たガメルは

ガメル「(あの子は確か…)」

ガメルはまだ自分がコアメダルの時のことを思い出していた。(グリードはコアメダルの時でも意識を持っているのだ)

数日前

月「詠ちゃん、変わった硬貨見つけたよ！」

詠「確かに変わっているけど見たことないからきつと偽金よ使えないじゃない」

詠が言うと

月「たとえ偽金だとしてもせつかく拾ったんだから私の宝物にするよ」

それからというものの、物を大事にする月は

暇があればコアメダルをみがき、時には話しかけるなどを繰り返していた。

月「私のお守りにしよつと 私に何かあったら助けてください」

そしてコアメダルそう言った時、ガメルの心の中には

現在

ガメル「月を守るっ！」

月を守るという意識が芽生えていた。（もし他のグリードなら月を見捨てていたのかもしれない）

ガメル「うおーっ！」

ドドーッ……

ドンッ！！

屑ヤミー「ぐはっ！？」

そしてガメルは屑ヤミーに突進して突き飛ばした。

ガメル「月を……」

グググッ！！

ガメル「守る！」

ガバッ！！

ガメルにはグリード随一のものすごい怪力がある。ガメルはそこから辺にあった大岩を持ち上げると

ブンッ！！

屑ヤミー「ギギーッ！？」

プチッ！！

屑ヤミーに投げつけて大岩の下敷きにした。

ズズズッ……

そしてガメルは月に近寄ると

ガメル「俺、月を守る！」

ちなみに今のガメルはコアメダルが一枚しかないので復活しているのは頭部だけで後は黒い体となっている。この状態の場合ガメルを気味悪く思うのが普通なのだが優しい月は

月「危ないところを助けてくれてありがとうございます」

ニコッ

につこり笑顔でガメルを見る月

ガメル「よろしく／＼／＼」

それを見たガメルは顔を赤くするのだった。

月「そうだった！？こうしちゃいられない！早く洛陽の危機を知らせなくちゃ！」

月が急ごうとすると

ガメル「俺も行く！」

月についていこうとするガメルだが

月「ついてきてくれるのはありがたいですけどその姿じゃ…」

ガメルの姿ははっきりいつて怪人である。そのためおもいきり目立つのだった。

ガメル「大丈夫」

ガメルが言っと

スッ

ガメルの姿は怪人体から人間体であるシルバーの服を着た長身の男に姿を変えた。

ガメル「これで大丈夫！俺、月を守るためについていく！」

月「はあ…ありがとうございます」

少々驚きながらもガメルを護衛につれていくことにした月だった。

その頃、袁紹の城では

？「麗羽様、洛陽からきた人が麗羽様に会いたいようです！」

緑の髪をした文醜（真名を猪々子）が主人である袁紹（真名を麗羽）に報告していた。

麗羽「洛陽？確か送り込んだ間諜が戻ってこない未知の街でしたわね、いいでしょう通しなさい！」

麗羽の城・玉座の間

この場には麗羽と部下の猪々子、顔良（真名を斗詩）と洛陽から来た人以外誰もいなかった。

麗羽「わたくしは忙しいですの、用件があるなら早く話しなさい！」

「

と言っているがさっきまでおもいきりくつろいでいた麗羽

人「では率直に申し上げます。実は袁紹様に洛陽を救ってほしいのです！」

人が言う

麗羽「どういことですか？」

人「実は洛陽では董卓が住民から暴税をとったり、虐殺したりと悪事を働いているのです！皇帝である劉弁様、劉協様が人質にとられているため逆らうことも許されないのです！」

麗羽「何ですって！？皇帝様が人質に！？」

人「私は仲間が逃がしてくれたので何とか逃げることができましたが洛陽を救いたがため兵力、魅力が豊富で高貴な袁紹様に助けを求めたのでございます！どうか洛陽をお救いください！」

人が麗羽に伝える

麗羽「兵力、魅力が豊富で高貴……。おーほっほっほっ！貴方は人を見る目がありますわね！わかりましたわ洛陽を救うためこの袁紹が一肌脱いで差し上げますわ！」

おだてられると調子にのって何でも引き受けてしまう麗羽だった。

人「ありがたきお言葉でございます！だが董卓軍には猛者が勢揃い

ですので袁紹様を危険にあわせるわけにはいきません。そこで辺りの諸侯に猛者共の相手をさせればよろしいかと」

麗羽「確かにそうですわね、高貴なわたくしが怪我をしたら全人類が泣きますわ。猪々子、斗詩！すぐさま各諸侯に文を出しなさい！

」

猪々子・斗詩『あらほらさっさー！』

ササッ！

そして部下の二人がいなくなると

くるっ

麗羽「貴方には部屋をとらせますのでゆっくりと…」

」

麗羽は洛陽から来た人の方を見るが

ぽっん

人はいなくなっていた。

麗羽「あら、気の早い人ねもうお帰りになったのかしら？」

」

麗羽の城・屋根

人「左慈様の言う通りあいつは単純な馬鹿だったな」

スッ

そして人はラグルへと姿を変える。

ラグル「後は洛陽での戦いを待つのみだな」

ラグルがそう言った時

ズキンッ！！

ラグル「ごふっ！？」

急にラグルが苦しみだした。

ラグル「この感じはまさか！？」

スッ！ ジャララッ！

そしてラグルは自分に入れておいたメダルを出してみると

ブルルッ！！

ゴリラメダルとゾウメダルが震えていた。

ラグル「やはり！？この感じはグリードが復活した証、このメダルが震えていたということはガメルが復活したということか！？」

ラグルはメダルの異変に気づくと

ラグル「アंकが復活させるわけがないし、他のメダルは俺がほとんど持っている、そしてアंकと俺以外にメダルを知っている奴は

「」

ラグルが少し考えると

ラグル「董卓だ!？」

ビュンッ!!

ラグルは急いで洛陽の城に向かっていった。

それからしばらくして、

洛陽の城

スタッ!

ラグルが洛陽の城に着くと

ヤミー「これはこれはラグル様、お早いお着きで」

ヤミー「これで洛陽が戦場になればセルメダルが稼げますね」

ヤミー「さぞかしあの方も喜ぶでしょう」

三体のヤミーが出迎えるなか

ラグル「董卓はどうした!？」

ラグルが聞くと

ヤミー「あの小娘達なら屑ヤミーに見張らせていますが…」

ラグル「馬鹿野郎！！」

スッ

ラグルは牢屋に向かっていく

牢屋

屑ヤミー「ギギーッ！ラグル様ごきげんよ…」

ラグル「退きやがれ！」

ドンッ！！

ラグルは見張りをしていた屑ヤミーを突き飛ばして牢屋を見ると

バンッ！

牢屋の中に董卓（月）はいなく、詠しかいなかった。

ラグル「しまった！？逃げられた！？」

考えたくなかった真実に驚くラグル

詠「へんっ！ざまあみなさいアンタの野望もこれでおしまいよ！」

牢屋にいた詠が言うと

ガチャリッ！

スタスタッ

ラグルは鍵を開けて牢屋に入り込むと

ドグボッ！！

詠「きゃっ！？」

力一杯詠を殴った！！

ラグル「なめるなよ下等な人間が！！ お前にはまだ利用価値があるから殺さないでやるぜ！」

スタスタッ

そしてラグルは牢屋から出ると

ラグル「お前達！必ずやオーズと董卓を見つけ次第殺せ！もし殺し損ねたら命はないものと思えわかったな！！」

ラグルが叫ぶと

ヤミー達「わかりました！？」

ラグルの気迫に怯えるヤミー達だった。

ラグル「俺はガメルを殺してくる！貴様らはさっさと変身して準備しておけ！」

ヤミー達『りよ…了解しました!？』

ズズズツ…

そしてヤミー達はミイラのような姿から

ジャキンツッ!!

怪物体へと変身していった。

普通ヤミーは欲望を叶える前は大抵ミイラのような姿をしているが時には怪物体へと変身するのだ。(テレビではウヴァやカザリ、アंक(ロスト)のヤミーのみ)

そして三体のヤミー達はそれぞれ

網切ヤミー、塗り壁ヤミー、牛鬼ヤミーあみぎり きゅうきへと姿を変えていった。

牛鬼ヤミー「シ水関には網切、虎牢関には塗り壁がいけ!俺は万が一のため皇帝を見張る!」

網切ヤミー「わかったザンス!」

塗り壁ヤミー「任せるダス!」

いよいよ三国志の中でも大きな戦いが始まろうとしていた。

14「ガメルと護衛と馬鹿」(後書き)

P S 2 版 真・恋姫†夢想

ついに発売しました。

もちろん西森は購入しました。完全クリア頑張ります。

15「反董卓連合と総大将と大馬鹿」(前書き)

ついに洛陽での戦いが幕を開ける。

15「反董卓連合と総大将と大馬鹿」

旅を続ける映司達とはある街にて

『洛陽が魔王董卓に支配された！我こそはという腕自慢は戦いに協力すべし！』

と書かれた立て札を見かけた。

鈴々「お兄ちゃん、これってどういうことなのだ？」

内容が理解できていない鈴々が映司に聞くと

映司「つまり董卓っていう悪い奴がいるから強い人は集まってって書いてるんだよ」

簡単な説明をする映司

桃香「洛陽の人が苦しんでいるならほっとけないね！」

愛紗「私達も向かうとしましょう！」

そして桃香達は反董卓連合の本部に参加を申し込みに来た。

受付「えーっと、劉備に關羽、張飛、趙雲、諸葛亮、鳳統それと火野映司とアंकですね。わかりました」

何とか受付を済ませたかと思いきや

受付「では所属する軍を申してください」

桃香「へっ？」

受付「へっ？ではありませんよ！少人数で来た者は軍に所属することになってますので」

桃香「えーっと、所属軍もなにも私達も一団なんですけど」

桃香が受付に言うと

受付「たった8人で軍だって！？からかうなら帰ってくれこっちだって忙しいんだ」

鈴々「鈴々達はからかってないのだ！ホントのことを言ってるだけなのだ！」

鈴々が受付に怒鳴ると

受付「子供は黙っている！単独で戦いたいなら有名軍の推薦文でも持ってくるんだな」

受付が言うと

？「だったら私が推薦してあげるわよ」

後ろから声が聞こえてきたので受付が振り向くと

受付「そ…曹操殿！？」

そこには曹操（華琳）がいた。

華琳「私の推薦じゃあ役不足かしら？」

受付「とんでもない！曹操殿の推薦ならば喜んで受け付けます！？
さあさっさと入れ！」

華琳の姿を見た途端、受付の態度があきらかに変わった。

そして何とか入れた映司達は

映司「ありがとう曹操」

華琳にお礼を言うと

華琳「あら、あなたには私の真名を許したはずよ。構わないから華琳と呼びなさい」

鈴々「じゃあかり…」

華琳「あなたには真名を許してないわ！」

細かい華琳であった。

華琳「まあともかく正義感が強いあなた達なら悪人をほっとくはずがないと思っていたわ」

桃香「あれっ？曹操さんは違うんですか？」

華琳「私はあなた達とは違うのよ、私は自分の霸道のために連合に

参加しているのよ！まあ今度は数に頼らないけどね」

前の戦いは数だ！という性格から少しは改善された華琳だった。

華琳が映司達と話していると

？「あらっ！あなた達！」

どこからか聞いたような声が聞こえてきた

雪蓮「久しぶりじゃない」

映司「雪蓮！？」

そこにいたのは孫策こと雪蓮だった。

華琳「あなた達、孫策と知り合いだったとわね！？」

そのことに驚く華琳

雪蓮「あなた達が来てくれたら百人力どころか千人、いや万人力よ！期待してるからね」

それは少しオーバーである。

とそこへ

？「お前達久し振りだな！」

いきなり誰かがやって来た。

映司「え〜っと、あなたは確か…公賛孫さん！」

鈴々「違うのだお兄ちゃん！孫公賛なのだ！」

アंक「ハムだろ？」

白蓮「わざとまちがえてるだろう！私の名は公孫賛だ！」

実はわざとではなくマジだったりする。

桃香「そくだよ名前を間違えるなんて失礼だよ！ごめんねパイパイちゃん」

白蓮「白蓮だ！」

親友であった桃香にまで間違えられたことに怒る白蓮

愛紗「みんないい加減にしろ！早くしないと軍議が終わってしまうだろ！」

しびれを切らした愛紗が怒鳴ると

華琳「うつ…！？」

雪蓮「あっ…！？」

急に黙りこむみんな

映司「どうかしたの？」

映司が聞くと

白蓮「その…まだ軍議は始まってないんだ」

白蓮が言った瞬間

朱里「何故です！事態は一刻を争うというのに！」

雛里「洛陽を早く救わないといけないのに！」

白蓮に朱里達が詰めかけると

白蓮「私が悪いんじゃない！文句なら直接袁紹に言ってくれ！」

白蓮から話を聞いた映司達は袁紹がいる天幕に集まった。

袁紹（真名を麗羽）「あら、あなた達も連合軍に参加してくださいさるのね、手勢が増えて大助かりですわ！」

桃香「そんなことより早く軍議を始めましょうよ！」

桃香が言うつと

麗羽「ダメですわ！まだ足りないものが一つありますもの！」

麗羽が言うつと

朱里「足りないものって兵力ですか？」

鈴々「ご飯なのだ！」

映司「軍資金？」

映司達が足りないものを言ってみるが

麗羽「あなた達お馬鹿じゃありませんの？足りないものそれはすなわち、みんなをまとめあげる総大将ですわ！だけでも総大将なんて危なくて責任感のある役目を誰もやりたがらなくて困ってますの、ああ、この連合軍には高貴で美しく統率力もある、まるでわたくしのような人物が総大将にふさわしいというのに誰もやりたがらないなんて困りましたわ」

この話を聞いて映司達全員が思った。

全員「（絶対この人がやりたいんだ！）」

だが麗羽は自分からではやらない性格である。

しかしこのまま軍議が開けないと何のために集まったのかわからなくなるため

桃香「もうっ！それなら袁紹さんが総大将をしたらいいじゃないですか！」

しびれを切らした桃香が言うと

麗羽「えっっ！？わたくしが総大将をするなんて困ってしまいますわ！でも劉備さんがどうしてもというなら引き受けてもよろしくですよ」

アंक「なあ映司、こいつって馬鹿だ…」

ガバッ！

映司「今はそんなこと言うなよ！」

その先を言おうとするアंकを止めようとする映司

もし目の前で言ったならこの場が戦場になりかねない

桃香「わかりましたお願いします！」

桃香が麗羽に言う

麗羽「おーほっほっほっ！劉備さんにそこまで推薦されたら仕方ありませんわね！わかりました。このわたくしが総大将を引き受けますわ！その代わり劉備さんはわたくしを総大将に無理矢理押しつけた責任としてわたくしの命令には絶対服従でお願いしますわ」

桃香「はい…」

なんてことを言ってしまったんだろうと今さら悔やむ桃香

そんな桃香に

ぽんっ！

映司「大丈夫だって！俺達もフォロー…補助するからさ」

愛紗「映司殿の言う通りです」

鈴々「鈴々も手伝うのだ！」

朱里・雛里「私達もお手伝いしましゅ！」

星「皆が手伝うのなら私も手伝わなくてはなるまい」

桃香「みんな…ありがとう！」

優しき仲間に囲まれた桃香は幸福者だった。

アंक「フンツ！俺は協力なんてしないから」

ただ一人を除いて

麗羽「劉備さん、なにをぐずぐずしてますの！軍議を始めますから早くなさい！」

さっきまでぐずぐずしていた人に言われたくないセリフである。

そして全軍が一つの大幕に集まった。

麗羽「おーほっほっほっ！この度総大将に推薦された袁紹ですわ！まずは皆さん自己紹介から始めましょう！」

麗羽が言つと

美羽「妾^{わらわ}の名は袁術なのじゃ！そしてこっちが部下の孫策なのじゃ！」

雪蓮「はじめまして孫策よ」

美羽「胸が大きすぎてぎっくり腰になった愚か者なのじゃ」

美羽はまだ蓮華が言った嘘を真に受けていた。（11参照）

だが馬鹿にされた雪蓮は

雪蓮「（このクソガキ！ 覚えてなさい！ 攻め混んだ時にお漏らししても許してあげないんだからね！） そうなのよ、もう胸が大きいと大変ね」

怒りを心の中に押さえ込みながら笑顔をするのだった。

華琳「陳留の曹操よ、よろしく」

馬超「西涼の馬超だ！ 病に倒れている馬騰に代わってきたぜ！」

白蓮「私は公…」

麗羽「それでは最後に…」

麗羽が白蓮のセリフを遮る（さえぎる）と

麗羽「この場にたった八人しか来なかった愚か者の劉備さんですわ！」

麗羽が桃香を馬鹿にするように紹介すると

馬超「八人ってマジかよ!?」

美羽「キャハハッ!とんだお馬鹿よのう七乃」

七乃「はいお馬鹿ですねお嬢様」

回りが桃香を馬鹿にするなか

映司「じゃあその馬鹿に総大将にされた袁紹も馬鹿ってわけか」

麗羽「なっ!?」

映司が麗羽に言い返した。

映司「人を馬鹿にするとその人も馬鹿だっていうからね(嘘です)」

「

アंक「ふっ!映司もなかなか言うじゃねえか。確かにこいつ(桃香)を馬鹿にしたあいつ(麗羽)はもつと大馬鹿だ!」

麗羽「こ…このわたくしに対して無礼なこやつらを捕らえなさい!

」

散々馬鹿にされた麗羽は兵に命令するが

華琳「やめた方がいいわよ麗羽」

雪蓮「あの子の力はここにいる誰よりも強いからね」

映司の力を知る華琳と雪蓮が言うつ

麗羽「ならばわたくしを馬鹿にした罰として劉備軍に罰を与えます！あなた達の力だけでシ水関を制圧しなさい！それができなければここから去りなさい！あなた達の力をわたくしに見せてくださいな！」

麗羽が言うと

映司「わかったよ！ただし条件がある！」

麗羽「なんですか？」

映司「もしシ水関を制圧できなら桃香に謝ってもらおうよ！」

バンッ！

桃香「映司さん……」

映司が麗羽に向かって言うと

麗羽「いいでしょう！制圧できたら劉備さんに土下座でも何でもしますわ！」

麗羽が言った瞬間

雪蓮「（袁紹って袁術よりバカのようね）」

華琳「（麗羽の土下座する姿が見れるなんて来たかいがあったわ）」

アंक「（絶対あの馬鹿女を土下座させてやるぜ！）」

当然だが確実に麗羽が土下座すると思っていた三人がいた。

確かに人間相手ならばオーズに勝てる人なんて少ない

だが一つ誤算があつたとすれば

この戦いが人間の手ではなくグリードが絡んでいることをこの場に
いる誰もが知らなかったことだ。

その頃、ガメルを護衛に連合軍に真実を伝えに行つた董卓こと月は

月「ここどこですか？」

ガメル「俺、知らない」

道に迷っていた。

16「シ水関と叫びと猛獣バイク」（前書き）

前回の三つの出来事

一つ、桃香達劉備軍が反董卓連合に加わる

二つ、連合軍総大将に麗羽を推薦させてしまったため桃香は麗羽の命令に従わなくてはなくなる

三つ、軍議にて麗羽が桃香を馬鹿にした発言をし、それに対して映司が麗羽に反論して劉備軍だけでシ水関を戦うことを命じられる

16「シ水関と叫びと猛獣バイク」

シ水関

この場所で華雄・霞率いる5万の兵VS…

劉備軍8人の無謀な戦いが始まろうとしていた。

シ水関

映司「ごめんねみんな、こんな無謀ともいえる戦いにしちゃって」

映司は自分が麗羽を馬鹿にするような発言をしたことをわびると

愛紗「気にしないでください！」

桃香「そくだよお礼を言うのはこっちの方だよ。ありがとう映司さん」

鈴々「鈴々達の力をあの馬鹿（麗羽）に見せつけてやるのだ！」

星「それに映司殿が言わなくても愛紗や私が言っていたでしょう。主君を馬鹿にされて黙っている方がおかしいですからな」

映司を慰めるみんな

朱里「とはいえ、やはり戦力に差がありますね」

確かにいくらなんでも戦力から考えて8人…いや、戦えない桃香と

朱里達とアंकを除けば残りは4人

対する董卓軍は5万

普通に戦えば絶対勝てないのだった。

だが忘れちゃいけない。劉備軍には最強の力があることを、それは…

アंक「オーズの力を使え！そうすりゃ何とかなるだろう」

こちらには普通の人間ならば相手にならないオーズがついているのだ。

映司「人間相手にオーズの力は使いたくないけど仕方ないか」

不本意だが映司だってオーズの力を使わなければ勝てないと感じていた。

鈴々「お兄ちゃん！緑の姿でいっぱい増やして戦うのだ！」

鈴々の言う緑の姿とはガタキリバコンボのことである。

確かにガタキリバコンボは分身能力があるので数は何とかなるのだが

愛紗「馬鹿者！」
「こんぼ」は映司殿に負担をかけることを忘れるな！
映司殿、「こんぼ」はなるべくやめてください！」

星「私は”らとらーたー”しか見ていないが確かにあの姿は体に負担がかかりすぎる」

桃香「それじゃあダメだよ！映司さん、こんぼは絶対禁止だからね
！」

映司の体を気遣ってコンボを禁止にするよう言う桃香達

映司「わかったよコンボはいざという時にしか使わないからさ」

と言っている間に

ゴォーンッ！

シ水関から銅鑼ひょうの音が聞こえてきて

ドドドォーッ！！

董卓軍が攻めてきた。

連合軍サイド

華琳「映司達は大丈夫かしら？」

雪蓮「さすがに無謀かもね」

映司達を心配する二人に対し

麗羽「おーほっほっほっ！わたくしを馬鹿にした罰ですわ！」

高笑いをする麗羽

そして董卓軍が迫り来るなか映司が先頭に立つと

麗羽「あらっ、あのわたくしを馬鹿にした愚か者がいく気ですか？」

そして映司は

アंक「映司、馬鹿女をびびらせてやれ！」

シュッ！ パシッ！

カチャカチャンッ！

キンキンキンッ！

映司「变身！」

アंकからメダルを受け取りオーズドライバーにセットしてスキヤンさせると

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンッ！

映司は仮面ライダーオーズに変身した。

そしてその姿を見た連合軍は

馬超「何だよあれ！？」

美羽「姿が変わったのじゃ!？」

一部を除いたみんながオーズの姿に驚くなか麗羽はというと

麗羽「フンッ!どうせあんなの見かけだけですわ!中身はどうせへつぽ」

負けず嫌いな麗羽がオーズを見てみると

オーズ「ごめんなさい!」

ドカッ!

兵士「ぐへっ!？」

オーズは謝りながら次々と董卓軍兵士を蹴散らしていく

兵士「くそっ!大勢で囲むぞ!」

ずらりっ!

董卓軍はオーズを囲むように攻めてくる。

だが

アंक「フンッ!馬鹿な奴らめ!映司、メダルを変えろ!」

シュッ!　　パシッ!

カチャッ！ キンキンキンッ！

アंकが投げたメダルを受け取ったオーズがスキャンさせると

ドライバー『ライオン・トラ・バッタ』

ジャキンッ！

オーズはラトラバにコンボチェンジした。

そして

オーズ「ハーツ！」

ビカーッ！

ライオンヘッドの能力である強力な光をライオネルフラッシュヤー董卓軍に向けると

兵士「ぐわっ！？」

兵士「眩しすぎて目が見えない！？」

そして兵士が怯んだ隙に

オーズ「ごめんなさい！」

ドカカッ！

オーズは傷つけないよう殴るのだった。

桃香「このまま一気に攻めちゃえー！」

だが桃香達は気づいていなかった。

このシ水関の戦いにてまだ将である華雄と霞が出陣していないことを

シ水関・董卓軍サイド

霞「あいつすごい奴やな〜！？うちの兵士が簡単に倒されとるで！
？」

シ水関にて戦況を見ていた霞がオースの強さに驚いていると

華雄「驚いている場合か！我が軍がおされているのだぞ！」

霞の態度に怒る華雄

ホントは彼女達だつて戦にいきたいのだがそれを止められていたのだつた。その理由は…

網切ヤミー「お前達邪魔な人間は退いとくザンス！」

と網切ヤミーに言われたからである。ちなみに彼女達は月が逃げたことは伝えられておらず逆らえば月に危害をくわえると脅されているのだつた。

網切ヤミー「やはり来たかオース、私が行くザンス！」

そして網切ヤミー率いる董卓軍が攻めていく。

シ水関・劉備軍サイド

愛紗「映司殿が頑張っているのだ！我々も頑張るぞ！」

少しでもオーズの相手を減らすため勇猛に戦う愛紗達

だがその時！

兵士「ぐはっ！？」

ドサッ！

愛紗の目の前にいた董卓軍の兵士が胴体を真つ二つに切られて倒れてきた。

愛紗「（この傷は剣で切られたにしてはおかしい、まさか！？）」

愛紗が切ったものの正体に気がつく

網切ヤミー「その通り！」

シュッ！

愛紗「なっ！？」

サッ！ ビリリッ！

網切ヤミーの鋏が不意打ちを仕掛けていきなり襲いかかってきたのだ。だが愛紗は持ち前の反射神経でうまく避けたのだがその時服をかすめてしまい胸のところを切られてしまった。

網切ヤミー「私の名前は網切ヤミー！あなた達を切り刻みに来たザンス！」

愛紗「くっ！？」

愛紗が胸を隠しながら考える。愛紗とてヤミーの実力が自分を越えていることは気づいているのだが

愛紗「この関羽、敵に後ろを見せるようなものではない！」

ジャキンッ！

愛紗は青龍偃月刀を握りしめて網切ヤミーに向かっていく！

そしてそのようすを遠くから見ていた桃香達は

桃香「大変！？愛紗ちゃんがやみに襲われてる！？」

朱里「アंकさん、映司さんに伝令をお願いします！」

アंक「ちっ！仕方ねえな」

シュッ！

アंकは通信機能のあるバッタカンドロイドをタカカンドロイドにつれさせてオーズのもとに届ける。

ピキッ！

オーズ「あれはタカちゃん、何かあったのかな？」

オーズが戦いの最中空を飛ぶタカカンドロイドを見つけると

バツカンドロイド『映司さん！愛紗ちゃんがやみーに襲われて危ないからすぐに向かって！』

つれているバツカンドロイドから桃香の声が聞こえてきた。

オーズ「何だって！？わかった。今すぐいくよ！」

ダッ！

そしてオーズは愛紗のところに急いでいった。

その頃、愛紗はというと

愛紗「ハアハア……！？」

愛紗は服をボロボロにされながらも日頃オーズと鍛練していたおかげでやみーの攻撃を急所からずらしていた。

ちなみに今の愛紗の上半身は下着だけである。

網切やみー「（この私の攻撃を避けるとは！？）こうなったら服を気にせず惨殺してあげるザンス！」

ジャキンッ！

網切やみーは鉄を広げて愛紗に襲いかかる。

だがその時！

オーズ「ちよつと待ったー！」

ブンッ！

網切ヤミー「なっ！？」

ガキンッ！

愛紗の危機にオーズが駆けつけるがオーズの攻撃は網切ヤミーに防がれた。

愛紗「映司殿！？」

オーズ「助けに来たよ愛紗！聞こえてるだろアंक、まだ董卓軍は大勢いるし時間もあんまりかけられないからコンボでいくしかない！あとバイクもね！」

このオーズの声はバッタカンドロイドを通じて桃香達と一緒にいたアंकのもとに届けられた。

アंक「ブンッ！人使いの荒い奴だ！」

ブルンッ！

アंकはライドベンダーに乗って向かおうとするが

桃香「待って！」

バツ！

桃香に前を塞がれた。

アंक「退きやがれこの野郎！」

アंकは桃香に退くよう言うが

桃香「どうしても行くと云うのなら、私も行く！もう見守っているだけなんて嫌だもん！」

桃香自身、自分が無力なのはわかっている。だからこそ何かの役に立ちたいのだった。

桃香の叫びを聞いたアंकは

アंक「フンッ！お前も少しはマシになったようだな、死んでも構わねえなら乗りな！」

シュッ！

アंकは桃香にメットを渡すと

パシッ！

桃香「はいっ！」

ブルンッ！！

桃香を乗せてオーズの元に走らせるアंकだった。

その頃、オーズは

オーズ「ぐはっ!?」

網切ヤミーに苦戦していた。

網切ヤミー「コンボでないオーズなんて私の敵ではないザンス！」

オーズ「くっそー！」

オーズが苦しんでいたその時!

ブオオンッ!!

アंकと桃香を乗せたライドベンダーがやって来た。

アंक「待たせたな映司! ほらよっ！」

シュッ! パシッ!

アंकはオーズにチーターメダルを投げ渡す。

アंक「飛び降りるぞ！」

桃香「えっ!?」

バツ!

桃香「ひえーっ!？」
」

そしてアंकは桃香と一緒にライドベンドーから飛び降りた。

オーズ「よしっ!」
」

バツ!

そしてオーズがライドベンドーに飛び乗ると

オーズ「一応持ってきて正解だったね」
」

プシュッ!

オーズは持ってきたトラカンドロイドを起動させた。

すると…

ズズズッ… ガシャンッ!

『ガオーッ!!』
』

トラカンドロイドはライドベンドーと合体してトライドベンドーに変形した。

オーズ「これでよし!あとは…」
」

カチャッ! キンキンキンッ!

オーズはメダルをドライバーにセットしてスキャンさせる

ドライバー『ライオン・トラ・チーター』

ドライバー『ラタラタ、ラトラーター！』

ジャキンッ！

オーズはラトラーターコンボに変身した。

桃香「あっ！？こんぼを使ったら疲れるのに！？」

普通なら桃香の言う通りだが

ラトラーターコンボはトライドベンダーに乗ることで体力減少を減らすことができるのだ。

おまけにトライドベンダーに乗れば高熱波のライオディアスも発動しないのであった。

オーズ「それぞれっ！」

ブオオンッ！！

兵士達『ぐわーっ！？』

オーズはトライドベンダーで次々と兵士達を傷つけないよう倒していく

網切ヤミー「おのれっ！そんなバイクなんて切り裂いてやるザンス！」

網切ヤミーは鋏を構えてトライドベンダーを迎え撃とうとする。

だが

ベキベキッ！

網切ヤミー「なーっ！？」

トライドベンダーは逆に網切ヤミーの鋏を裂いていく！

そして網切ヤミーは無惨にもトライドベンダーに食いちぎられるのだった。

オーズ「よし次は！」

そして網切ヤミーを撃破したオーズは

オーズ「逃げないと危ないですよ！」

ブローッ！！

兵士達『うわーっ！？』

トライドベンダーで兵士達の中を暴れまわる。

そして兵士達はたまらず次の虎牢関へと逃げていき、シ水関は連合軍に制圧されたのだった。

連合軍サイド

馬超「マジかよ！？ たった八人でシ水関を制圧しやがった！？」

美羽「七乃、妾は夢を見ておるのか！？」

七乃「お嬢様、私も見ているので夢ではありませんよ！？」

そして麗羽も

麗羽「・・・！？」

口を大きく開けながら驚いていた。

そしてシ水関を制圧した後

シュンッ！

映司「さすがに疲れちゃったな！？」

オーズが映司に戻ると

愛紗「映司殿、助けていただきありがとうございます」

愛紗がお礼をいいに来た。

映司「気にしないでいいよだって俺達仲間じゃん それよりもさ…
服着なくていいの？」

愛紗「えっ？」

愛紗が自分の姿を見てみると

バァーンッ！

今の愛紗は上半身下着姿だった。

そして愛紗は

愛紗「キヤーツ！！／／／」

戦いに夢中で今頃気づいたようだ。

バツ！

愛紗が胸元を隠すと

映司「気づいてなかったの！？とりあえずこれで隠して！」

当然映司が渡したものは

バンッ！

もちろんパンツだった。

愛紗「上着を貸してください！」

16「シ水関と叫びと猛獣バイク」（後書き）

ヤミーファイル

あみぎり
網切ヤミー

両手が^{ハサミ}鋏ハサミになっている海老えびのような姿のヤミー。語尾にザンスをつけて話す。

17「同盟と催眠術と呂布」

シ水関を制圧した反董卓連合

そして一番の手柄を立てた劉備軍は約束通り麗羽に土下座で謝ってもらおうと本陣にやってきたのだが

麗羽「い…今は大事な戦の最中でしょう！土下座している暇なんてありませんわ」

自分から言い出したくせにどうしても土下座をしたくない麗羽は長く引き伸ばして忘れてもらおう作戦にでてきた。

麗羽「とはいえシ水関を制圧したご褒美に劉備軍には休暇を与えますのでゆっくりとお休みなさい！」

そして桃香達は次の虎牢関の戦いには参加せず休むことになった。

劉備軍本陣

アंक「ちっ！絶対あのバカ女が土下座なんてするはずじゃないと思っていたぜ！」

映司「まあ待てよアंक、袁紹さんもいずれ土下座してくれるって」

散々バカにされながらも麗羽が約束を守ってくれると信じている映司に対して

アंक「お前バカか？人を信じるのもいい加減にしろ！」

ダッ！

本陣を出ていこうとするアंक

映司「どこいくんだよ！？」

映司が聞くと

アंक「これ以上ここにいたらあのバカ女にこき使われちまうからな、俺は少し別行動だ！念のためメダルは渡しておくぜ！」

シュッ！

そしてアंकはタカ・トラ・バッタのメダルを投げてどこかにいつてしまった。

鈴々「アンコのお兄ちゃんが勝手に出ていったのだ」

朱里「どこにいくんでしょうか？」

映司「まああいつも桃香よりは強い方だし何とかなるでしょ」

桃香「ぶっ！どうせ私は弱いですよーだ！」

ブクッ！

映司「ごめんなさい！」

ふくれる桃香に謝る映司

桃香達が愉快的な会話をしていたその時

バサッ！

馬超「よっ！邪魔するぜ」

桃香達の本幕に馬超が入ってきた。

愛紗「お主は確か馬超殿、何か用ですか？」

愛紗が馬超に聞くと

馬超「実はさ、あたしはさっきシ水関を占領したあんた達を見直してな、協力しにきたんだよ」

なんと馬超は桃香達に同盟を持ちかけてきたのだ。

馬超「軍議の時はバカにして悪かったな、でもあんたの姿が変わって兵士を倒してるのを見たら胸がうずうずしてよ、あんた達と一緒に戦いたいって気分になったんだ。頼む！せめてこの戦いの間だけでも同盟を組んでくれ！」

ガバッ！

馬超が頭を下げると

桃香「馬超さん、頭をあげてください。私達に協力してくれるなら大歓迎ですよよろしくお願いします」

桃香は馬超をむかえることにした。

馬超「ありがとよ！同盟の証だ。あたしの真名の翠をあんた達に預けるぜ！」

桃香「それじゃあ私達もだね」

そして桃香達が真名を交換しあっている頃、

洛陽

華雄「それは本当の話か！？」

詠「ええ、月は洛陽から脱出させたわ」

霞「うちと恋が修理に手を抜いたおかげやな」

シ水関の戦いの後、洛陽に戻された二人は詠と共に牢屋に閉じ込められたが詠から月が脱出したという話を聞いてほっとしていた。

屑ヤミー「ギギーッ！お前達うるさいぞ！」

霞「へんっ！もうあんたらの洛陽をめちやくちやにするという計画はおしまいやで！次の虎牢関には恋がおるからな、恋は勘が鋭いからきつと月が脱出したことに気づいとるで！」

霞が屑ヤミーに言つと

？「果たして、それはどうかな？」

バンッ！

霞達の前にラグルと恋が現れた。

華雄「お前！」

目の前に現れたラグルに怒る華雄に対し

霞「恋！？お前もおったんかいな！ちようどええ、恋、月は逃げたんや！うちに構わずこいつらをぶっ倒したれ！」

霞はラグルの側にいた恋（呂布）に言うが

恋「……………」

霞「恋！？どないしたんや！？」

いくら恋が無口だからといってもここまで言っているのに黙っているのはおかしい。そんなとき

ラグル「張遼（霞）、我が目を見るのだ！」

霞「へっ！？」

ギンッ！！

そして霞がラグルの目を見た瞬間

霞「……………」

華雄「おい霞、どうしたんだ!?」

急に黙りこんだ霞を華雄が心配すると

ラグル「張遼よ、貴様はこれから虎牢関に向かい、他の軍を足止めしておけ!」

ラグルが言つと

霞「(こくんっ!)」

頷く(うなづく)霞

詠「あんた霞に何したのよ!」

詠がラグルに怒鳴ると

ラグル「催眠術をかけたのさ、初めからこうしていればよかったぜ」

霞と恋はラグルの催眠術にかかってしまい完全に操り人形と化していた。

ラグル「だがこれを使うと体力を考えずに力任せに暴れてしまうため長期決戦にはむかないから使わなかったがオーズが出たとなるとそうもいつてられん!張遼は連合軍を!呂布はオーズの相手をしろ!」

恋・霞『(こくんっ)』

ラグルに操られた二人はラグルの言いなりになってしまった。

華雄「まさか二人まで!？」

華雄が驚いていると

詠「ちょっとあんた!ねねはどうしたのよ!」

詠が恋の側にねねがないことに気づきラグルに聞くと

ラグル「ねね?ああ、あのチビのことか、生憎俺の催眠術はガキには効かなくてな、痛め付けて皇帝兄弟と一緒に牢屋に入れてやったよ」

詠「あんたねねまでひどい目に…この悪魔!」

詠がラグルに向かって言うと

ラグル「悪魔?大いに結構、俺にとって悪魔や悪人は誉め言葉さ!

」

スッ

そしてラグルは恋と霞を連れて牢屋の前からいなくなった。

しばらくして

ラグル「いいか!俺は逃げた董卓とガメルを殺しに行くから牛鬼は皇帝兄弟を見張れ!塗り壁は万が一呂布達が倒された時のためにこ

の城には誰一人として入れるなよ！」

ラグルが牛鬼ヤミーと塗り壁ヤミーに指示を出す

と
牛鬼ヤミー「わかりましたラグル様！」

塗り壁ヤミー「任せるダス！」

了解する二人

ラグル「それとだ……」

チャラリッ！

ラグルは手からゴリラメダルとゾウメダルを出す

と
ラグル「塗り壁、お前の体にメダルを入れておけ！そうすりゃもつと強くなれる！」

塗り壁ヤミー「わかったダス！」

スッ！

塗り壁ヤミーはコアメダルを体に吸収した。

ラグル「牛鬼はどうする？」

ラグルは牛鬼ヤミーにメダルは必要かと聞くと

牛鬼ヤミー「結構です。私はメダルがなくても強いのでね」

ラグル「そうかわかった。あとの事はお前らに任せるから頼んだぞ」

ザッ！

そしてラグルは去っていった。

その頃、虎牢関では

ズランツ！

袁紹軍30万の兵士が立ち並んでいた。

麗羽「（劉備軍は8人で5万の兵を倒したわけですから虎牢関には約十万の兵、確実にわたくしが勝つに決まっていますわ、呂布だろ
うが誰だろうがかかってきなさい！おーほっほっほっ！）」

麗羽が心の中で高笑いをしていると

猪々子「あれっ？麗羽様、道の先に誰かがいますよ」

スッ！

そして猪々子が指差した先には

バンツ！

恋が立ちはだかっていた。

斗詩「麗羽様、あれって呂布じゃないですか!？」

麗羽「あゝら、それは好都合ですわ!皆さんで呂布を討ち取ってしまいなさい!」

袁紹軍兵士達『うおーっ!』

ドドドオーッ!!

袁紹軍兵士達が一斉に恋に向かっていく!

だが

チャキンッ! ブオンッ!

恋が得物の方典画戟を振るった瞬間

ズバッ!!

向かっていった袁紹軍兵士達は一瞬のうちに首が飛んでしまった。

麗羽「へっ!？」

猪々子「何が起きたんだ!？」

斗詩「兵士の首が飛んだ!？」

麗羽達が驚いていると

ジャキンッ!

恋は方典画戟を麗羽達に向けて

恋「…オーズ呼ぶ、恋と戦う」

そしてそれを聞いた麗羽達は

麗羽達『ひいーっ!?!』

ドドドオース!!

一目散に逃げていった。

連合軍本部

麗羽「というわけで呂布のおーずというものをつれてくるよう言われましたの。劉備さんに聞いたらおーずとは映司さん、あなたのことだそうですね」

映司「そうですけど何か？」

麗羽「何かではありませんわよ!すぐに呂布を倒しにいきなさい!化け物には化け物で対抗ですわ!」

オーズを化け物扱いする麗羽

映司「でも…」

この場にはアंकがないためタトバ以外には変身できないのだ。

映司が言い渡ると

麗羽「じれったいわね！わかりました呂布を倒したら土下座してあげますからよろしいですわね！」

強引に話を決めた麗羽はその場から立ち去っていった。

映司「困ったなあ、呂布の力はわからないけれどアंकがいなかったら大変だな！？」

映司が困っていると

愛紗「大丈夫ですよ映司殿」

鈴々「鈴々達も手伝うのだ！」

星「我らとて映司殿との鍛練で多少は力をつけましたからな」

翠「今回はあたしも手を貸してやるぜ！」

桃香「みんながいるんだから大丈夫だよ！」

桃香達がみんなを励ました。

映司「わかったよ！みんながいればなんとかなるよね！」

そして映司達は虎牢関に向かっていった。

そしてその数時間後

月「はあはあ……やっと着きましたね！？」

ガメル「着いた〜！」

月とガメルが連合軍本部にたどり着いたのだった。

18「救出と真実とお知らせ」

ついに反董卓連合の本部にたどり着いた月とガメル

だが肝心の連合軍は

月「誰かいませんか？」

シーン…

誰一人としていなかった。

実は全員が虎牢関に向かっているため連合軍はこの軍もいなかったのだった。（理由は劉備軍の手助けをするため、オースが負けるところを見るため）

月「そんな、せつかくたどり着いたのに！？」

ガクンッ！

親友の詠がひどい目にあわされるとわかっていながら月の助けを待っているのに連合軍がいなくては水の泡である。

ガメル「月…」

うなだれる月を少しでも慰めようと近づくガメル

だがそのとき

ガメル「（ピクンツ！）」

スッ！

ガメルは何かを感じ取って歩いていった。

月「ガメルさんどこにいくんですか？」

月が聞くと

ガメル「こっちに俺のメダルの気配する。人もたくさんいる」

ガメルが指した方角は虎牢関のある方角だった。ガメルが言うと

月「たくさんの人…もしかして連合軍かも！」

タタツ！

そして月はガメルと共にいくことにした。

その頃、虎牢関では

麗羽「（おーほっほっほっ！あの男がふざまに呂布に負けてくれればわたくしは土下座しなくてもよろしいわけですわ！まあはじめからする気はありませんがね）」

華琳「（いくらオーズの力が強いとはいえ、相手はあの呂布、おまけに化け物じみた力を持つと聞くわね！？）」

雪蓮「（オーズが危機になったときに借りを返してもらおうとして袁

術を攻めるのを手伝ってもらっていうのもありね」

様々な思惑が漂うなか、劉備軍は虎牢関にたどり着いてしまった。

桃香「敵は何人いるんだろう？」

朱里「袁紹さんの話によると虎牢関には呂布一人しかいないようですが」

鈴々「じゃあ呂布は一人で数万の兵を倒したのか！？すごいやつなのだ！？」

星「まあ大將が袁紹だったからかもしれないだろう」

愛紗「どちらにせよ油断してはならん！」

翠「今回はあたしも手伝うから任しとけ！」

映司「（アंकの奴どこいったんだよ！）」

映司達がそれぞれいっていると

バンッ！

洛陽の城の前に一人の人影がうつっていた。

雛里「あわわ！？あそこに人がいます！？」

愛紗「あのものが呂布なのか！？」

人影に驚く愛紗達

そんなとき

映司「あの〜、君が呂布ですか？」

ズコッ！

人影に名前を聞く映司に愛紗達がずっとけた。

愛紗「なに普通に聞いてるんですか！」

翠「お前バカかよ！」

みんなが映司に言うと

恋「…（こくりっ）恋は呂布」

素直に答える恋だった。

映司「そうかい、なら悪いけどそこを通してくれないかな？俺達は董卓を救いたいんだ！」

バンッ！

麗羽「董卓を救うですって！？」

実は映司達は虎牢関に着く前、翠からあることを聞かされていた。

愛紗「それは本当なのか翠！？」

翠「ああ、大マジな話さ！董卓って奴は悪いことはしない奴なんだよ！」

翠が映司達に董卓について話していた。

翠「あたしの母様である馬騰は董卓をよく知っていてね、董卓は税を重くするどころか逆に民が苦しんでいたら税を減らすっていう甘い奴なのさ。あたしは母様からこの戦いの真実を調べてこいと言われて連合に参加したんだ。そして参加してみたらあんな化け物^{ヤミ}が出てきたもんだから驚いちゃったぜ」

翠が自分が連合に来た目的を話すと

星「もし董卓が翠の言う通り優しき者となると、誰かが董卓の名を語って悪さをしていることになる」

鈴々「そんなことする奴なんているのかなのだ？」

みんなで考えてみると

映司「あっ！あいつだ！」

桃香「映司さん、あいつって誰？」

映司「ほら、前に桃香からヤミを取り出したあのグリードだよ！」

映司はラゲルの名前を知りません

愛紗「なるほど、確かにあいつならば！」

鈴々「悪人だから可能性があるのだ！」

朱里「誰のことですか？」

雛里「わかりません」

翠「やみー？ぐりーど？あたしにもわかるように教えてくれよ！」

映司「そうか、朱里達はいいつに会ってなかったよね」

そうだったわけ？

説明中

翠「なるほどな、さっきの化け物がヤミーでその頭（大将）がグリードってわけだな」

朱里「はわわ！？そんな悪人がいたなんて！？」

雛里「あわわ！？驚きですー！？」

映司「でもこれでわかったよ！董卓は悪人なんかじゃない！きっとあのグリードが関連している！」

映司が言つと

鈴々「お兄ちゃん、何で董卓が悪人じゃないって信じるのだ？」

鈴々が聞くと

映司「だって同盟を結んだ翠が董卓は悪人じゃないって言ってるんだもの、仲間のいうことは信じないとね！」

翠「へっ！お人好しな奴だな」

星「映司殿がそのような性格だからこそ我々は集まったのだよ」

愛紗「そうだな」

映司「よし決めた！俺達は董卓を助けに虎牢関に向かおう！」

桃香「うん、私も賛成だよ」

こうして映司達は連合軍の意志を無視して董卓を助けに行くことにしたのだった。

現在

桃香「あちゃーっ！みんなの前で言っちゃったよ！？」

星「こうなったらもう逃げるしかないでしょうな」

それもそのはず

董卓を倒しに来た仲間の中に董卓を助けようとする者がいる＝反逆者

劉備軍は反逆者になってしまったのだった。

麗羽「何ですって！猪々子、あの人は今さっき董卓を助けると言いましたよね

」

猪々子「はい、言いましたよ！？」

華琳「呆れた。自分が何を言っているのかわかっているのかしら！？」

雪蓮「まあ、彼らしいといえば彼らしいけどね」

連合軍が劉備軍を見ていると

麗羽「皆さん！こうなったら董卓ごと劉備軍を蹴散らしてしまいなさい！」

袁紹軍兵士達『おおーっ！』

ズンズンッ！

袁紹軍兵士達は桃香達劉備軍を捕らえようと進軍してくる。

だがそのとき

ズオンッ！！

袁紹軍兵士達『なっ！？』

袁紹軍兵士達がいきなり現れた屑ヤミー達に驚いた。

しかも、

霞「悪いが…ここは通さへんで！」

バンッ！

屑ヤミー達を率いていたのはラグルに操られた張遼（真名は霞）だった。

霞「アンタらの相手はウチと屑ヤミーがしたる！恋とオーズの戦いは邪魔させへんで！」

屑ヤミー達『ギギーッ！！』

麗羽「まさか董卓軍に化け物がいたなんて！？」

そして屑ヤミー達が連合軍を襲うのを見た映司達は

愛紗「まさにこの戦いはグリードが絡んでいるな」

星「怯えきっている連合軍では屑ヤミーの相手はできまい」

星が冷静な判断をしていると

映司「わかった！みんなは連合軍を助けにいつてくれ、呂布の相手は俺がする」

この映司の言葉に

愛紗「何をいつているのですか！？」

映司「屑ヤミーとの戦い方はみんなの方が詳しいし、俺達が勝ったとしても連合軍が負けたらお仕舞いなわけだ。呂布の力がどんなものかは知らないけど俺が呂布の相手をする。それに連合軍を助ければ裏切りを許してくれるかもしれないしね」

この映司の呆れるような言葉に

愛紗「仕方がないな！」

鈴々「お兄ちゃんは優しすぎなのだ！」

星「まっただな」

桃香「わかったよ映司さん、私達は連合軍を助けに行く。だから映司さんは呂布を必ず倒してね約束だよ」

映司「わかった。必ず約束するよ」

カチャカチャンッ！

キンキンキンッ！

映司「変身！」

そう言いながら映司はメダルをオーズドライバーにセットしてスキャンさせると

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ!』

ジャンクッ!

映司は仮面ライダーオーズに変身した。

オーズ「いくぞ呂布!」

恋「…負けない!」

ババツ!

そして二人は互いにとんでいった。

そしてその頃、映司達の元から離れたアंकはというと

アंक「ちっ!映司達はどこかにいったようだな。まあこれであの馬鹿女(麗羽)の顔を見なくてすむし、会いたければ置いていったライドベンドーで追いかければいいしな」

ライドベンドーは目立つので天幕の中に収納しているのだった。

アंकが散歩をしていたそのとき

アंक「おやつ!あれは…」

アंकがなにかを見つけた。それは…

キラック

アंक「俺のコアメダルじゃないか！？何でこんなところにあるかは知らないがラッキーだぜ！」

スッ！

アंकは落ちていた自分のコアメダルを拾いに向かおうとすると

アंक「！？」

サッ！

急にアंकは方向転換をして下がっていった。その直後

ドォーンッ！！

アंकがそのまま進めば当たる地点に上空から何かが落ちてきた。

アंक「この気配、やっぱりお前だったとはな」

落ちてきたものは…

ラグル「久しぶりだなアंक」

バンッ！

ラグルだった。

18「救出と真実とお知らせ」（後書き）

アंक「次回はいよいよオーズVS呂布、俺VS謎のグリードの戦いだな楽しみだぜ！」

アंकが言ったその時

ピピピッ！

映司「バッタカンドロイドから通信だ」

パカッ！

映司がバッタカンドロイドのスイッチをいれると

西森「どうも西森です。この作品を待っている人には申し訳ありませんが、別の作品を進めてほしいという要望と西森が洛陽の戦いの後を考えていないためこの小説はしばらくの間不定期更新になります。申し訳ありませんでした」

ブツンッ！

通信が切れた瞬間…

映司・アंक「（何・何だよ）それっ！？」

二人の活躍はしばらくお待ちください

19「最強武人と卑怯手段と董卓登場」(前書き)

皆さんの要望に答えてこれからはローテーションで投稿していきます。

フランチェスカ 乙女大乱 オーズ フランチェスカの順です。

19「最強武人と卑怯手段と董卓登場」

虎牢関

オーズ「ハッ！」

ブンッ！

オーズは恋にメダジャリバーを振りかざす！

だが

ガキンッ！

オーズ「えっ！？」

恋はオーズの攻撃を軽く受け止めると

ブオンッ！！

オーズ「うわっ！？」

ドシャンッ！

そのままオーズを投げ飛ばした。

オーズ「（さすがは三国志最強と呼ばれる呂布だ！？強さが桁違い（けたちがい）だ！？）」

それに今はもとの恋に限界以上の力がつけられたためその力は
オーズをも越えようとしていた。（オーズは恋が操られていること
を知りません）

恋「…お前、弱い」

オーズ「やっぱタトバコンボじゃむりか、アंक！メダルを貸して
くれ！」

オーズはアंकに言うが

しーんっ

オーズ「しまった！？」

いまアंकは一人で別行動しているのだった。

そのためオーズはメダルを変えることができないのだった。

その頃、アंकは

虎牢関から少し離れた場所

アंक「まさか直接俺を狙ってくるとはな」

ラグル「勘違いするな！俺はちょっと用があつて来ただけだ。お前
に会えたのは偶然だ」

ラグルは逃げた月とガメルを探しに来ただけで本当にアंकと出会
えたことは偶然なのだ。

ラグル「まあここで会えたのも何かの縁かもしれん！アंक、貴様のメダルもいただくぞ！」

スッ！

ラグルが構えると

アंक「上等だ！こっちこそお前が持っているメダル全ていただくぜ！」

スッ！

アंकも構える。

アंक「（とはいえ、あいつは怪人形態の俺を軽く追い詰める実力者、しかもオーズがないから少しばかりヤバイかもな）」

いつもは強気なアंकでも今回は勝てないかもしれないと感じていた。

ラグル「冥土の土産に教えてやろう、俺の名はラグルだ」

アंक「なんの真似だ！」

ラグル「決まっているだろう。自分を倒したやつの名前くらい覚えておかなければな！」

ビュンッ！

アंक「なめやがって！」

ビュンッ！

こちらではアंकVSラグルの戦いが始まろうとしていた。

その頃、虎牢関では

ガキンッ！

オーズ「おわっ！？」

オーズが恋に苦戦していた。

鈴々「あっ！？お兄ちゃんが危ないのだ！？助けに行くのだ！」

ザッ！

鈴々が屑ヤミーの相手をおいてオーズを助けにいくとすると

愛紗「いくな鈴々！」

鈴々を止める愛紗

鈴々「何故なのだ！？愛紗はお兄ちゃんが心配じゃないのかなのだ！？」

鈴々が言つと

愛紗「心配に決まっているであろっ！だが映司殿は言っていたでは

ないか！呂布は俺に任せてみんなは連合軍を助けてくれと、その約束に答えるのだ！」

愛紗だってオーズを助けにいきたかった。だが助けに向かえば映司との約束を破る形になってしまったため助けにいなかったのだった。

麗羽「この化け物達はなんですか！？みなさんわたくしを守りなさい！」

屑ヤミー「ギギーツ！」

屑ヤミー達は麗羽に襲いかかる。

星「まあ映司殿をほっておいてあの馬鹿を助けるといふのは気がひけるかな」

翠「同感だぜ」

そして他のみんなは

美羽「ぴぎいつ！？何をしとるのじゃ孫策！早く妾わらわを助けるのじゃ！」

雪蓮「はいはい（あとで覚えときなさいよ！）」

美羽を不本意ながら助ける雪蓮

このまま美羽がやられた方がいいと思うのだがそれだと助けなかった雪蓮に罪がかかってしまう。

そのため雪蓮はいいや美羽を助けるのだった。

美羽「さすがは孫策、主君のために働くとは天晴れ（あっぱれ）なのじゃ！」

七乃「さすがは我々の犬ですねお嬢様」

雪蓮「おほほっ！当然ですよ（お前ら！あとで泣いても勘弁しねえからな！）」

表には出さず心の中で怒りまくる雪蓮だった。

霞「おらおらっ！こつから先はこの神速の張遼が通さへんで！」

バンッ！

恋と同じくラグルに催眠術をかけられた霞は超人的な力で連合軍を圧倒していく。

春蘭「さすがは神速の張遼！？ものすごい早さですね華琳様！？」

華琳「ええそうね（だけど張遼の様子が変ね。まるで何かに操られているみたいだわ）」

華琳は何かを感じていたのかもしれない

そしてその頃、

アंक「がはっ！？」

バタッ！

アंकがラグルに苦戦していた。

ラグル「フフッ！ コアメダルの足りないお前がメダルを9枚持つ俺に勝てるわけなろう」

たとえメダルがあつたとしてもアंकの持ちメダルは全部で6枚、ラグルにかなうはずがないのだ。

ラグル「さて」

ぐいっ！

ラグルは倒れたアंकの体を持ち上げると

ラグル「お前のコアメダルを頂くぜ！」

ブンッ！

ラグルはアंकのコアメダルを奪おうと拳を突き出す！

アंक「くそっ！」

アंक自身もうダメだと思ったその時！

？「そこに誰がいるのか？」

誰かの声が聞こえてきた瞬間

ピタッ！

すんでのところでラゲルの拳が止まった。

その隙を見逃すアंकではない

アंक「今だ！」

ブンッ！

ジャリンッ！

ラゲル「ぐっ！？」

ズボッ！

アंकはラゲルの隙について手を出し、ラゲルからメダルを抜き取った！

アंक「よしっ！俺のメダルだ！」

アंकは見事自分のコアメダルであるクジャクメダルを奪い取った。

そしてメダルを奪い取られたラゲルはメダルを取り返すのかと思いきや

ラゲル「ちっ！」

パッ！ スッ！

アंकを離して立ち去ろうとする。

ラグル「悪いが俺はまだ多くの人に見られるわけにはいかないんでな、次こそは貴様のメダルを奪い取ってやるから覚悟しておけ！」

スッ！

そしてラグルは立ち去っていった。

アंक「とりあえずは命拾いってところか（しかしあいつの強さは恐ろしい、おそらく今のオーズでも敵わねえだろうな、もつとメダルを集めないと）」

そしてアंकがよろめきながらも立ち上がると

？「何があつたんだ？」

ザッ！

奇跡的にアंकを助けてくれた声の主がやって来た。その主とは…

白蓮「お前大丈夫か！？」

バンッ！

何と白蓮だった！？

アंक「何でお前がここにいるんだよ」

アंकが聞くと

白蓮「実は恥ずかしい話なんだがちょっと厠かわや・トイレに行っている間に連合軍に置いてきぼりにされたんだ」

自分の兵にすら忘れられるとはさすがは存在感の薄い白蓮である。

白蓮「そして急いで虎牢関に向かおうとしたらいきなり角の生えた黒い体をした奴に撥ね飛ばされて、目が覚めたらここで声が聞こえたんで来てみたらお前がいたってわけさ」

アंक「角の生えた黒い体の奴…」

アंकはその人物に覚えがあつた。その人物とは

アंक「ガメルか！？何で生きているかは知らないが好都合、奴のメダルは俺がもらう！」

スッ！

白蓮「おいっ！？待てよ」

そしてアंकと白蓮は虎牢関に向かっていった。

その頃、虎牢関では

恋「…お前、弱すぎる」

オーズ「くっ！？」

相変わらずオーズが恋に苦戦していた。

オーズ「（やはり三国志最強はだてじゃないか！？卑怯なことはしたくないけど一瞬の隙を作るためだ仕方ない！）」

スッ！

オーズは腰に用意していたあるものを取り出す

恋「…死ねっ！」

シュッ！

そして恋がオーズに止めをさすべく戟を突きだしてきたその時！

オーズ「くらえっ！」

サッ！ カチッ！

オーズは手に持っていたものを起動させる。手に持っていたものは

ピカーッ！

鴻上会長から渡されたトランクの中に入っていた新しいカンドロイド・ライオンカンドロイドだった。

ライオンカンドロイドから発せられた光によって

恋「…うっ！？」

恋が一瞬怯んだ！

オーズ「もらったーっ！」

ブォンッ！！

そして恋が怯んだ隙を狙ってメダジャリバーを振りかざすオーズ

オーズ「（卑怯なまねしてごめんなさい！でもこれは董卓さんを助けるためなんだ！）」

そしてメダジャリバーが恋に当たろうとしたその時！

？「やめろーっ！」

連合軍側から突然声が聞こえてきた。

愛紗「今の声は誰だ？」

愛紗達連合軍が声の主を探してみると

ドドドォーッ！！

ガメル「どけーっ！」

怪人形態になったガメルが誰かを背負いながら連合軍の後ろから現れた。

麗羽「なんですかの！？あの化けも…」

ガメル「どけーっ！」

ドンッ！ ミ

麗羽「きゃーっ！？」

猪々子「麗羽様！？」

麗羽はガメルによって撥ね飛ばされた。

キキィーッ！

そしてガメルはオーズの前で立ち止まると

ガメル「月、着いた」

月「ありがとうございます」

スッ！

そしてガメルは背中に背負っていた人物、月を下ろすと

月「恋さん、もうやめてください！」

恋「…月！？」

月「連合軍の皆さんに話したいことがあります。私の名は董卓です！」

ビシッ！

月は自分が董卓だと言うと

麗羽「なんですって！？おーほっほっほっ！こんなところで洛陽の悪魔に出会えるなんて好都合ですわ！皆さん、早く董卓を殺し…」

月「まずは私の話を聞いてください！洛陽が董卓に支配されたというのは怪物が私の名を語った大嘘なんです！あの城には詠ちゃんや皇帝様が捕らわれています。皆さんも力を貸してください！」

董卓は力一杯叫ぶが

連合軍『……………』

連合軍は誰一人口を出さなかった。

月「（やはり私なんかでは…）」

月が諦めかけたその時

オーズ「俺は信じるよ！」

月「えっ！？」

オーズが月に近寄ってきた。

オーズ「君の目は嘘をついていない！俺がそう感じたんだ！」

そしてオーズに続いて

桃香「映司さんが信じるなら私も信じるよ」

鈴々「鈴々も信じるのだ」

愛紗「無論私もです」

桃香達劉備軍

華琳「やっぱりね、おかしいと思ったのよ」

雪蓮「袁術様、ここは董卓を倒すより皇帝に話を聞いた方がいいんじゃない？このまま董卓を殺してもし本当なら皇帝から自決（自殺）を言い渡されるわよ」

美羽「じ…自決じゃと！？妾は死にたくないのじゃ！妾も一応董卓の言っていることを信じるのじゃ！」

華琳に雪蓮、美羽までも信じてくれた。

恋「…月」

霞「月うち」

そして恋と霞は

恋「…恋、詠達を守れなかった！」

霞「うちもいつの間にか操られてしもつてすまん！」

ぺこりっ！

月に出会ったことで催眠術が解けた二人は月に謝った。

月「いいんですよ。恋さんも霞さんも一生懸命頑張ったんですから」

ガメル「俺も月を守る！オーズ、目的は同じだし今の間は休戦しよう」

オーズ「ああガメルよろしくな」

ガシッ！

オーズとガメルは握手を交わしあった。

こうしてほとんどが納得したのだがいまいち納得していない人物がいた。

麗羽「（董卓が言ったことなんて全部嘘に決まっていますわ！いずれ化けの皮を剥がしてやりますから覚悟なさい！）」

執念深い麗羽であった。

オーズ「さてとみんなが仲良くなったところで」

ビシッ！

オーズが指差した先には

屑ヤミー「ギギーッ！」

洛陽の城への道を防ぐ屑ヤミ達がいた。

オーズ「全員であいつらを倒そう！」

愛紗達『はいっ！』

こうして連合軍は皇帝を救出するため一丸となって城を目指すのだった。

19「最強武人と卑怯手段と董卓登場」(後書き)

オリジナルカンドロイド

ライオンカンドロイド

スイッチを入れると強烈な光を発する。

20「塗り壁と願いと重量系コンボ」（前書き）

前回までの三つの出来事

一つ、オーズが操られた恋と戦い苦戦する。

二つ、アंकがラゲルに襲われるが逆にアंकはメダルを奪う

三つ、オーズが恋に切りかかろうとしたところ、ガメルと月が現れて洛陽の真実を話し連合軍は一丸になる。

20「塗り壁と願いと重量系コンボ」

虎牢関にて洛陽の真実を知った連合軍

そして一行は皇帝兄弟と月の親友である詠と華雄、ねねが捕らわれている洛陽の城を目指して進軍するが

屑ヤミー「ギギーッ！」

屑ヤミーが行く手を阻むように現れる。

だが皇帝を助けるという目標を立てて一丸となった連合軍の前に

オーズ「せいやーっ！」

ズバッ！

ガメル「ふんっ！」

ドガッ！

愛紗「はっ！」

ズバッ！

華琳「くたばりなさい！」

ズバッ！

雪蓮「それーっ！」

ズバッ！

もはや屑やミーは連合軍の相手ではなく、連合軍は進軍していく

桃香「みんなやっぱりすごいよね！？」

朱里「そりゃそうですよ。連合軍が一丸になれば勝てる人なんていませんし」

もはや連合軍は反董卓連合から皇帝救出連合へと名を変えていたのだ。

そして城に向かう途中のこと

オーズ「それにしても董卓がこんなにかわいいとは思わなかったよ

」

月「可愛いだなんて／＼／」

（ポッ！）

ガメル「月、顔が赤い」

かわいいと言われて頬を赤くする月

愛紗「映司殿！戦いを前にして何を遊んでいるのですか！」

ドッカーンッ！！

戦いを前にして遊んでいる映司に愛紗の雷が落ちる。

オーズ「（別に遊んでいたわけじゃないけど）ごめんなさい！」

映司が謝ると

星「愛紗よ、映司殿が董卓に夢中になっていてからって嫉妬しとはいかんぞ」

鈴々「愛紗は焼きもちを妬いているのだ」

愛紗「うるさい！」

愛紗をからかう星と鈴々

そして連合軍がもう少しで洛陽の城にたどり着こうとしたその時

ズォーンッ！

巨大な城壁が立ちふさがった。

雪蓮「これは何なの！？」

月「この城にこんなに大きな城壁はないはずですけど！？」

みんなが驚いていると

ズズズンッ！

華琳「えっ？」

壁からいきなり手が動き出してきて

ヌーッ！

ガシッ！

兵士「うわっ！？」

兵士をつかむと

ぬめりっ！

兵士「た…助けてく！？…」

ズボッ！

壁は兵士を飲み込んでしまった。

雛里「あわわ！？あの壁はただの壁じゃありませんよ！？」

雛里の言う通りあれはただの壁ではない

みんなが考えていたその時！

ガメル「オーズ、あの壁からヤミーの気配を感じる」

オーズ「何だって！？」

アंकと同じグリードであるガメルもヤミーの気配を感知できるのだ。

そしてヤミーだとバレた壁は

塗り壁ヤミー「バレてはしょうがないダス！」

ズズズンッ！

正体である塗り壁ヤミーに姿を変えた。

塗り壁ヤミー「こっから先は通さんダス！」

城への道を塞ぐ塗り壁ヤミー

麗羽「董卓さん、他に道はありませんの」

麗羽が月に聞くと

月「裏口にあるにはあるんですが……ここからだとなんにも急いでも三日はかかりますので」

三日もかけていたら皇帝兄弟がどんな目にあわされるかわかったよ
うなものではない！？

麗羽「こうなったら一刻も早く皇帝様をお助けするためにも強行突
破しますわよ！」

ドドドオーッ！！

無謀にも塗り壁ヤミーに突撃を仕掛ける袁紹軍

だが道は塗り壁ヤミーが道を防げるほど狭いため一度入れば簡単には出られない

塗り壁ヤミー「かかったなダス！」

ピョンッ！

麗羽「えっ！？」

塗り壁ヤミーはその巨体からは考えられないように飛び上がると

塗り壁ヤミー「メガ・スタンプ！！」

ズオォーッ！！

袁紹軍目掛けて倒れてきた。

袁紹軍『ぎゃーっ！？』

ドッシーン！！

あわれ逃げ場のない袁紹軍達は塗り壁ヤミーに潰されてしまった。

そして麗羽達というと

猪々子「あ…危なかったあゝ！？」

斗詩「もう少しで潰されてしまふところでしたね！？」

麗羽「そ…そうすわね！？（少しチビりましたわ！？）」

悪運高く何とか助かっていた。

ズズズッ…

そして塗り壁ヤミーは起き上がってまた道を塞ぐ

麗羽「こうなったら化け物には化け物ですわ、劉備軍の坊主さん出番ですわよ！」

オーズ「オーズだってば！」

ちなみにオーズのことについては連合軍に説明済みである。

麗羽「構図でも坊主でも構いませんわ！とにかくあの化け物を退治しなさい！でないと全員打ち首（首切り）ですわよ！」

もう総大将でもないような気がするのに大将ぶる麗羽

オーズ「まあ打ち首なんて嫌だし、相手がヤミーなら仕方がない！」

バッ！

オーズは塗り壁ヤミーに迫っていく！

オーズ「（アंकがないからメダルチェンジできないけど仕方がない！）」

その頃、アंकはというと

虎牢関

アंक「ちっ！連合軍がないじゃねえか！」

連合軍はみんな洛陽の城に向かったため虎牢関には誰一人としていなかった。

白蓮「はあ、まさか大将を置いて先にいくなんてな」

自分の軍にすら忘れられる残念な白蓮であった。

アंक「おいハム公！連合軍が行くとしたらどっちだ！」

白蓮「ハム？何を言ってるんだよもう戦いが終わったからみんな引き上げたんだろ？」

白蓮が言つと

アंक「バカかお前！もしそうならどっかですれ違っているはずだろうが！」

白蓮「あつ、そうか！だったらこの先にある洛陽の城かもな」

アंक「よしいくぜ！」

ダッ！

アंक達も洛陽の城目掛けて急ぐのだった。

アंक「（ガメルが復活しているなら好都合、奴のメダルは全ていただくぜ！）」

その頃、洛陽の城前では

オーズ「ぐはっ！？」

ドサッ！

オーズが塗り壁ヤミーに苦戦していた。

無理もない、オーズはさっきまで呂布と戦っていたため体力が少なくなっているのだ。

おまけに…

ガメル「オーズ、あいつは俺のコアメダルを二枚持ってる」

オーズ「何だって！？」

ガメルの言うように塗り壁ヤミーは体の中にゴリラとゾウのコアメダルを持っているのでパワーが増しているのだ！

オーズ「くそっ！メダルチェンジできれば倒せるのに！」

残念ながら今のオーズはアंकがいないためタカ、トラ、バッタのコアメダルしか持っていない

タトバコンボでは塗り壁ヤミーを倒せない、オーズがそう感じていると

ガメル「オーズ、俺いく！」

オーズ「えっ！？」

ガメル「俺が奴に突撃してコアメダル奪ってくる！」

オーズ「待てよ！？俺ですらもあいつの攻撃を受けたら大ダメージなんだぜ、コアメダルの少ないお前が行ったら消滅してしまうかもしれないんだぞ！？」

グリードは倒されても核となるコアメダルに傷が入っていないく、大量のセルメダルがあれば復活は可能なのだが核となるコアメダルが破壊された場合、復活は困難になるのだ。

ガメル「それでも行く！」

ダッ！

オーズ「ガメル！？」

ガメルはオーズが止めるのも聞かずに塗り壁ヤミーに突撃する。

ガメル「俺のコアメダル返せー！」

ドンッ！！

塗り壁ヤミー「うおっ！？」

ぐらりっ

ガメルの全力の突進に塗り壁ヤミーはぐらつくが

塗り壁ヤミー「生意気な奴めダス！」

ブオンッ！ ドガッ！！

ガメル「ぐほっ！？」

ズザザーッ！

塗り壁ヤミーの反撃の拳をくらいオーズのところまで吹っ飛ばされるガメル

オーズ「ガメル大丈夫かよ！？」

月「ガメルさん！？」

そして倒れたガメルの元にオーズと桃香達が駆けつけた。

ガメル「やっぱり俺じゃ奴に勝てない。だけでも…」

スッ！

ガメルは手を出すと

パッ！

ガメル「コアメダルは取り返した」

ガメルの手にはゴリラとゾウのコアメダルが握られていた。

ガメル「だけでも俺ももうヤバイ。オーズ、頼みがある」

オーズ「何だよ」

オーズがガメルに聞くと

ガメル「俺のコアメダル全てやるからあいつを倒してほしい！任せ
た」

スッ

ガメルはオーズにゴリラとゾウコアメダルを渡すと

ジャララーッ！

ガメルの体はセルメダルになった。

月「ガメルさん！？」

桃香「死んじやったの！？」

桃香達が怯えるなか

スッ

オーズはセルメダルの中からサイコアメダルを取り出すと

オーズ「セルメダルがあればガメルは復活できるよ。そのためにはあいつを倒さないとな」

オーズは塗り壁ヤミーを見ると

オーズ「ガメル、お前の頼みは絶対叶えてやるぜ！」

カチャカチャンッ！

キンキンキンッ！

オーズはガメルのメダルをオーズドライバーに入れ換えてスキャンさせると

ドライバー「サイ・ゴリラ・ゾウ」

ドライバー「サゴーズ・サゴーズ！」

ジャキンッ！

オーズはサゴーズコンボに変身した。

ちょうどその時

アंक「おいどうなってるんだよ！？」

アंकと白蓮が連合軍に合流した。

桃香「あっ！アंकちゃん」

愛紗「お前は今までどこにいたんだ！」

鈴々「アンコのお兄ちゃん、映司お兄ちゃんが新しい姿になったのだ！」

アンク「新しい姿だと？」

スッ

アンクがオーズを見てみると

アンク「あれはサゴーズコンボ！？あいついつの間にメダルを集めたんだ！？」

アンクはさっきまでの様子を見ていないので驚くばかりだった。

そしてサゴーズコンボに変身したオーズは

オーズ「うおーっ！」

ドンドンドンッ！！

ゴリラのようにドラミング（胸叩き）をすると

ぐらりっ

塗り壁ヤミー「えっ！？」

ズオンッ！！

塗り壁ヤミー「なっ！？」

塗り壁ヤミーの巨体が浮き上がった。

サゴゾコンボの能力は重力操作。ドラミングをすることによって周囲の重力を自由に操れるのだ。

ドカツ！ バキンッ！

塗り壁ヤミー「ぐほっ！？」

重力操作によって浮き上がった塗り壁ヤミーはどんどん崖に激突されていく

そしてオーズは小さないたずらとして

ズシンッ！

麗羽「きゃあっ！？」

バタンッ！

なかなか土下座をしてくれない麗羽に対して麗羽の重力を操り、無理矢理土下座させるのだった。

そしてオーズは

キンキンキンッ！

ドライバー『スキヤニングチャージ!』

止めをさすべくスキャンさせると

オーズ「ハッ!」

ビヨンッ!

高く飛び上がり

ズシンッ!!

降りてきた衝撃で地面に地割れを起こすと

ズシンッ!!

塗り壁ヤミー「ぐほっ!?!」

塗り壁ヤミーは地割れにはまり

ズズズッ!

塗り壁ヤミー「なーっ!?!」

そのままオーズに向かってくる。

オーズ「ハァー!?!せいやーっ!」

ドカンッ!!

そしてオーズは向かってきた塗り壁ヤミー目掛けて頭突きとフックパンチを繰り出した。

サゴーゾコンボの必殺技・サゴーゾインパクトを食らった塗り壁ヤミーは

塗り壁ヤミー「ぐえーっ!?」

ドッカーンッ!!

粉々に粉碎された。

ジャララーッ!

そして塗り壁ヤミーが倒されたことでセルメダルが辺りに散らばると

アंक「セルメダルはもらったぜ!」

スッ!

アंकがセルメダルを取ろうとするが

ガシッ!

アंक「何をしやがる!」

アंकは愛紗達に押さえつけられた。

シュンッ!

そしてオーズが映司に戻って

チャリンッ！

ガメルのメダルを見つめると

アंक「映司、それを俺に寄越せ！」

だが映司はアंकの言葉は聞かずに

スッ！

アंक「あっ！？」

サイコアメダルをセルメダルの山に投げ込んだ。

その瞬間

ズズズッ！

ガメルは復活を果たした。

ガメル「オーズ、何で俺を生き返らせた？」

ガメルが映司に聞くと

映司「だって俺達はもう仲間だろ、仲間なら助けるのは当然じゃん

」

ガメル「仲間：俺はオーズと月の仲間！俺、仲間ができて嬉しい！

「

月「ガメルさん」

桃香「仲間が増えて私も嬉しいよ」

ガメルが仲間になったことに喜ぶ桃香達だったが

アंक「ちょっと待ちやがれ！」

アंकが黙っていないかった。

アंक「映司、勝手にガメルを復活させやがって！セルメダルを弁償しろ！」

映司「悪かったってアंक！？あつちに帰ったらスペシャルアイスやるからさ！？」

アंक「帰る手段もわからねえのに誤魔化されるかよ！」

このあと、アंकをなだめるのに数時間かかってしまったという

20「塗り壁と願いと重量系」コンボ（後書き）

┌COUNTSMEDAL┐

現在オーズの使えるメダルは

タカ	2
トラ	1
バッタ	1
カマキリ	1
チーター	1
クワガタ	1
ライオン	1
クジャク	1
サイ	1
ゴリラ	1
ゾウ	1

21「猛進バイクと救出と不意打ち」

洛陽の城の前にいた塗り壁ヤミーを何とか撃破し、連合軍はいざ城内に入ろうとしたのだが

映司「あっちゃ！？」

桃香「あらら！？」

アंक「暴れすぎだバカが！」

何と洛陽の城に入る唯一の道が…

ボローン！

粉碎された塗り壁ヤミーの残骸が当たってしまい道が塞がれていた。

麗羽「あなた達のせいですわよ！責任とって城への道を開きなさい！」

さっき助けてもらった恩を忘れて劉備軍に命令をする麗羽

アंक「ちっ！あの馬鹿女め、恩を仇で返すような態度をとりやがって」

映司「まあまあアंक、今回は俺達が悪いわけなんだし瓦礫を退かそうよ」

ちなみにアंकはガメルを復活させたことについてはこの世界では

アイスが作れないので後でたくさんのごちそうを食べさせるということに約束した。

「アंक「瓦礫をどかさなければならないだろ。映司、ガメルをメダルに戻せ！」」

「シュッ！　パシッ！」

アंकが映司に投げたメダルを受けとる映司

映司「これはゴリラとゾウのメダル！？それにガメルをメダルに戻すってどういうことだよ！？」

映司がアंकに聞くと

アंक「決まってるだろ、サゴーズでこんな瓦礫をぶち壊すんだよ。こいつも使ってた」

「スッ！」

アंकはカンドロイドの入ったトランクから新たなカンドロイドを取り出した。

アंक「心配するな、瓦礫を退かしたらガメルを復活させて構わねえ、やつの力はずいぶん役に立つからな」

映司「（アंकのやつこの世界に来てから変わったな。前なら絶対復活させなかったのに）」

と口に出したらアंकに怒られてしまうので心の中で思う映司だっ

た。

しばらくして

ガメル「ふんっ！」

ジャララーッ！

ガメルがサイコアメダルに姿を変えると

映司「頼むよカンドロイド！」

プシュッ！

映司は新たなカンドロイドを起動させた。

ガチャンッ！

サイカンドロイド『ブホッ！』

新たなカンドロイド・サイカンドロイドはアニマルモードになると

ダッ！ カチャンッ！

トラカンドロイドのようにライドベンダーと合体し、

『ブホーッ！！』

サイライドベンダーへと変化した。

映司「合体した後で…」

カチャカチャンツ！

キンキンキンツ！

映司はメダルをオーズドライバーにセットしてスキャンさせると

ドライバー『サイ・ゴリラ・ゾウ』

ドライバー『サゴーズ・サゴーズ！』

ジャキンツ！

映司はいきなりサゴーズコンボに変身した。

メダルを入れれば好きに変身できるため別に最初がタトバコンボでなくても構わないのだ。

オーズ「ハッ！」

シュツ！

サゴーズコンボに変身したオーズはサイライドベンダーに飛び乗ると

『ブホッ…』

さっきまで暴れていたサイライドベンダーが急におとなしくなった。

サイライドベンダーはトライドベンダーと同じようにサゴーズコ

ンボでの体力消費をおさえることができるのだ。

アंक「よし、愛紗達はサイライドベンダーのすぐ後ろからついてこい！遅れたら取り残されるぞ」

桃香達『？』

桃香達は？を浮かべるがここはアंकの言う通りにすることにした。

アंक「よし、ぶっ飛ばせ映司！」

オーズ「わかったよ！」

ブルンツ！！

サイライドベンダーを運転するオーズはそのまま瓦礫に向かっていき

ドガガッ！！

ブルドーザーのように瓦礫を粉碎しながら突き進んでいった。

麗羽「これはチャンスですわ！皆さん、劉備軍が開けた道をいきますわよ！」

麗羽達はサイライドベンダーが開いた道を進もうとするが

ドッシャーンツ！！

開いた道は再び瓦礫で塞がれていた。

麗羽「これはどうなってますの!？」

猪々子「どうやらあたいた取り残されたみたいですよ」

斗詩「劉備軍に一杯食われましたね」

実はアंकは初めから砕いた瓦礫で再び道が塞がれるのを計算に入れていた。

そのため桃香達と一緒に進ませ、瓦礫の被害が一番少ない後ろを歩かせたのだった。

洛陽の城・目前

ドッゴンッ!!

瓦礫の中をサイライドベンダーが現れた。

アंक「どうやらうるさい女（麗羽）をまいたようだな」

オーズ「でもいいのかよ連合軍を置いて!?」

アंक「あの馬鹿（麗羽）だけならともかく曹操と雪蓮は何とかなるだろうよ」

ちなみに今この場にいるメンバーは

映司、アंक、愛紗、桃香、鈴々、朱里、雛里、月、星、恋、ガメル、翠の12人である。

そしてオーズは変身を解いて映司に戻り、ガメルを復活させると

映司「それじゃあ皇帝を助けに出発！」

全員『おおーっ！！』

全員で城内に侵入するのだった。

洛陽の城・城内

愛紗「しかし静かな城ですね、いつもならば屑ヤミーが出てくるというのに」

実は城内に入ってからまだ一度も屑ヤミーに出くわしていないのだ。

星「敵も我々に恐れを抱いてきたのだろう何にせよ楽に進められるのだからいいではないか」

朱里「でも油断しちゃダメですよ。早く人質を救出するためにもふたてに分かれた方がいいですね」

皇帝兄弟とねねが捕らわれていると思われる玉座の間は城の上部、詠と華雄がいる地下牢は城の下部にあるので確かにふたてに分かれた方が得策である。

映司「だったら多分玉座の間は絶対皇帝兄弟を奪われないためにも強いやつがいるかもしれないから玉座の間には俺とアंकと愛紗と朱里と桃香と皇帝の顔を知っている董卓さんでいいね。残りの六人（鈴々、星、翠、恋、雛里、ガメル）は地下牢の方を頼むよ」

映司が行き先を伝えると

全員『了解！』

バツ！

全員が納得して散っていった。ちなみに桃香を映司組に入れたのは入れないところりついてくるという映司の考えである。

地下牢

屑ヤミー「ギギーッ！」

ズラリッ！

この地下牢にはたくさんの屑ヤミー達が詠と華雄を見張っていた。

詠「霞と恋は大丈夫かしら？逃げた月もあいつらに捕まってなきやいいけど」

華雄「くそっ！この手枷（てかせ・巨大な手錠のようなもの）さえ外れればあんなやつらなんて！」

前に月を逃がされたことがあったので詠と華雄には手枷がはめられていた。

屑ヤミー「もうお前達はお終いだ！この世はラグル様のものになるのだ！」

屑ヤミーが詠達に話していると

？「それは無理な話だ」

屑ヤミー「なにっ！？」

くるっ！

後ろから声が聞こえ屑ヤミーが振り返った瞬間

ザクッ！

屑ヤミー「ぐえっ！？」

屑ヤミーは槍に突き刺された。

星「油断大敵だな」

屑ヤミー「なぜここに！？他のやつらはどうした！？」

屑ヤミーがくたばりながらも聞くと

鈴々「他のやつらはすべて倒したのだ！」

バァーンッ！

周りは鈴々達に倒された屑ヤミー達で埋め尽くされていた。

恋「…詠、華雄助けに来た」

恋が牢屋にいる二人に話しかけると

詠「恋！？よかった、催眠が解けたのね！」

華雄「しかし回りのやつらは連合軍のようだが」

華雄が鈴々達を見つめると

恋「…大丈夫、みんな恋の仲間」

翠「董卓も無事だぜ」

翠が言うと

華雄「董卓様が無事だつて！？よかった」

月が無事なのを聞いて安心する華雄

詠「そんなことより早くここから出してよ！鍵ならそいつが持っているからさ」

スッ

詠は屑ヤミーを指差すが屑ヤミーはみんな同じ姿をしているので見つけられるわけがない。（まだウォーリーを探せの方がマシ）

こんなたくさん屑ヤミーの中から鍵を持ったやつを見つけるのも時間の無駄なので

雛里「ガメルさんお願いします」

ガメル「任せる！」

詠「誰よこいつ！？」「

詠はガメルの姿に驚くが説明している時間がないので

ガメル「ふんっ！」

ガシッ！

ガメルはさくを掴むと

ガメル「ふんぬーっ！」

ぐにやりっ！

怪力でさくを広げて通り道を作った。

詠「なんて怪力なの！？さくは鉄でできているのに！？」「

華雄「私だって本気を出せばあれくらい……」

翠「そんなことより早く逃げようぜ！」

詠「ちょっと待ちなさいよ！月はどうするのよ！？」「

詠が言つと

星「それは心配無用だ。董卓には我が軍最強のものが一緒にいるからな」

詠「はっ？」

いまいち理解できない詠だったがこのあと無理矢理担がれて（かっがれて）運ばれるのだった。

一方玉座の間では

月「この先が玉座の間です！」

映司達はようやく玉座の間にたどり着いた。

桃香「このお城広いし迷いそうでまるで迷路だよ！？」

愛紗「桃香様、この城は万が一敵が来ても大丈夫なようにできているですよ」

朱里「案内役の董卓さんがいなかったら迷子になっていましたね」

アंक「こんなときにのんきな会話をしやがって映司、先にメダルを渡しておくから変身しとけ！」

スッ

映司「わかったよアंक」

カチャカチャンッ！

キンキンキンッ！

アंकからメダルを受け取った映司がメダルをオーズドライバーにセツトしてスキャンさせると

ドライバー『タカ・トラ・バッタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ!』

ジャキンッ!

映司は仮面ライダーオーズに変身した。

オーズ「それじゃあいくよ!」

ドンッ!

そして映司達が武器を前にして玉座の間に突入すると

桃香「あれっ?誰もいないよ?」

朱里「てっきり敵が待ち伏せているかと思っていましたけど」

確かに敵の姿はなかったが

?『ンーンッ!!』

玉座の間の椅子に誰かが猿轡(さるぐつわ)・声を出させないようにする道具(もぐ)をつけられて縛り付けられていた。

月「あれは劉弁様と劉協様!?!それにねねちゃん!?!」

縛られていたのは人質であった皇帝兄弟とねえだった。

愛紗「これはひどいことを」

桃香「今すぐ猿轡をほどきますからね」

ダッ！

そして桃香が三人に近付いたとき

バツ！

桃香の上から何かが降りてきて桃香に襲いかかろうとする。

オーズ「桃香、危ない！？」

ドンッ！

桃香「きゃっ！？」

オーズは桃香を突き飛ばすと

ザシュッ！

オーズ「ぐはっ！？」

桃香の代わりに攻撃を食らってしまった。

愛紗「映司殿！？」

朱里「まさか上に潜んでいたなんて!?」

上からオーズを襲ったものの正体は

「やはり網切と塗り壁は負けてしまったか、役立たずな奴らめ！」

バンツ！

牛の頭に背中には蜘蛛くもの脚をはやした牛鬼ぎゅうおにヤミーだった。

牛鬼ヤミー「俺は他の二人とは違うぜ！」

オーズ「くっ!?」

不意打ちを食らってしまったオーズだがヤミーと戦えるのはオーズしかない

22「牛鬼と猛毒と爬虫類コンボ」

皇帝兄弟を助けに洛陽の城に突入した映司達

そして映司達はふたてに分かれて詠と華雄、皇帝兄弟とねねを救いにいこうとする。

鈴々、星、翠、恋、雛里、ガメル率いる部隊は詠と華雄を救出することに成功。

そして映司、アंक、愛紗、桃香、月、朱里の部隊は皇帝兄弟とねねを助けに玉座の間へとたどり着いたが三人の姿はあったものの敵の姿はどこにも見えない。

これなら楽勝とばかりに桃香が三人に近づいたとき上に潜んでいた牛鬼ヤミーが桃香を襲うがオーズが何とか庇う（かばう）！だがオーズは牛鬼ヤミーの不意打ちを食らってしまった。

オーズ「ぐっ！？」

牛鬼ヤミー「フフフッ！俺の一撃は効いたようだな！」

キラリンッ！

牛鬼ヤミーの背中にある八本の蜘蛛の脚は一振りしただけで鋼鉄を切り裂く一撃である。常人ならば真っ二つになっているがオーズの装甲のおかげで真っ二つは避けられていた。

だが重傷なのには変わらない。背中を切りつけられてうまく動けな

いオーズ

アंक「映司、メダルを変える！」

シュッ！ パシッ！

オーズ「サンキューアंक！」

カチャカチャンッ！

キンキンキンッ！

ドライバー『タカ・ゴリラ・バッタ』

ジャキンッ！

オーズはタカゴリバにコンボチェンジした。これにより背中への傷は無くなったがダメージが消えたわけではない。

オーズ「ハアーツ……！」

オーズは手を後ろに構えると

オーズ「せいやーっ！」

ドッゴーンッ！！

両手に構えたガントレット状武器ゴリバゴーンを飛ばして相手にぶち当てる（要するにロケットパンチ）バゴーンプレッシャーを牛鬼ヤミーに食らわせようとする。

牛鬼ヤミー「そんなものが効くか！」

ガキンツ！

だが牛鬼ヤミーに弾かれてしまった。

アंक「不味いな、ダメージがある分オーズのパワーが落ちてやがる！？」

不意打ちを食らったせいでオーズは力を100%出しきれていないのだ。

アंक「だったらこいつを使え！」

シュツ！　パシツ！

アंकはオーズにメダルを渡す。

カチャカチャンツ！

キンキンキンツ！

ドライバー『タカ・クジャク・バツタ』

ジャキンツ！

今度はタカジャバにコンボチェンジするオーズ

オーズ「くらえっ！」

ドドドンッ！！

今度は左腕につけられている武器タジャスピナーから火炎弾を発射するオーズ

牛鬼ヤミー「ちっ！」

カカカンッ！！

弾かれたものの威力は衰えていない。

オーズ「ならば決めてやるぜ！」

スッ…

オーズは必殺技を発動させようとするが

ドクンッ！

オーズ「急に目眩めまいが！？」

アंक「どうした映司！？」

よろめくオーズをアंकが不思議がると

牛鬼ヤミー「いい忘れていたが俺の蜘蛛の脚には遅効性の猛毒が塗られている。ほっておいてもお前は直に死ぬが…」

ドンッ！！

オーズ「ぐえっ！？」

牛鬼ヤミーはオーズにのし掛かると

牛鬼ヤミー「お前は俺の手で殺してやるぜ！」

ドカカツ！！

オーズ「ぐほっ！？」

のし掛かった牛鬼ヤミーはオーズにマウントパンチを繰り出しまくる。

アंक「ちっ！たとえ牛鬼ヤミーを振り払ったとしても毒を消すようなメダルはない！？」

たとえ今、コンボ等をしてのし掛かった牛鬼ヤミーを振り払ったとしても牛鬼ヤミーの猛毒でオーズは死んでしまうのでアंकは援護ができないでいた。

そんなとき

ブチッ！

月「劉弁様、劉協様、ねねちゃん大丈夫ですか！？」

月達は捕らわれていた皇帝兄弟とねねの縄を切っていた。

ねね「ぷはっ！苦しかったです」

劉弁「おお董卓よ！助けに来てくれたのか」

劉協「それにしてもあの黒い男は^{オース}何者なのじゃ！？」

月「あの人はオースといって私達の強い味方なんです。今では連合軍の皆さんも味方なんですよ」

月が説明すると

劉協「兄上、さっきのオースが入れ換えていた硬貨をどこかで見ませんでしたか？」

劉弁「そういえば確かここに…」

スッ

劉弁は懷から木箱を取り出して

パカッ！

蓋^{ふた}を開けると

キラッ

そこには三枚のコアメダルがあつた。

朱里「これはコアメダル！？」

桃香「これをどこで手にいれたんですか！？」

劉弁「英国の皇子から友好の証にと変な笛と一緒にもらったのじゃ
イギリス」

この時代にイギリスがあるかどうかは西森は知りません。

愛紗「ともかくお借りします！」

スッ！

愛紗は箱からコアメダルを取り出すと

愛紗「アंक殿！」

アंक「なんだよ！」

スッ

愛紗「私があゝの怪物（牛鬼ヤミー）を引き付けておきますから映司殿にこれをお渡ししてください」

愛紗はアंकにコアメダルを渡すと

愛紗「その怪物！私が相手だ！」

ダッ！

アंक「おい待てよっ！？」

愛紗は青龍偃月刀を片手に構えて牛鬼ヤミーに向かっていった。

もちろん愛紗自身ヤミーに勝てるだなんて思っていない。ただ時間稼ぎをしたいのだった。

牛鬼ヤミー「んっ？」

そして牛鬼ヤミーが愛紗に気づいたとき

ズバッ！

牛鬼ヤミーは愛紗に切られた。

牛鬼ヤミー「この野郎！よくも俺の体に傷をつけやがったな！」

ダッ！

牛鬼ヤミーは標的をオーズから愛紗に変えて襲いかかる。

愛紗「そらそらこつちだ！」

ダッ！

だが愛紗の目的は牛鬼ヤミーをオーズから引き離すだけなので愛紗は逃げまくる。

そして牛鬼ヤミーがオーズからだいぶ離れると

アंक「受けとれ映司！」

シュッ！ パシッ！

アंकはオーズにメダルを投げる。

オーズ「このメダルは！？よしっ！」

カチャカチャンッ！

キンキンキンッ！

オーズはメダルを入れ換えてスキャンさせると

ドライバー『コブラ・カメ・ワニ』

ドライバー『ブラカア…、ワニ』

ジャキンッ！

オーズはブラカワニコンボに変身した。

オーズ「よしっ！体が動くぞ！」

ブラカワニコンボの能力は再生能力。生体強化物質・ソーマ・ヴェノムによって傷や毒を回復させるのだ。

そしてその頃、

愛紗「くっ！？」

牛鬼ヤミー「さて、もう逃げ場がないぜ！」

牛鬼ヤミーが愛紗を追いつめていた。

牛鬼ヤミー「死になっ！」

ブオンッ！！

牛鬼ヤミーが猛毒の脚を振り上げると

オーズ「ハッ！」

ドカツ！

牛鬼ヤミー「ぐえっ！？」

後ろからやって来たオーズの蹴りを食らってしまった。

牛鬼ヤミー「正義の味方が後ろから不意打ちしていいのかよ！」

オーズ「よそ見しているそっちが悪い！」

どっちが悪いのだろう？

牛鬼ヤミー「どうやって猛毒を解毒したのかはしらんがもう一度くらえ！」

シュシュッ！

牛鬼ヤミーは猛毒の脚をオーズに繰り出しまくる。

だが

オーズ「同じ手は二度も効かないよ！」

ガチンッ！

オーズは両手につけられたゴウラガードナーを合わせると

ガキガキンッ！！

牛鬼ヤミーの脚を防いだ。

ゴウラガードナーは合わせるによりゴースルデュオとなり
どんな攻撃も防ぐ盾となるのだ。

オーズ「せいやーっ！」

ブオンッ！！

ブチブチンッ！！

オーズはワニレッグの蹴りで牛鬼ヤミーの脚を切り裂いていく！

牛鬼ヤミー「よくも俺の脚を切りやがったなーっ！！」

バツ！

怒りの牛鬼ヤミーがオーズに向かってくる。

サッ！

キンキンキンッ！

ドライバー『スキヤニングチャージ』

オーズ「ハアッ…！」

シャーッ…！

オーズはスライディングしながら牛鬼ヤミーに迫ると

オーズ「せいやっ！」

ズバンッ…！

必殺技のワーニングライドを牛鬼ヤミーに食らわした。

牛鬼ヤミー「ぐほっ！？」

ドカツ！ バリンッ！

そしてぶっ飛ばされた牛鬼ヤミーは窓を割って外に出されると

ドッカーンッ…！

そのまま爆発していった。

そしてその後、爆発を見て連合軍が城にやって来たのだった。

22「牛鬼と猛毒と爬虫類コンボ」（後書き）

└ COUNTSMEDAL ┘

現在オーズの使えるメダルは

タカ	2
クジャク	1
ライオン	1
トラ	1
チーター	1
クワガタ	1
カマキリ	1
バッタ	1
サイ	1
ゴリラ	1
ゾウ	1
コブラ	1
カメ	1
ワニ	1

23「褒美と没収と逆恨み」（前書き）

前回までの三つの出来事

一つ、劉備軍が洛陽の城に潜入

二つ、ガメル達が詠達を救出する。

三つ、オーズが牛鬼ヤミーの不意打ちをくらい苦戦するが皇帝からもらったメダルで逆転する。

23「褒美と没収と逆恨み」

洛陽にて悪党董卓を名乗り悪さをしていたラグル一味

奴らは本物の董卓（月）だけではなく皇帝兄弟をも人質にとり袁紹（麗羽）を騙して反董卓連合を作り出し洛陽を攻めさせた。

だが洛陽に現れた網切、塗り壁、牛鬼ヤミーは連合軍（主にオーズ）の手により全滅し皇帝兄弟は救出され洛陽に平和が訪れたのだった。

そして洛陽の城・玉座の間

ズラリッ！

いまこの場所には各軍の代表者である麗羽、曹操（華琳）、孫策（雪蓮）、袁術（美羽）、公孫賛（白蓮）、馬超（翠）

月、賈馱（詠）、董卓軍の武将達

皇帝兄弟である劉弁と劉協

劉備軍である桃香、愛紗、鈴々、朱里、雛里、星、ガメル（人間態）、アंक、そしてオーズである映司が集められていた。

劉弁「皆のもの、集まってもらったのは他でもない。この度の戦いは朕（ちん・皇帝の使う一人称）達兄弟が人質になったばかりに起きたようなもの、朕達にも責任があると感じておる」

ぺこりっ

劉弁が頭を下げると

華琳「頭をあげてください皇帝陛下!？」

桃香「そうですよ。知らなかったとはいえ攻めこんだ私達も悪いんですから」

劉弁「じゃが朕は皇帝として皆に褒美を与えなければならぬ、まず劉備よ」

桃香「は…はいっ!？」

劉弁が桃香を呼ぶと

劉弁「お主達は朕達を助けてくれただけでなく怪物^{ヤミ}退治までしてくれた褒美として益州の土地とたくさんの兵達をやろう。益州の太守として益州を発展させるがよい」

劉弁が言うつと

桃香「え〜っ!?!土地なんてもらえませんよ!私達はただ当たり前前
のことはただけで!？」

桃香が褒美を断ろうとすると

映司「桃香、断っちゃダメだよ」

桃香「でも」

映司「素直に褒美を受け取らないと褒美をくれた人に恥をかかせることになるんだよ」

つまり桃香が褒美を受け取らずに断ると皇帝兄弟に恥をかかせることになるのだ。

それを思った桃香は

桃香「わかりました皇帝陛下。この劉備玄德、褒美を貰わせていただきます」

桃香の堅苦しい言葉に

アंक「ぷっ！あの能天気女があんな台詞を言うなんてな」

アंकが笑うと

桃香「あっ！アंकちゃんそれじゃあ私がいつもぽけーってしてるみたいじゃない！」

アंक「違うのか？それとちゃん付けするな！」

皇帝の前だというのにいつものような二人

普通このような態度をとると斬首されてもおかしくないのだが

劉弁「ほっほっほっ おかしな奴らじゃな」

笑って許す皇帝だった。

劉弁「董卓、お主らがやっていた悪党行為は偽者がやっていたため不問にする。だが洛陽が世間では連合軍の手に落ちた以上好きなところに行くがよい」

劉弁が言うつと

月「あのう劉弁様、どこに行ってもいいのなら希望があるのですがよろしいですか？」

劉弁「うむよかるう、どこにでも好きなところに行くがよい」

月「それでしたら…」

スッ

月は桃香の方を見ると

月「劉備様、私達を助けてくれたご恩としてあなた達の国・益州に入れてください」

桃香「えっ！？私は構わないけどいいの？」

月「はい。劉備様には助けてもらった恩がありますし今度は私が劉備様をお助けしたいんです」

月が言うつと

詠「月が行くならボクも行くわよ！」

恋「…恋も行く」

ねね「恋殿が行くのならねねも行きますぞ！」

華雄「もちろん私もな！」

次々と桃香に集まっていくなつて董卓軍だが

華雄「張遼（霞）、もちろんお前も来るだろう」

ところが

霞「悪いけどウチはいかへん、先客がおるからな」

スッ

そう言つて霞が見た先にいたのは

華琳「そういうことよ、張遼は私が先にもらったんだからね」

パンツ！

華琳であつた。

霞「ちゅーわけで今度会う時は互いに敵同士になるわけやからよろしゅうな」

華雄「そういうことなら仕方あるまいな」

恋「…霞と本気で戦うの楽しみ」

霞「ウチもや！あつ、それより映司はんちよつとええか？」

映司「何ですか？」

映司が霞に近づくと

霞「月つちのことは任せたで！（ボソッ）」

回りに聞こえないように映司に話すのだった。

映司「了解^{ボソッ}」

そして映司も回りに聞こえないように言うと

劉弁「それでは各軍の褒美についてじゃが…」

劉弁は迷惑をかけたといって他の各軍にも褒美を与えた。

翠率いる西涼軍と孫策率いる呉軍には大金を

白蓮率いる貧乏軍には食料を

美羽率いる袁術軍には蜂蜜を渡し

残るは麗羽と華琳の軍だけになった。

麗羽「（おーほっほっほっ！わたくしは連合軍の総大将だったので
すからもしかして將軍の地位がもらえるかもしれませんね）」

麗羽がまだかまだかと待っていると

劉弁「続いて袁紹」

とうとう麗羽の番がやってきた。

麗羽「はいはい」

麗羽が勢いよく立ち上がると

劉弁「お主には…」

麗羽「(ドキドキッ!?)」

麗羽がドキドキしながら待っていると

劉弁「褒美は一切なし、代わりにお主の地位と土地と財産をすべて没収じゃ」

麗羽「それはもう喜んで…ってええっ!？」

麗羽が驚いている間に

劉弁「袁紹の土地は曹操、お主がもらうとよい」

華琳「はっ!ありがとうございます陛下」

勝手に話が進んでいく

麗羽「ちょっとお待ちください陛下、何故わたくしには褒美がないばかりかすべてを取り上げるのですか!？」

麗羽が抗議すると

劉弁「何故じゃと？自分の胸に手を当ててみい！」

麗羽「胸ですか？」

ぽにゅっ

麗羽が自分の胸に手を当てると

麗羽「大きいすわね」

劉弁「馬鹿者！わからぬのならば教えてやるわ！」

劉弁「本来朕を守るべき立場のお主が偽者の口車にのったあげく連合軍を作り上げ、総大将の立場を利用し自分はなにもせずにも他のものにやらせてばかり！そんなお主にやる褒美なんて1元（げん・日本円で約10円）も無いわ！本来ならば斬首にしてもおかしくないのじゃぞ！わかったらとっと立ち去るがよい！」

劉弁の説教を聞きまくった麗羽は

麗羽「はい、わかりました」

素直に従う。ホントは麗羽だって逆らいたいのだが逆らったら斬首にされてしまうので言い返せないでいた。

劉弁「朕からの話は以上じゃ、皆のものはそれぞれ国に帰るがよい」

こうして長きにわたる反董卓連合は解散したのだった。

華琳「（あのオーズの力、絶対もらうんだからね）」

雪蓮「（あの力があれば袁術なんて簡単にやつつけられるんだけどな〜）」

そして各軍は解散していく

桃香「そうか、翠ちゃんは帰っちゃうのか」

翠「ああ、この戦いのことを母様に話さなきゃいけないからな。でもいつか必ず益州にいくからその時はよろしくな！」

ダッ！

そして翠も去っていった。

映司「それじゃあ俺達も益州に行かなくちゃね」

鈴々「楽しみなのだ」

星「うまいメンマがあるとよいのだがな」

愛紗「お前達！我々は遊びに行くわけではないのだぞ！」

詠「ねえ月、ホントにこいつらについてよかったの？何だか不安を感じるんだけど」

月「大丈夫だよ詠ちゃん、みんなとっても優しい人達だからさ」

ガメル「俺も月と一緒にいれて嬉しい」

そして桃香達一行は益州に向かうのだった。

さてその頃、

とぼとぼ

とある道を行く宛のない麗羽達が歩いていた。

猪々子「麗羽様、これからどうするんすか？」

斗詩「土地も財産もお城も兵達もみんな奪われちゃったからね」

いまの三人に残されているのはわずかな所持金と一着しかない鎧と服だけである。

斗詩「こうなったらどこかの城に仕えるしか道はありませんよ」

麗羽「冗談じゃないですわ！わたくしのような高貴な人物が何故人につかわれなくちゃいけませんの！」

プライドの高い麗羽が人に仕えるわけがなかった。

猪々子「このままじゃアタイ腹へって死んじまうよ。そうなら斗詩、あとは任せませ！」

斗詩「文ちゃん！そんな言い方やめてよ！私一人じゃ麗羽様の面倒

みきれないよ！
」

麗羽「どういことですの！！
」

三人がもめていると

？「すべてが憎いか？」
」

何処からか声が聞こえてきた。

猪々子「あつ！あそこに誰かがいますよ！？
」

すると猪々子が岩の上に誰かがいるのを見つけた。

岩の上にいたのは…

ラグル「何なら俺が手を貸してやるぜ！
」

バンッ！

ラグル（怪人態）であつた。

斗詩「あの怪物は何ですか！？
」

麗羽「どうやら洛陽に現れた怪物と関係があるようですけどどうですの！
」

麗羽が聞くと

ラグル「そんなことはどうでもいい！一つ聞くがお前は誰を憎んで

いる」

麗羽「えっ？」

ラグル「自分からすべてを取り上げた皇帝か？自分の土地を譲り受けた曹操か？それとも…こんな結末にした劉備か？」

この中から麗羽が選んだ答えは

麗羽「劉備ですわ！あの人さえいなければわたくしがこんなことになるはずがありませんでしたのに！」

完全な逆恨みである。

ラグル「俺もあのオースには因縁があつてな、よかつたら手を貸すぜ！」

ラグルが言つと

麗羽「了解ですわ！劉備をこてんぱんにできるのならば怪物の手でも借りなければいけませんからね！」

斗詩「麗羽様！？」

猪々子「簡単に決めちゃっていいんですか！？」

二人が抗議すると

麗羽「（お黙りなさい！このわたくしがあんなやつに仕えるはずがないでしょう。利用するだけ利用してあとはポイですわ）」

悪い性格である。

ラグル「では俺についてこい」

24「袁紹と同盟と復活のグリード」

ラグル「俺についてきたければしっかりと掴まりな」

そして麗羽達は

麗羽「こうなったらついていきますとも！」

猪々子「まあ麗羽様を置いとけないしな」

斗詩「今さら他のところにも行けないしね」

がしっ！ががしっ！

そして三人はラグルに掴まると

シュンツ！

麗羽達とラグルは消えてしまった。

そして現れた先は…

名もなき城

パッ！

ラグル「着いたぞ」

麗羽「えっ！？」

斗詩「ここは一体!？」

猪々子「あたい達さっきまで荒野にいたのに何で城の中にいるの!？」

三人が驚いていると

ラグル「お前達をあのお方に会わせるからついてこい」

猪々子「(どうするんですか麗羽様!?)」

斗詩「(あの人(?) 胡散臭い(うさんくさい) から信用できませんよ。逃げるなら今ですよ!)」

だが麗羽は

麗羽「(お黙りなさい! あの時物を利用するまでわたくしは帰りません。帰りたいなら二人で帰りなさい!)」

しかし麗羽を置いとけないし、ここがどこだかわからないので帰れない二人はしぶしぶ麗羽についていくのだった。

ラグル「何をもたしている! 早くついてこい!」

なかなか来ない三人にラグルが怒鳴る。

ラグル「(まったく、あのお方も何を考えているのだ? あんな馬鹿な女が何の役に立つというんだ?)」

実は麗羽達をつれてきたのはラグルではなくあのお方に命令されてつれてきただけであつた。

そしてラグルは三人を城の玉座の間のような場所につれていく。

ギーンツ！

扉が開いて中を覗いてみるとそこにいたのは…

左慈「この外史で会うのは初めてだったな袁紹」

バンツ！

ラグルのボスであり電王に倒されたはずの左慈だつた。

電王の外史で左慈は麗羽達をよく知っていたが、この外史の麗羽達は左慈を知らないのです

初めて左慈を見た三人は

麗羽達『ギーンツ！？』

ドドドオーツ！！

驚きながら逃げていった。

猪々子「見たかよ斗詩、緑色の変な液体の中に人がいたぜ！？」

斗詩「見た見た！おまけにその人の頭しかなかったよね！？」

左慈は電王に殺られた傷を癒すため特殊な液体に入り、現在殺られた衝撃で頭と上半身の一部しか再生できていないのだった。

麗羽「やはりここは化け物屋敷だったのですね！？さっさと逃げますわよ！？」

今さらながら麗羽達は逃げようとするが

スッ！

ラグル「どこへいく？」

前をラグルに阻まれた。

斗詩「いつの間に前へ！？」

猪々子「麗羽様、止まってくださいよ！？」

麗羽「おーほっほっほっ！急に止まれるわけないでしょう！」

三人は一列で逃げていたため

前にいた麗羽が

ドシンッ！！　　ミ

ラグルにぶつかると

ドシドシンッ！！　　ミ

ドミノ倒しのようにならから来た猪々子と斗詩もぶつかり合うのだ
た。

ラグル「世話の焼ける奴らだぜ」

スッ

そしてラグルは三人を担ぎ上げて玉座の間に行くのだった。

城の玉座の間

麗羽「お止めなさい！わたくしを殺したら全世界の人やこの小説を
読んでくれている人が泣きますわよ！」

そんな人がいるのやら？

ちなみに麗羽達は逃げられないよう柱に縛り付けられていた。

左慈「騒ぐな！別にお前を殺す気はない！お前の力が必要なだけだ
」

左慈が言つと

猪々子「斗詩、麗羽様に力なんてあつたか？」

斗詩「うーん、大きな声が出せるとか？」

左慈「そんなもんじゃない！お前は他にはない（欲望の）力の持ち
主だ。俺は仮面ライダーを倒したい、お前達はライダーと一緒にい
る劉備を倒したい。目的が同じならば手を組んでも互いに損はない

はずだ
」

左慈が言つと

麗羽「うふふつ、このわたくしの（天分（てんぶん・生まれつき持っている才能）の）力を見抜くだなんてなかなかいい目をお持ちですわね。いいでしょうこの袁紹、及ばずながら（力不足ですが）手を組んであげますわ！」

左慈「交渉成立だな
」

こうして悪の同盟が誕生してしまった。

猪々子「（ちよつと麗羽様！？）
」

斗詩「（あんな化け物みたいな人と手を組んでいいんですか！？）
」

二人が麗羽に言つと

麗羽「（お黙りなさい！今は相手を喜ばせておくのがいいに決まっていますわ。同盟を組む振りをしてこの場所を皇帝陛下に教えてあげれば…）」

（麗羽の妄想）

劉弁「なんじゃと！？洛陽を地獄にした一味の城を見つけたとな！？」
」

麗羽「その通りですわ皇帝陛下
」

劉弁「袁紹、よくぞ知らせてくれた。それに引き換え劉備は何をしておったのじゃ！」

桃香「スミマセン！？引つ越しに夢中だったので…」

劉弁「馬鹿者！ 罰として劉備にやった益州は袁紹に渡す！見事知らせてくれた袁紹には大將軍の地位をやるぞ！」

麗羽「ありがとうございます皇帝陛下」

桃香「ふえ〜ん！！」

「妄想終了」

麗羽「（ぐふふっ！わたくしは大將軍の地位がもらえ、劉備は領地没収。なんて輝かしい未来なんでしょう！おーほっほっほっ！）」

都合のいい妄想である。

だが世の中はうまくいかないものだ。

ラゲル「同盟の証としてこの腕輪をつける」

キラッ

ラゲルは箱からキラキラした腕輪を取り出すと

麗羽「ありがとうございますわ！」

カチャリッ！

さっそく腕輪をつける麗羽

麗羽「あなた達もつけなさい！」

猪々子「えっ！？」

斗詩「あっ！？」

カチャカチャリッ！

そして麗羽が無理矢理二人に腕輪をつけると

麗羽「あゝら、ちょっと厠トイレに行ってきますわ」

厠に行った隙に皇帝へ連絡しようとする麗羽だが

左慈「行くのは構わないが城の外に出るなよ！俺の許可なく城の外に出た場合、腕輪が爆発するからな」

左慈が言った直後

麗羽達「えっ！？」

驚く麗羽達

左慈「この腕輪は俺に対する忠義の証だ。つけたら絶対外れないし、無理矢理外そうとすれば爆発する仕掛けになっているんだよ。袁紹、特にお前は信用できないからな」

電王の世界で麗羽をよく知っている左慈だからこそ麗羽の性格を理解していた。

麗羽「そんな！？」

ガツクシ

計画通りいかずガツクリと頂垂れる（うなだれる）麗羽だった。

猪々子「だからあたいは嫌だと言ったんだよ」

斗詩「だいたい今まで麗羽様の妄想がうまくいったためしがないからね」

二人が言うつと

左慈「ではそろそろ準備をしろラグル！」

ラグル「了解です。おいつ、お前達も手伝いな」

麗羽「はあ？何でわたくしが…」

自分以外の命令は絶対聞かない麗羽だったが

ラグル「今すぐ死にたいらしいな（ギロリッ！）」

ラグルが麗羽を睨み付けると

麗羽「承知しましたわ！？」

ビュンッ！！

さすがの麗羽も強いものには逆らえないのだった。

そして麗羽達がラグルに言われて用意したものは

猪々子「変な硬貨だな？」

斗詩「こんなにたくさんどうするんだろっね？」

大量のセルメダルだった。

ラグル「それはな…」

スッ！ ジャララッ！

ラグルは手から数枚のコアメダルを取り出すと

ラグル「こうするのさ！」

ひゅんっ！

コアメダルをセルメダルの山に投げ入れた。

すると…

ゴゴゴッ…！！

ゴゴゴッ…！！

ゴゴゴッ…!!

投げ入れたメダルを中心にセルメダルが人型になっていき

ジャーンッ!!

セルメダルはそれぞれカザリ、ウヴァ、メズールの姿になった。

猪々子「どうなってんだよ斗詩!？」

斗詩「文ちゃん、私だってわからないよ!？」

果たして復活したグリード達はどうなってしまうのだろうか!？

そして今後の麗羽達の行方はいかに!？

24「袁紹と同盟と復活のグリード」（後書き）

オリジナルカンドロイド紹介

・サイカンドロイド

ライドベンダーと合体してサイライドベンダーになる。サイライドベンダーはサゴーズコンボでしか制御できない。

ヤミーファイル

・塗り壁ヤミー

巨大な体をし、体は相手を飲み込んだり押し潰すことが可能。怪力の持ち主

・牛鬼ヤミー

頭は牛、背中には蜘蛛の八本足を生やしたヤミー。蜘蛛の足は猛毒が塗られておりかすっただけでも致命傷になる。ゴリバゴーンと火炎弾を弾くほどの強敵

25 「復活の理由と鍛錬と信頼」

麗羽達を子分にしたラグル一味

そしてラグル達は大量のセルメダルを使ってカザリ達を復活させようとしていた。

ラグル「ただ復活させただけじゃあいうことは聞かないし、こいつらには腕輪の脅し（おどし）は効かなさそうだしな」

スッ！

ラグルは自分のコアメダル（オニ・テング・キュウビ）を一枚ずつ出すと

ラグル「受けとるがよい！」

シュツ！ スッ！

完全に復活される前にラグルは自分のコアメダルをカザリ達に入れた。

バンツ！

そしてカザリ達は復活したのだった。

猪々子「これって虎牢関に現れた怪物ガメルに似ているな！？」

斗詩「誰なんですか！？」

ラグル「そうだな、お前達には教えておこう。まず（ラグルから見
て）左にいるのは……」

ウヴァ「クワガタの顎状^{アゴ}の角、カマキリの鎌、複眼、外骨格、節足
的な突起に覆われたボディをもつ昆虫系怪人。考える前に行動する
単細胞

カザリ「トレッドヘア^{たてがみ}状に編まれたライオンの鬣、鋭い牙、トラ
のような縞模様^{しま}のボディを黒いパンクパッションで包んだ容姿をし
た猫系怪人。ずる賢い策略家

メズール「シャチを模した頭部、ウナギが巻き付いたようになった
首元、タコを模したマント、タコの吸盤状の脚部をしたグリードの
紅一点である水棲系^{すいせい}怪人。プライドが高い

ラグル「というわけだ」

斗詩「へ」

猪々子「なるほど」

麗羽「納得している場合じゃありませんわよ！こんな怪物達を産み
出してどうしようといっていますの！？」

ラグル「安心しろ。以前（オーズの世界）の記憶はあるが俺のメダ
ルの力によって俺と左慈様には逆らえないようになってる。（ホ
ントはガメルとロストアंकも復活させたかったができなかったか
ら仕方あるまい）」

何故ガメル達も復活させなかったのかというところとガメルは核となるコアメダルが無いと、ロストアंकはこの小説の時代設定がロストアंकが倒された後の話のためコアメダルが足りないためできなかった。（ロストアंकが倒された時にコアメダルを三枚破壊されたため）

ちなみにカザリ達のメダルは残りのメダル六枚（メズールは利用価値があるということで三枚はラグルが持っている）とラグルのメダルがそれぞれ一枚ずつ入っている。

ウヴァ「何故だか知らないが復活できたようだな」

メズール「ガメルの姿が見えないけどね」

グリード達が話をすると

カザリ「ところでさ、僕達を倒した君が何故僕達を復活させたの？」

「

ギロリッ！

カザリはラグルを睨み付ける。元々カザリ達はラグルによって倒されたのだ。

ラグル「簡単にいうならば戦力補給だ。お前達はこの俺と左様のために働くのだ」

ラグルが言つと

ウヴァ「何で俺達がお前達に従わなくちゃならないんだよ！」

メズール「絶対に嫌よ」

当然ながら働きを断るグリード達

ラグル「この世界にオーズも来ている。ガメルもオーズの味方についているといってもか？」

ピクンツ！

ラグルが言つとグリード達は態度が変わり始めた。

カザリ「そういうことなら話は別だよ。僕達の目的はオーズを倒すことだしね」

ウヴァ「貴様を倒すのはオーズを倒してからでも別にいい」

メズール「まさかガメルがオーズの味方になっていたとはね」

ラグルのメダルが入っているのも理由のひとつだがオーズを倒すという事で協力するカザリ達だった。

ラグル「こいつらは自由に使え！」

スッ！

と麗羽達を指差すラグル

麗羽「何ですって！何故わたくしがこきつかわれなくちゃ……」

麗羽が抗議しようとする

ラグル「嫌なら無理矢理外に出して爆発させるまでだ」

スッ

ラグルは麗羽達につけられた腕輪を一つ取り出すと

ラグル「こんな風にな」

ポイツ！

城の外に放り投げた。すると腕輪は城から出た直後：

ドッカーンッ！！

麗羽達『・・・！？』

見事に爆発していった。

ラグル「これで脅しじゃないことがわかっただろう。わかったら素直に従うことだな」

スッ

そしてラグルは去っていった。

猪々子「あのく麗羽様！？」

斗詩「私達とんでもない人に拾われたんじゃない？」

麗羽「これは夢に決まっていますわ！？そうでしょ！でなければわたくしが領地を没収されるわけがありませんもの！こんな夢なんてさっさと覚めなさい！」

ポカポカッ！

猪々子「麗羽様完全に現実逃避してるよ！？」

斗詩「気持ちはわからなくもないけどね」

ラグル達が暗躍を進めている頃、そんなことが起きているのも知らず益州に引越してきた映司達はというと

益州・執務室

桃香「ふえ〜ん！いくらやっても仕事が終わらないよ〜」

ズラリッ！

桃香の目の前には山のように積まれた仕事があった。

益州に引越してきて数日、町について詳しく知る必要があるということで人口、建物の位置、兵の確認、食料の数等を詳しく知らなければいけないのだが

愛紗「桃香様が悪いのですよ！毎日毎日、町の子供と遊んでばかりいるから」

桃香は朝は寝て、昼から起きて子供と遊び、夜は疲れて眠るという

毎日をおくっていた。

だがその間に桃香がやらなければいけない仕事が増え、今日中にすべてを終わらせなければならなくなったのだ。

愛紗「まったく、鈴々ですら時折仕事をしていましたのに！」

ちなみに他のみんなは数日分の仕事を終えて数日は休みになっている。

愛紗「それでは今日は私も休みなので休みますが桃香様は仕事を終えるまで部屋から出てはいけませんよ！」

桃香「部屋から出ちゃいけないって、^{トイレ}厠に行きたい時はどうするの！？」

愛紗「部屋の隅^{すみ}にお丸があるのでそれを使ってください！それでは」

バタンッ

愛紗が部屋から出ると

桃香「愛紗ちゃんの鬼ーっ！手伝ってくれてもいいじゃない！」

ちなみに映司や朱里と雛里は手伝おうとしたのだが愛紗から『甘やかしてはいけません！』と言われたのだった。

桃香「いいもんっ！勝手に遊びに行くんだから 鬼（愛紗）の居ぬ間に洗濯だよ」

鬼の居ぬ間に洗濯…怖い人がいない間にくつろぐこと

ガララーッ！

桃香は窓から前から作っておいた脱出用の縄はしごを降ろすと

桃香「バイバイ愛紗ちゃん」

縄はしごから逃げようとする桃香だが

ウホウホッ！！

桃香が部屋から出た途端騒ぎ出すゴリラカンドロイド。

桃香「えっ！？ちょっと静かにしてよ！？」

縄はしごから止めようとする桃香だが

ぐらりっ

桃香「へっ！？」

縄はしごは意外と難しく、足の力が均等でないと

シャーッ！！

桃香「あーっ！？」

ドッシーンッ！！ ミ

絡まったり落ちる危険があるのだ。

映司「んっ？今何か音がしたような気が？」

鈴々「そんなの気のせいなのだ！早く鍛練するのだ！」

映司「わかったよ鈴々」

カチャカチャンツ！

キンキンキンツ！

ドライバー『タカ・トラ・バツタ』

ドライバー『タトバ・タトバ・タトバ！』

ジャキンツ！

オーズ「それじゃあいくよ鈴々！」

鈴々「こいなのだお兄ちゃん！」

今日はヤミーとも戦えるようオーズを相手に訓練する武官だった。

華雄「しかしコンボチェンジなしでも勝てないとはさすがにオーズの力は強いな！？」

星「それもあるが強いのは映司殿だろう。手合わせすることによって強くなっているのがよくわかる」

恋「…映司は実戦で力をつける系」

そして鍛練していると

月「皆さん、お茶の用意ができましたので一休みしましょう」

月と詠がお茶を持ってきてくれた。だが二人の格好は…

詠「何なのよ、この格好は！」

パンツ！

今の二人の格好はメイド服だった。

オズ「俺の世界の給仕服だよ。いやー、俺がバイトしていたクス
クシエってところで給仕フェアをやっていたのが記憶に残っていて
よかったよ」

給仕服には違いないかもしれないが少しおかしい気がする。

月「でも私はかわいいから気に入ってます」

詠「ゆえ〜」

月が変わってしまつて落ち込む詠だった。

月「朱里ちゃんと雛里ちゃんとガメルさんも手伝ってくれたからお
菓子もたくさん作れましたよ」

朱里「お菓子作りは任せてください！」

雛里「映司さんが教えてくれたお菓子も作ってみましたよ」

ガメル「どれも美味しい」

鈴々「あーっ！ガメルのおじちゃんずるいのだ！鈴々も食べるのだ！」

そしてその頃、城の城壁では

ジャラッ！

アंक「あと手に入れてないのはメズールのコアメダルが、そしてラグルが持つ他のコアメダルもすべて俺が手に入れてやるぜ！だが、そのためには奴ら（愛紗達）の力が必要不可欠だから今の間だけでも利用させてもらうか」

アंकがそんなことをいつている影では

愛紗「（アंक殿、私はあなたが私達を利用しようだなんてとても思えない。いつかその考えが消えることを私は信じています）」

アंकを信頼する愛紗だった。

そして数時間後、

窓の近くに桃香が倒れているのを発見され、桃香は愛紗から説教を受けるはめになったという。

25「復活の理由と鍛錬と信頼」（後書き）

映司「劇場版 仮面ライダー×仮面ライダー フォーゼ&オーズ MOVIE大戦MEGAMAX 大ヒット公開中！（2011年12月11日現在）」

アंक「俺達オーズとフォーゼの活躍を見逃すな！」

ラグル「次こそは俺も映画に……」

ガメル「あんた小説オリジナルキャラだから絶対出ない」

26「謀反と増援と攻める袁紹」

映司達が益州に引越してから数ヶ月、大陸には様々なことが起きていた。

建業

ガキンッ！

七乃「きゃあっ！？」

ドシンッ！

美羽「七乃！？」

ぶっ飛ばされた七乃に近づく美羽。いま袁術（美羽）の所では孫策（雪蓮）が謀反を起こしていた。

雪蓮「さうて…」

ジャキンッ！

宝剣・南海霸王を美羽に向ける雪蓮

雪蓮「よくも今まで散々扱き使って（こきつかって）くれたわね袁術、覚悟なさい！」

ギロリッ！

雪蓮が美羽を睨み付けると

美羽「あわわ…妾^{わらわ}が悪かったのじゃ許してたもう!?」

じよろろゝ

お漏らしをしながら美羽は許してもらうつよう頼むが

雪蓮「ダメよ!よくも人を胸がでかいせいでぎっくり腰になっただなんて言ってくれたわね!」

美羽「ぴいっ!?」

この噂の発生源は蓮華である。(11話参照)

七乃「孫策さん待ってください!私の命は差し上げますからお嬢様の命だけは助けて…」

雪蓮「嫌よ!」

美羽「ならば妾の命をあげるから七乃は見逃してたもう!」

七乃「お嬢様!?」

美羽「七乃は妾にとって大事な人なのじゃ!」

七乃「お嬢様ゝ」

美羽「七乃ゝ」

ガバッ!

絆きずなの強い二人が抱き合うのを見た雪蓮は

雪蓮「仕方がない、あんなにか殺したってつまらないから殺しやしないわよ」

雪蓮は美羽達を許すのだが

美羽「（七乃の言った通りじゃのう！）」

七乃「（でしょう孫策さんなんて単純なんですから抱き合っていれば許してくれると思っていましたよ）」

と二人は思っていた。

だが世の中そんなに甘くはない！

雪蓮「よいしょっと！」

美羽「ふえっ？」

ひょいっ！

雪蓮は美羽を小脇こわきに抱えると

雪蓮「殺しはしないけど、今までの鬱憤うつげん払いに扱き使ってあげるわ
帰ったらお尻百叩きしてあげるから覚悟しなさい」

美羽「なっ！？」

これは計算外であつた。

美羽「百叩きは嫌なのじゃ〜！」

雪蓮「じゃあ、百叩きと首切りどっちがいい？」

美羽「うっ！？百叩きで…」

まだ百叩きの方がマシである。

この後、七乃も雪蓮に引き取られるのだった。

そして益州でも

翠「よっ！来たぜ桃香！」

翠が軍を率いて益州にやって来た。

桃香「来てくれたんだね翠ちゃん」

翠「ああ、母様が約束したんなら行ってこいって言ったからな。大量の軍馬を連れてきたぜ！」

ズラリッ！

愛紗「これで早く移動できるようになるな」

鈴々「さすがは翠なのだ！」

みんなが言っていると

？「（じゅっ）」

映司「えーっと、君は誰？」

翠に似た服を着た女の子が映司を見つめていた。

？「あなたが映司さん？」

映司「そっだよ」

映司が答えると

？「ふーん、お姉様は強いっていうけど見た目は弱そっだね」

翠「こらっ蒲公英！^{タンポポ}すまないな映司、こいつはあたしの義妹の馬岱
って言うんだ」

タンポポ「馬岱だよ真名はタンポポだよ。よろしくね」

翠「あたしが益州に行くって言ったらどうしてもついていくって言う
うもんだから連れてきちゃったんだ」

タンポポ「にししっ！だって連れていけないならこの間おねしょし
たことをおばさま（馬騰：翠の母）にバラすって言ったらお姉様顔
を真っ赤にして…」

タンポポが最後まで言おうとすると

ゴチンッ！ ミ

タンポポ「いた〜い！」

翠「余計なことをいうんじゃないよ！」

映司「あはは」

そんなこんなで楽しい毎日過ごしていた映司達は知らなかった。現在魏では大変なことが起きているのを！？

魏の国

華琳「真桜、例の物はできてる？」

真桜「ウチに任しといてや華琳様！いつでも使えまつせ！」

華琳は魏にやって来た李典（真桜）、楽進（凧）、于禁（沙和）を軍にいれて軍の強化をしていた。

そして真桜にあるものを作らせたのだ。

そんなとき

秋蘭「華琳様大変です！？」

秋蘭が慌てて華琳に向かってきた。

華琳「秋蘭、そんなに慌ててどうしたの？」

華琳が聞くと

秋蘭「我が国に敵軍が近づいています！？」

華琳「何ですって！？それで旗は誰の旗なの？孫策？劉備？」

ところが秋蘭が答えたのは

秋蘭「それが…袁なのです」

秋蘭が言うと

華琳「ハァ、秋蘭慌て損ね。領土も兵もない袁紹に対して慌てる必要なんてないわ」

華琳はまるで袁紹を相手にしていない感じだったが

秋蘭「それだけなら私だって慌てません！とにかく袁紹軍を見てく
ださい！」

華琳「は？」

秋蘭がそこまで言うので華琳は城壁から袁紹軍を見ると

華琳「あれは！？」

華琳は驚いた。何故ならば…

麗羽「おーほっほっほっ！このまま曹操さんをこらしめてやりなさい！」

ズラリッ！

櫓やぐらに乗った麗羽の回りにいた兵が屑ヤミーだったからである。

華琳「何であの馬鹿が化け物を率いているのかは知らないけど、我が国内に入った以上は敵とみなす！総員、戦闘準備をしなさい！」

魏軍『了解しました！』

ダッ！

魏の軍達は華琳に言われたように戦闘準備をする。

華琳「袁紹、領土を私に取られて向きになって私を攻めてきたのならたとえあなたが化け物を率いたとしても返り討ちにしてあげるわ！」

普通の兵より強い屑ヤミー相手でも麗羽に勝つ気の華琳。確かに屑ヤミーだけならば華琳が麗羽を返り討ちにしていただろう。ところが

ウヴァ「さっきからあいつ（麗羽）うるさいな」

カザリ「僕達を目立たなくするためとはいえあのおばさん（麗羽）に従う羽目になるなんて残念だよ」

メズール「仕方がないじゃない。あの馬鹿（麗羽）だけじゃ勝てないからお前達も行けて大将ラゲルに言われたんだからさ」

Bannon!

屑ヤミーの中に紛れて（まぎれて）ウヴァ達（人間態）がいたのだ。

ちなみにウヴァは緑のジャケットを着たオールバックの青年、カザリは黄色の上着を着た銀髪の青年、メズールは洋服を着た少女の姿をしている。

斗詩「まさか曹操さんと戦うことになるなんてね！？」

猪々子「いまの間だけあの化け物^{ラグル}にかけられた腕輪の爆弾は解かれているけどあたい達が裏切ったり逃げた途端に爆発するって言ってたからな！？」

用心深いラグルであつた。

そしていよいよ華琳VS麗羽の戦いが始まる。

26 「謀反と増援と攻める袁紹」（後書き）

この先を書くときと長引きそうなので戦いは次回になります。

27「激戦と秘密兵器と拐われた華琳」(前書き)

前回の三つの出来事

一つ、雪蓮が美羽を攻める。

二つ、桃香の元に翠とタンポポが合流

三つ、華琳の領内に麗羽が攻めてくる。

27「激戦と秘密兵器と拐われた華琳」

魏の城・玉座の間

この場所で突然攻めてきた麗羽を迎え撃つべく主要人物が集まり、作戦会議を計画していた。

華琳「まさか麗羽が化け物（屑ヤミー）を引き連れて我が領内に攻めてくるとはね!?」

さすがの華琳も予想外の展開に驚くしかなかった。

桂花「あの馬鹿（麗羽）は目的のためならたとえ悪魔に魂を売り渡してでも目的を達成しようという邪悪の塊なんですよ!」

数ヶ月の間、麗羽の所にいた桂花だからこそ言える台詞であった。

華琳「確かに桂花の言う通りね。稟、風、何か作戦はあるのかしら?」

あの反董卓連合以降で華琳の軍に新たな仲間達が加わった。

稟「我が軍の兵はおよそ10万、それに対して袁紹の軍は軽く見ても30万以上はいますね。数では絶対不利ですよ」

戦いの基本は兵数である基本通り言う稟だが

華琳「そうとは限らないわよ。数が多くたって一人が怯えれば恐怖は伝染するわけだしね」

以前の華琳だったら戦いは数だと言っていたが映司と出会い、その考えが変わってきていた。

華琳「ともかく、相手が袁紹だからといって化け物を率いているのだから油断しないこと！総員、配置について二度と袁紹が攻めてこないように叩き潰してやりなさい！」

魏軍『了解しました！』

ダッ！

華琳に言われてそれぞれが配置につく魏の將軍達

華琳「真桜、例の秘密兵器は状況次第で使いなさい！」

真桜「わかりました。任しといてください！」

この会話を聞いていた桂花は

桂花「（秘密兵器っていうと確か真桜には投石機を頼んでいたはず、それをいよいよ使う時が来たのね）」

そして華琳が指揮をとるため移動すると

秋蘭「お待ちください華琳様！」

秋蘭が華琳を呼び止めた。

秋蘭「相手が化け物ならば劉備軍の映司に助けを求めないのでか

？悔しいですが奴の力は強いですし…」

秋蘭が言うつと

華琳「確かにオーズの力を使えば化け物相手でも勝てる。けれども私はあいつに何度も貸しを作っているの、これ以上あいつに貸しを作るのはごめんだわ」

スッ！

そう言つて華琳は去つていった。

そして袁紹軍VS曹操軍の戦況はというと

？「でいやーっ！」

ドッゴーンッ！！

？「たあーっ！」

バッキーンッ！！

屑ヤミー達『ギイーツ！？』

屑ヤミーを相手に二人の女の子が巨大鉄球と巨大円盤を振り回して暴れまくっていた。

季衣「こいつら力がなくて弱いけど」

流琉「数が多いから大変だね！？」

二人が疲れている横では

霞「おりゃおりゃーっ！洛陽ではよくも操ってくれたなー！」

屑ヤミー達『ギイーッ！？』

ブオンッブオンッ！！

霞が飛龍偃月刀を振り回しながら屑ヤミー達を追いかけて回していた。

季衣「霞様すごいね！？」

流琉「まるで春蘭様みたいだよ！？」

いつもの霞ではないような気がして驚く二人

そしてその春蘭は

春蘭「くしゅんっ！誰かが私の噂をしているな」

大きくしゃみをしていた。

数で圧倒する袁紹軍を精鋭達で倒しまくる曹操軍だが

屑ヤミー達『ギギーッ！』

秋蘭「くそっ！倒しても次から次へと出てきてきりがない！？」

無限の数で攻めてくる袁紹軍に曹操軍は少しずつ数を減らされてき

ていた。

そして戦況を崖の上から見ている者達がいた。

風「ほほう、真桜ちゃん、我が軍は徐々に数を減らされて危機なのですよ。今こそ秘密兵器の出番じゃないのですか？」

頭に太陽の塔のようなものを乗せた軍師・風が言つと

真桜「そうやな」

スッ！

真桜は布がかけられた何かに近づくと

真桜「秘密兵器の出番やで！」

バサッ！

勢いよく布を外す真桜

そして布がかけられていたものの正体は…

ジャーンッ！

桂花「何なのよこれ！？」

桂花が驚く限りこれは指示させて作らせた投石機ではなかった。

桂花「ちよつとあんた！投石機を作ってたんじゃないの！」

桂花が真桜に言つと

真桜「それが：最初は投石機を作るつもりやったけど、大将から坊主^{イス}の話聞いてウチらが持っている硬貨が気になって調べてみたんや、そしてこの硬貨は物凄い力を秘めてるってことがわかって秘密兵器を作ったんや！」

スッ！

そして真桜はズボンから一枚の硬貨を取り出した。

この硬貨は真桜達三人が村を出る時に長老からもらったお守りである。

ちなみに真桜の硬貨にはドリルが描かれていた。

同じように風の硬貨には戦車が、沙和の硬貨にはジェット機が描かれていた。

真桜「そしてウチらの持つ硬貨と風の気によって完成した秘密兵器、その名も：^{メダルブラスター}眼打流武羅星や！」

ババンッ！

風「真桜、説明はいいからいくぞ！」

真桜「わかった。沙和、頼むで！」

沙和「任してなの」

じーっ！

沙和は戦況をじーっと見つめると

沙和「凧ちゃん、右に45度移動させるの！」

凧「了解！」

ググッ！

凧は沙和に言われた通りに向きを変える。

沙和「そこで良いなの！」

凧「承知した！」

ゴォーッ！！

ブラスターの操縦席にいた凧が気を溜めると

キィインッ！

ブラスターにセットされていた三人の硬貨が^{コアメタル}連動してどんどん凧の
気の力を強めていき

凧「発射！」

ドキューーーーッンッ！！

最後には巨大な光線を発射した。

ズガガーツ！！

屑ヤミー達『ギギイーツ！？』

シューツ！

ブラスターを受けて次々と消滅していく屑ヤミー達

真桜「ええで凧！そのまま消滅さしたれ！」

ところが

シューツ

いきなりブラスターが消えてしまった。

凧「ハアハア…少し休ませてくれ！？」

この秘密兵器は凧の気をエネルギーにしているため凧が攻撃をやめると消えてしまうのだ。

真桜「仕方ないなあ、少し休憩にしようか」

沙和「今の一撃でだいたい数万は倒せたなの」

秘密兵器がうまくいって喜ぶ三人

その頃、戦場では

春蘭「敵の数が減ったな！？」

秋蘭「真桜の秘密兵器がうまくいったのだろう」

霞「残りの奴らはウチらで蹴散らしたるで！」

季衣・流琉「おおーっ！」

残りのメンバーは気合いを入れて屑ヤミー達を蹴散らしていく！

袁紹軍本陣

麗羽「これはどういうことですか！？あの化け物ラゲルが『この戦いは必ず勝てる！』と言うから私自ら出陣しましたのに負けそうじゃありませんの！？」

猪々子「あの人そんなこと言ってたか？」

斗詩「確か『曹操を捕らえてこい！さもなくば腕輪を爆発させるぞ！』って脅されていたような…」

麗羽「お黙りなさい！屑ヤミーをつれていれば絶対勝てると思っていましたのにどうしてくれますの！」

一人で叫ぶ麗羽に

ウヴァ「叫ぶんじゃないやねえよ！うるさい奴め」

カザリ「この人を見ると人間って惨め（みじめ）だなんて思ってたく

るよ」

メズール「ラグルの言った通りね、このオバサン一人だったらこの戦いは負けていたわね」

その展開は読者も予想がついていただろう

ウヴァ「それじゃあそろそろ暴れるとするか」

カザリ「ラグルに従うような形で嫌だけど曹操を勝たせるわけにはいかないしね」

メズール「いくわよ！」

ズズンッ！

そして三人は怪人態に変身した。

麗羽「ひいつ！？」

猪々子「何度見ても不気味だぜ！？」

斗詩「怖いよ！？」

三人が驚いていると

ウヴァ「じゃあ俺達はいくからな！」

メズール「あんた達は祝勝の準備でもしときなさい」

カザリ「君達にはそれしかできないしね」

スッ！

そして三人は去っていった。

戦場

沙和「んっ！真桜ちゃん、敵陣から不気味な奴らが出てきたなの！

」

真桜「また化け物かいな。凧、一発お見舞いしたれ！」

凧「わかっている！ハアーツ！」

キインツ！

休憩を終えた凧が気を溜めると

凧「発射！」

ドキューーーーッ！

ブラスターをカザリ達目掛けて発射した。

だが

ウヴァ「こんなものに屑ヤミー共は殺られたわけか」

メズール「弱すぎね」

スッ！

ウヴァとメズールは構えると

ウヴァ・メズール『ハアッ！』

バチバチッ！ブシューッ！

ウヴァは雷を、メズールは水流をブラスターに当ててきた。

すると

シュンッ！

ブラスターは力負けして消えてしまった。

真桜「ウチの秘密兵器が負けた！？」

ブラスターを設計した真桜が驚いていると

カザリ「ウヴァ、メズール、僕は曹操を連れてくるから時間稼ぎお願いね」

ウヴァ「ちっ！わかったよ！」

メズール「ただし五分以内で帰りなさい！」

カザリ「わかったよ五分だね」

シュンツ！

そしてカザリは風のように消え去ってしまった。

魏の城

華琳「秘密兵器が打ち消されるなんて！？奴らは一体何者なの！？

」

城壁から戦場を見ていた華琳が驚いていると

？「僕達はグリード、欲望の怪人さ」

華琳「誰っ！？」

突然後ろから声が聞こえ、華琳が振り向いてみると

カザリ「はじめまして曹操さん」

バンツ！

そこにはカザリがいた。

華琳「あなた一体どこから来たの！？警備の兵はどうしたの！？

」

華琳がカザリに聞くと

カザリ「どこからって、もちろん玄関から入ってきたに決まってるじゃん。警備の兵なら弱すぎたから殺しちゃったけどね」

スッ！

カザリは一人の兵の首を華琳に見えるように見せる。

カザリ「君の仲間もこうなりたくなければ大人しくついてきてくれない。僕らの目的は君を拐う（さらう）ことなんだからさ」

カザリの言葉に華琳は

華琳「答えは…」

ギュッ！

華琳「いいえよっ！」

ブォンッ！！

華琳は死神鎌・絶を握りしめてカザリに斬りかかる！

だが

ドグボッ！！

華琳「がはっ！？」

カザリ「残念だよ」

華琳の攻撃がカザリにとどく前にカザリの攻撃が華琳の鳩尾みぞおちにヒットした。

ドサッ！

鳩尾をやられた華琳は気を失ってしまい

ひょいつ！

カザリ「これで任務完了つと」

カザリに担げられると

カザリ「さよならね」

ビュンツ！

そのままカザリにさらわれてしまった。

戦場

秋蘭「んっ！妙だな敵が下がりはじめている」

秋蘭は屑ヤミー達が下がっていくことに疑問を感じていたが

春蘭「ハッハッハッ！我々の力を恐れて逃げ出したのだろう！」

豪快に笑う春蘭だが

桂花「大変よ！？」

秋蘭「どうした桂花？」

春蘭「お前、真桜達と一緒にいたんじゃないのか？」

桂花が戦場にやって来た。

桂花「そんなことどうでも良いわよ！いま城の兵から聞いたんだけど、華琳様が奴らに拐われたんですって！？」

春蘭・秋蘭『なんだって！？』

桂花「こうなったら早くオースを呼び出すしかないわ！？急いで呼んできてよ！」

春蘭「それもそうだな！？いくぞ秋蘭！」

秋蘭「ああ姉者！」

ダッ！

そして華琳を助けるべく益州に向かう二人だが二人が去った後

桂花「フッフツ…！」

シュンツ！

桂花の姿がラグルに変わった。

ラグル「さあオースよ来るがよい！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6894x/>

仮面ライダーオーズ×真・恋姫†無双 映司とアंकと恋姫達

2011年12月17日21時47分発行